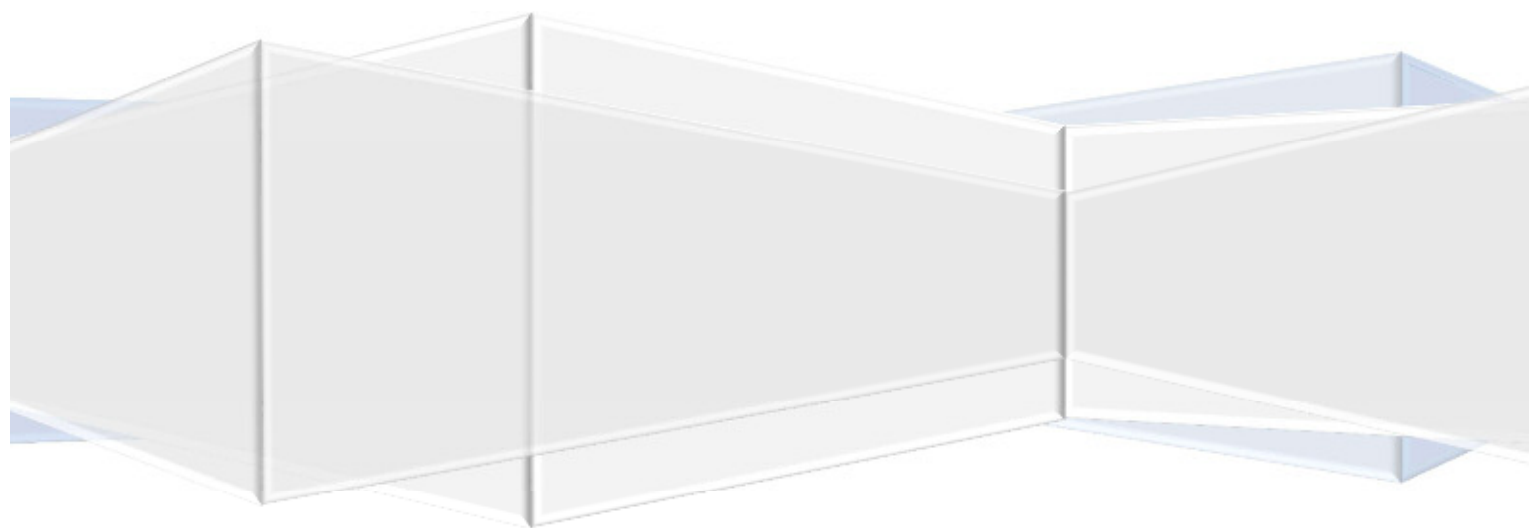


# 学校における 防災教育

～災害時に「自助」・「共助」が主体的に  
できる子どもを育てる防災教育カリキュラム～



さいたま市教育委員会

平成25年3月





## はじめに

平成23年3月11日に、東北地方を中心とする東日本大震災が発生しました。私たちが経験したことのない大震災により多くの方が亡くなりました。犠牲になられた方々のためにも、この震災の教訓を活かし、「危機を乗り越え、希望をはぐくむ教育の推進」をテーマとして、さいたま市の学校安全を一層充実させたいと考えております。

学校安全の活動は、児童生徒が自らの行動や外部環境に存在する様々な危険を制御して、自ら安全に行動したり、他の人や社会の安全に貢献したりできるようにすることを目指す安全教育と、児童生徒を取り巻く環境を安全に整えることを目指す安全管理、そして、両者の活動を円滑に進めるための組織活動という三つの主要な活動から構成されます。学校安全の領域としては、「生活安全」「交通安全」「災害安全（防災と同義）」の三つの領域が挙げられます。

このことから、防災に視点を当てた本カリキュラムは、防災に関する内容の学習及び指導を「防災教育」、防災に関する環境を整備する活動を「防災管理」、両者を円滑に進めるための組織活動を「防災に関する組織活動」ととらえて作成しました。


また、防災教育を教育課程に位置付けて、意図的に指導や訓練等を行うことにより、児童生徒に発達段階に応じた災害に対する「自助」・「共助」の態度や災害に関する知識を身に付けさせることができるよう、各教科等において防災教育に関連する指導内容を明確にし、系統的に指導をするために教育委員会が各学校に示している年間指導計画例とも整合を図っています。

各学校において、本カリキュラムを活用することにより、本市の児童生徒が、災害時に主体的に行動する力と支援者としての視点を持ち、安全で安心な社会づくりに貢献できる力を身に付けることを期待しております。

結びに、本カリキュラムの発刊にあたり、御多用の中、監修をいただきました明治大学危機管理研究センター所長 市川 宏雄氏、特任教授 中林 一樹氏に感謝申し上げます。また、関係者の皆様方の献身的な努力に、重ねて御礼申し上げます。

平成25年3月25日

さいたま市教育委員会教育長 桐淵 博



## 目次

### I カリキュラム編

1	本指導資料作成の背景	3
2	防災教育で児童生徒に身に付けさせたい力	4
3	さいたま市の学校における「防災教育」推進の構想	8
4	学校安全（防災）全体計画（例）	9
5	学校安全（防災）年間指導計画（例）	10
	（1）小学校	10
	（2）中学校	11
6	避難訓練における指導内容	12
	（1）避難訓練における事前指導内容	12
	（2）避難訓練における事後指導内容	13

### II 指導資料編

1	避難訓練実施計画例	17
	（1）小学校避難訓練計画例	18
	（2）中学校避難訓練計画例	22
	（3）避難訓練事後自己評価シート例	24
2	学習指導案例	25
	○小学校低学年	
	・ 道徳	26
	・ 生活	28
	・ 特別活動	32
	○小学校中学年	
	・ 道徳	34
	・ 社会	38
	・ 総合的な学習の時間	42
	・ 特別活動	44
	○小学校高学年	
	・ 社会	46
	・ 理科	48
	・ 体育	54
	・ 特別活動	60



○中学校	
・ 道徳	6 2
・ 社会	6 6
・ 理科	7 0
・ 保健体育	7 6
・ 総合的な学習の時間	8 0
・ 特別活動	8 4

### 3 ワークシート例 9 0

○小学校低学年	
・ 生活	9 1
・ 特別活動	9 3
○小学校中学年	
・ 道徳	9 4
・ 社会	9 6
・ 総合的な学習の時間	9 7
・ 特別活動	9 8
○小学校高学年	
・ 理科	9 9
・ 体育	1 0 0
・ 特別活動	1 0 3
○中学校	
・ 道徳	1 0 4
・ 社会	1 0 6
・ 理科	1 0 8
・ 保健体育	1 0 9
・ 総合的な学習の時間	1 1 2
・ 特別活動	1 1 4

### 4 参考 1 1 6

(1) 防災教育に関する指導内容	
ア 小学校	1 1 7
イ 中学校	1 1 8
(2) 放射線について	1 1 9
(3) 避難場所運営委員会について	1 2 1
(4) 参考情報等	1 2 2





# I カリキュラム編



- 1 本指導資料作成の背景
- 2 防災教育で児童生徒に身に付けさせたい力
- 3 さいたま市の学校における「防災教育」推進の構想
- 4 学校安全（防災）全体計画（例）
- 5 学校安全（防災）年間指導計画（例）
- 6 避難訓練における指導内容





## 1 本指導資料作成の背景

東日本  
大震災  
の教訓

この震災による全国的な被害は、死者・行方不明者約2万人であり、巨大津波により、重大な原子力事故も発生した。

児童生徒においては、地震の揺れによる災害で命を奪われた例はなかったが非構造部材による負傷者が発生し、地震後の巨大津波では、学校管理下においても犠牲者を出した。一方、日頃の教育や訓練が活かされ、児童生徒自らの判断で巨大津波から避難するとともに、その行動が地域住民を救った例も見られた。

本市においては、小学校校舎の一部が損壊するなどの被害が出たが、児童生徒全員が安全に避難することができた。

市教育  
委員会  
の取組

国の「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」中間及び最終報告では、防災教育の指導時間の確保と系統的・体系的な整理、避難訓練の実施による「主体的に行動する態度」の育成等の重要性が示されている。

これらと並行して、教育委員会では、平成23年3月11日の東日本大震災において明らかになった児童生徒の安全確保等の諸課題を解決するために、平成23年4月に「東日本大震災における児童生徒の安全確保等検証委員会」を設置し、検証した結果を同年8月に「震災時における児童生徒の安全確保等の暫定指針」として各学校に示した。平成24年6月には、「さいたま市地域防災計画」の改定を受け「震災時における児童生徒の安全確保等の指針」を策定した。また、震災時等における想定場面別の行動マニュアル「危機管理対応マニュアル作成指針」を作成するとともに「災害時安心つながるカード」の携帯や学校安心メールによる安否確認等の手立てを確立し、災害発生に備えることができるよう防災体制の一層の充実を図った。

しかし、国が重要性を示した、防災教育の系統的・体系的な指導については、さらに充実させる必要がある。

学校の  
取組

各学校においては、今までも学校安全全体計画を作成し、防災教育に取り組んできた。その成果として、東日本大震災の際にも、市内の児童生徒には身体的な被害はなかった。また、東日本大震災以後は、授業時間中に地震が発生すると、児童生徒が自主的に机の下に身を隠すなど、主体的な自助の行動が定着しつつある。

さらに、市内中学校の中には、地域に生きる生徒の育成を目指し、大学の研究機関との連携を生かして、災害時に「自助」のみならず、中学生としてできる避難場所運営の手伝いなどの「共助」についても実践的な防災教育を展開している学校もあり、市内にその成果を広げている。

## 2 防災教育で児童生徒に身に付けさせたい力

国の動向等を踏まえ、さいたま市教育委員会では、「学校における防災教育」で目指す子ども像を次のように設定し、その実現を目指して防災教育の一層の推進を図ることとした。

目指す  
子ども像

**「災害時に『自助』・『共助』が主体的にできるさいたま市の子ども」**

目指す子ども像に迫るために、各学校においては、本カリキュラムを参考にし、自校の防災教育の見直しを図り、災害時に、自らの判断で主体的かつ適切に行動し、自分の身を守るとともに、積極的に地域に貢献できる児童生徒の育成を目指す。



また、児童生徒の生活は、学校で過ごす時間よりも、家庭・地域での時間の方が長い。そこで、防災教育に関する各教科等の指導内容は、災害が様々な場所、時間で発生することを想定することとし、「共助」の具体的な判断に関する内容や家庭、地域との連携についても十分留意することとする。

本市で発生する災害については、主に地震、火災、風水害を想定している。しかし、東日本大震災では、国や自治体等の災害対応体制に対して想定外の自然災害及び原子力災害が発生したことや、公教育としては、市民・県民・国民としての「自助」・「共助」の態度を育成するという視点も大切なことから、火山活動、津波に関する知識を習得させるとともに、原子力災害についても触れることとした。

観点別の目標

さいたま市の学校における防災教育で目指す子ども像を具現するために、「自助」「共助」「災害に関する知識・理解」の観点から、3つの目標を設定した。

①災害時における危険を認識し、日常的な備えをおこなうとともに、状況に応じた的確な判断の下に自らの安全を確保するための行動ができるようにする。  
**(自助)**

②災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立ち、みんなと協力して地域等を守る備えと行動ができるようにする。  
**(共助)**

③自然災害の発生メカニズムをはじめとして、自然環境、災害や防災に関する知識を身に付け、防災に関して基礎的・基本的事項が理解できるようにする。  
**(災害に関する知識・理解)**



さいたま市の学校における防災教育で観点別の目標を達成するために、発達段階別目標と観点別指導内容を以下のように設定した。

発達段階別目標

① 自助

小学校  
低学年

◎教職員や保護者  
などの指示に従い、  
「自助」ができる児童

- 教職員や保護者などの指示に従って行動し、自分の身を守ることができるようにする。
- 身の周りの危険に気付くことができるようにする。
- 危険な状態を発見した場合には、教職員や保護者など近くの大人に連絡できるようにする。

小学校  
中学年

◎状況に応じて、  
的確な判断の下に  
「自助」ができる児童

- 危険を予測しながら、指示に従って行動し、自分の身を守ることができるようにする。
- 地震や火事が起きた際には、適切な避難行動をとることができるようにする。

小学校  
高学年

◎「自助」ができ、  
「共助」に努めること  
ができる児童

- 自分の判断で状況に応じた行動をとり、自分の身を守ることができるようにする。
- 災害の原因には、環境がかかわっていることを理解し、危険を予測し、自分の身を守ることができるようにする。

中  
学  
生

◎主体的に  
「共助」ができる生徒

- 日頃から校内や通学路、家庭、地域等に潜む危険を認識するとともに、災害発生時に自分の判断で状況に応じた行動をとり、自分の身を守ることができるようにする。
- 防災について理解し、日常から備えることができるようにする。



## ② 共 助

- みんなの安全のためにきまりや約束があることに気付かせる。
- 危険な状態を発見した場合には、教職員や保護者など近くの大人に連絡できるようにする。

※共助に関連する重点

- みんなの安全のためにきまりや約束を守って行動できるようにする。
- 危険な状態を発見した場合には、教職員や保護者など近くの大人に連絡できるようにする。

※共助に関連する重点

- みんなの安全のために、協力して行動できるようにする。
- 家族や身近な人々の安全にも気配りができるようにする。
- 緊急時の通報や、簡単な応急手当ができるようにする。

- 地域の方々と協力し、災害時に自分のできる仕事を見つけ率先して行動できるようにする。
- 環境の変化から、危険を予測し、みんなに知らせることができるようにする。
- 地域の防災や災害時のボランティア活動等の理解を深め、参加できるようにする。

## ③災害に関する 知識・理解

- 学校や地域に、安全を守る施設設備があることを理解させる。
- 災害時に、より安全に配慮して行動することを理解させる。
- 地震や火災時における避難の初期対応を理解させる。

- 地域の自然環境の特徴や、地域の防災に関わる人々のはたらきについて理解させる。
- 学校や地域に、安全を守る施設設備があることを理解させる。
- 災害時に、より安全に配慮して行動することを理解させる。

- 自然災害の現象と危険について理解させる。
- 日頃からの災害への備えについて理解させる。

- 自然災害の特徴、発生メカニズムや過去の災害について理解させる。
- 応急手当及びAEDを含む心肺蘇生法の知識を実践的に身に付けさせる。
- 避難所運営や、心と体のケアに関する知識を身に付けるとともに、地域の防災や災害時のボランティア活動等の大切さを理解させる。

### 3 さいたま市の学校における「防災教育」推進の構想

防災教育の観点から踏まえた安全学習と「避難訓練」を積極的に生かした安全指導を通して目指す子ども像に迫る。

安全学習  
の  
推 進

喫緊の課題として、すべての市立学校において、限られた時間で実施する教育課程の中に、指導時間を確保して防災教育を行う必要がある。そこで、すでに教育委員会が示している各教科等の「さいたま市立小・中学校年間指導計画例」の内容を踏まえた学校安全（防災）年間指導計画（例）を作成した。

市立小・中学校において各教科等で防災教育に関連する内容を指導するにあたっては、この年間指導計画（例）を参考に、災害発生時を想起させて「自助」・「共助」について考えさせる時間を設けるなど、防災教育に関する「自助」、「共助」、「災害に関する知識・理解」の3観点に基づく安全学習を意図的に実施する。

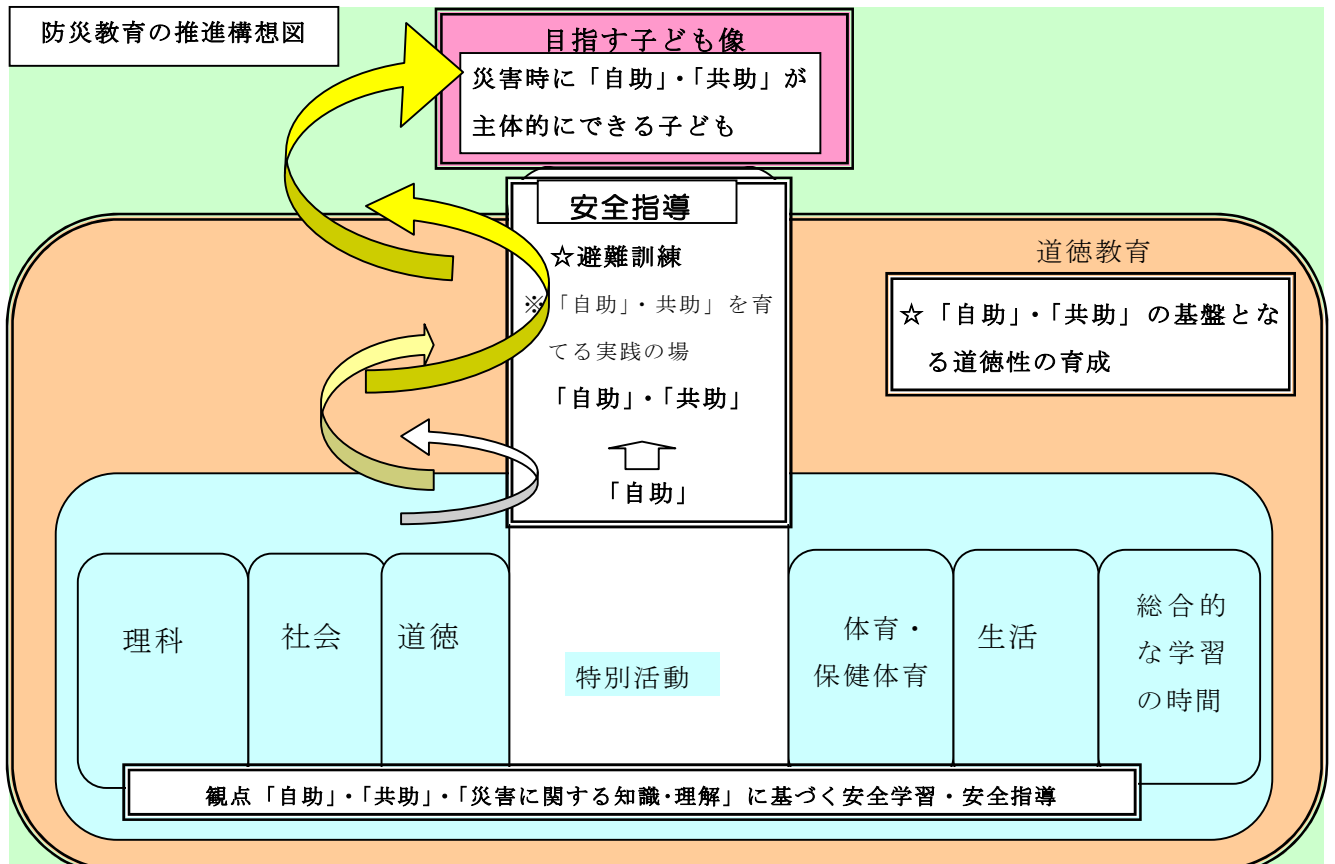
また、各学校においては、この年間指導計画（例）を参考にして、「自助」・「共助」の基盤となる道徳性について、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて計画的に育成する。

安全指導  
の  
推 進

各教科等において、防災教育に関連する内容の指導を計画的に推進するとともに、避難訓練を、「自助」・「共助」の態度を育てる実践の場として、より一層系統的に指導することにより、「災害時に『自助』・『共助』が主体的にできる子ども」を育成する。

そのために、小・中学校9年間を通して実施している避難訓練について、本市が推進している小・中一貫教育の視点から、「避難訓練における指導内容」を作成した。この指導内容を参考にして、意図的に事前・事後指導を行い「児童生徒に身に付けさせたい力」を育成する。

このように、小・中学校9年間を見据え、系統的・体系的に安全学習と安全指導を実施することにより、「災害時に『自助』・『共助』が主体的にできる子ども」を育成する。



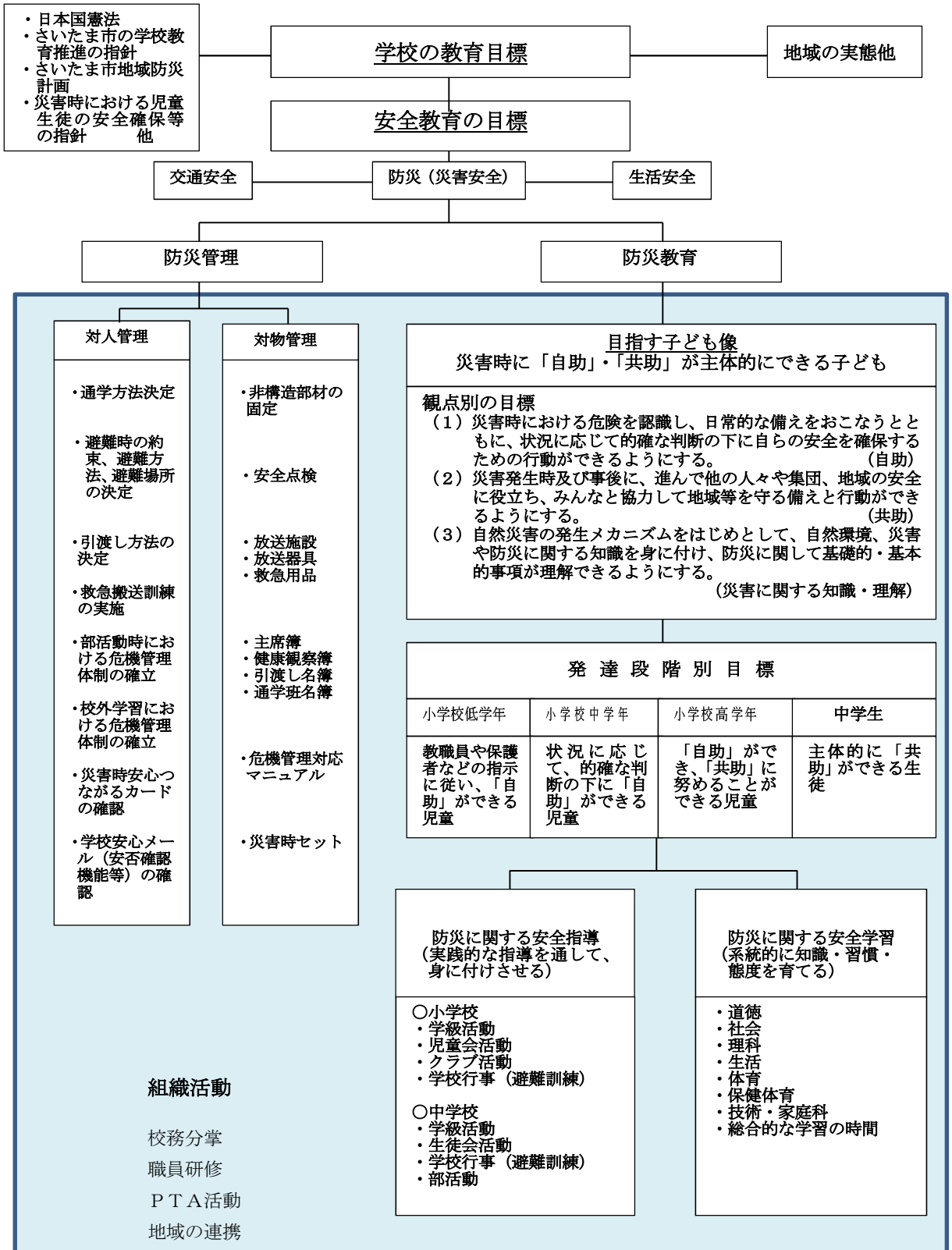
# 4 学校安全（防災）全体計画（例）

全  
体  
計  
画

全教育活動を通して、組織的・計画的に防災教育を実施する。

## 平成〇〇年度 防災教育全体計画（例）

さいたま市立〇〇小（中）学校



## 5 学校安全（防災）年間指導計画（例）

### （1）小学校

○ 1 単位時間程度の指導

・ 短い時間の指導

P○○ 指導計画例掲載頁

項目		学期		1 学期	2 学期	3 学期	
道徳				○1-(1) 自主自律 ○2-(2) 思いやり、親切（3年）P34 ○4-(2) 勤労（4年）P36【低・中】	○3-(1) 生命尊重 ○4-(4) 勤労【高】	○4-(5) 公共の福祉 ○4-(1) 公德心（1年）P26	
安全 学習 教育	社会			○学校のまわりのようす（3年）P38 特色ある地形、主な公共施設の場所と働きに関心をもち調べる ○火事をふせぐ（4年）P40 人々の安全を守るための関係諸機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考える		○自然災害を防ぐ（5年）P46 我が国の国土では様々な自然災害が起りやすいこと、その被害を防止するために国や県が様々な対策や事業を進めていることがわかる ○わたしたちの生活と政治（6年） 災害から人々を守るための政治の働きや町の活性化を図る市の取組を知る。	
					○台風と天気の変化（5年）P48 台風による災害に対する備えや情報活用の重要性に気づく ○流れる水のはたらき（5年）P50 川の水の速さや量が変わると土地の様子が大きく変化する場面があることをとらえる ○大地のつくりと変化（6年）P52 大地は地震や火山の噴火などによって変化することをとらえる		
	生活				○がっこうだいすき（1年）P28 学校の施設の様子や学校生活を支えている人に気づく 通学路の様子やその安全を守っている人々に関心をもち	○もっとなかよし町たんけん（2年）P30 自分たちの生活は地域の人々や場所とかかわっていることや、自分たちの住む町のよさに気づく	
	体育				○集団行動【全】 ○着衣泳←参考（5・6年）P58	○けがの防止（応急手当、AED）（5年）P54、P56	
	総合的な学習の時間				○わたしの町の安全パトロール＜地域＞（3年）P42	○バリアフリーについて考えよう＜福祉＞（5年） ○私たちの地域は私たちが守ろう＜環境＞（6年）	
	安全 指導 （※1）	学級活動	低	・安全な登下校（1・2年） ・安全な避難の仕方（避難訓練の事前指導）		○学校で火事が起こったら（2年）P32	
中			・安全な登下校（3・4年） ・安全な避難の仕方（避難訓練の事前指導）		○休み時間に地震が起こったら（4年）P44		
高			・安全な避難の仕方と日常の備え（避難訓練や煙体験の事前指導）（5・6年）		○家にいる時に大きな地震が起こったら（6年）P60		
児童会活動		代表	・「安全で楽しい夏休みの過ごし方」に関する啓発活動（児童朝会等）	・「安全で楽しい冬休みの過ごし方」に関する啓発活動（児童朝会等）	・「安全で楽しい春休みの過ごし方」に関する啓発活動（児童朝会等）		
	各委員	・運動委員会による安全点検活動（校内・校庭）					
	学校行事	・緊急地震速報を活用した避難訓練（地震の後、火災発生） ・避難行動 避難経路 避難場所、防災頭巾の使い方		・緊急地震速報を活用した避難訓練及び引渡し訓練 ・引渡し方法の確認	・緊急地震速報を活用した避難訓練（予告なし） ・学校公開日での緊急地震速報を活用した避難訓練		
安全管理	対人管理		・通学方法の決定 ・避難時の約束、避難方法、場所等の決定 ・引渡し方法の決定 ・応急手当（担架、AEDについて） ・救急搬送訓練の実施 ・校外学習における危機管理体制の確立 ・災害時安心つながるカードの確認		・避難時の約束、避難方法、場所等の確認 ・引渡し方法の変更等確認	・避難時の約束、避難方法、場所等の確認 ・引渡し方法の変更等確認 ・1年間の人的管理の評価と反省 ・災害時安心つながるカード点検	
	対物管理		・通学路の確認 ・安全点検年間計画の確認 ・緊急地震速報の音源発信確認 ・非構造部材等の安全確認 ・防災倉庫の備品の確認 ・AED等の点検		・通学路の安全点検 ・諸設備の安全点検（避難所） ・緊急地震速報の音源発信確認 ・非構造部材等の安全確認 ・AED等の点検	・通学路の安全点検 ・諸設備の安全点検（避難所） ・緊急地震速報の音源発信確認 ・非構造部材等の安全確認 ・AED等の点検	
防災に関する組織活動（研修含む）		・危機管理体制に関する研修 ・学校安心メール一斉送信 ・普通救命講習Ⅰ等 ・搬送訓練		・地域パトロール ・防災に関する研修（避難所、防災倉庫等を含む）	・過去の大震災の想起と防災の啓発活動 ・避難所運営等、地域との連携		

※1 将来直面するであろう災害等の安全に関する問題を中心に取り上げ、安全の確保等に関するより実践的な能力や態度、さらには望ましい習慣の形成を目指して行う指導（「自助」・「共助」）



(2) 中学校

○ 1時間単位程度の指導

・ 短い時間の指導

P○○ 指導計画例掲載頁

項目		学期	1学期	2学期	3学期	
道徳			○1-(1) 自主自律 ○3-(3) 人間の弱さの克服 (2年) P62 ○4-(1) 公德心	○2-(2) 思いやり、親切 ○4-(5) 公共の福祉	○3-(1) 生命尊重 ○4-(8) 郷土愛 (3年) P64	
安全 学習	社会		○世界と比べた日本の地域的特色 (2年) 自然環境 (自然災害と防災)	○日本の諸地域 (2年) P66 自然環境を中核とした考察 (地形と気候の特色、自然災害と防災)	○地域観察時の安全 (2年) ○地方の政治と自治 (3年) P68	
	理科				○火をふく大地 (1年) 大地の変化P70 (火山が生み出すもの、火山灰の広がりから考える) ○ゆれる大地 (1年) (地震のゆれの伝わり方、地震のゆれの大きさ、地震と災害、地震がおこるしくみ) ○天気とその変化 (2年) P72 (前線の通過と天気の変化) ○自然の恵みと災害 (3年) 自然と人間P74 (気候の特徴と自然災害、自然の恵みと災害の調査)	
	保健 体育	体育分野		○集団行動 ○水泳、水の事故と安全		
		保健分野		○心身の機能の発達と心の健康 (1年) 呼吸器、循環器の発達、心肺蘇生法、AED実習 (発展) P76	○傷害の防止 (2年) 交通事故による傷害	○傷害の防止 (2年) 自然災害による傷害 P78 応急手当、心肺蘇生法、AED実習 ○健康な生活と疾病予防 (3年) 感染症の予防、AED実習
	技術・ 家庭		○安全な室内環境の整え方 (2年)			
	総合的な 学習の時間		○地域を災害から守ろう (1年) P80、P82 ○地域に貢献しよう (3年) 等		○地域の働く人から学ぼう (2年)	
	安全 指導	学級活動	1年	・災害時に対する心構えや適切な行動 ・災害時の安全な避難の仕方と日常の備え		
2年			・災害に対する心構えや適切な行動 ・災害時の安全な避難と日常の備え、災害への備えと協力(地域の一員として)		○大地震発生時の行動を考えよう P84	
3年			・災害に対する心構えや適切な行動 ・災害時の安全な避難と日常の備え、避難所について (ボランティア活動の意義と参加)		○災害時に私たちができることを考えようP86	
生徒会			・校内安全点検活動 (保健・安全委員会)	・保健・安全委員会安全点検 ・地域の安全点検 ・防災に関する啓発活動	・保健・安全委員会安全点検 ・ボランティア活動等の社会参加	
学校行事		・緊急地震速報を利用した避難訓練 (地震後火災) (避難行動、避難経路、避難場所の理解、災害時安心つながるカードの確認)	・緊急地震速報を利用した避難訓練及び引渡し訓練 (地震) (下校路及び引渡し場所・方法の確認)	・緊急地震速報を利用した、詳細な予告なしの避難訓練 (地震) ・初期対応 (第一避難行動) のみの訓練※2 ○避難場所運営の支援を体験しようP88		
部活動		・災害時の避難行動の確認 ・校外や休日の活動時の危機管理体制の確立 ・傷害の防止	・災害時の避難行動の確認 ・傷害の防止	・災害時の避難行動の確認 ・校外や休日の活動時の危機管理体制の確立 ・傷害の防止		
安全管理	対人管理		・通学方法の決定 ・避難時の約束、避難方法、場所等の決定 ・引渡し方法の決定 ・応急手当 (担架、AEDについて) ・救急搬送訓練の実施 ・校外学習における危機管理体制の確立 ・災害時安心つながるカードの確認	・避難時の約束、避難方法、場所等の確認 ・引渡し方法の変更等確認	・避難時の約束、避難方法、場所等の確認 ・引渡し方法の変更等確認 ・1年間の人的管理の評価と反省 ・災害時安心つながるカード点検	
	対物管理		・通学路の確認 ・安全点検年間計画の作成 ・緊急地震速報の音源発信確認 ・非構造部材等の安全点検 ・防災倉庫の備品の確認 ・AED (トレーナー) 等の点検	・通学路の安全点検 ・諸設備の安全点検 (避難所) ・緊急地震速報の音源発信確認 ・非構造部材等の安全確認 ・AED (トレーナー) 等の点検	・通学路の安全点検 ・諸設備の安全点検 (避難所) ・緊急地震速報の音源発信確認 ・非構造部材等の安全確認 ・AED (トレーナー) 等の点検	
防災に関する組織活動 (研修含む)			・危機管理体制に関する研修 ・学校安心メール一斉送信 ・普通救命講習 I	・地域パトロール ・防災に関する研修 (避難所、防災倉庫等を含む)	・過去の大震災の想起と防災の啓発活動 ・避難所運営等、地域との連携	

※2 「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」 場所を見つけ出して身を寄せることのみ訓練

## 6 避難訓練における指導内容

### (1) 避難訓練における事前指導内容

・避難訓練を通して、発達段階に応じて「自助」「共助」の態度を高めるためには、この事前指導内容を参考にし、系統的に事前指導を実施する。

## 避難訓練における事前指導内容

発達段階 項目	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年・中学生
①地震の際の危険と、基本動作  ※緊急地震速報とチャイム音	○物が落ちてきたり、倒れてきたり、動いてきたりしてけがをすることがある。 ○頭を守ることが大切である。  <b>【授業中】</b> ・先生の指示で机の下に身を隠す。 <b>【授業外】</b> ・頭部を保護する。 ・自分の判断で机の下などに身を隠す。 ・先生の指示で机の下などに身を隠す。 ・ <b>緊急地震速報のチャイム音</b>	<b>【授業中】</b> ・自分の判断で机の下に身を隠す。 <b>【授業外】</b> ・自分の判断で身を守る。  ※物が「落ちてこない、倒れてこない」場所にすばやく身を寄せる。 (近くの教室内の机の下、校庭の中央) ※頭部を保護する。	○可能な範囲で声を掛け合う。  <b>【授業中】</b> ・自分の判断で机の下に身を隠す。 ・可能な範囲で声を掛け合う(「机の下」等)。 <b>【授業外】</b> ・自分の判断で身を守る。  ※物が「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所にすばやく身を寄せる。 ※頭部を保護する。
②避難時の合言葉「お・か・し・も・ち」	○合言葉の意味の理解 「おさない」「かけない」「しゃべらない」「もどらない」「ちかづかない」ことの意味(自助と共助)	○合言葉の確認	○合言葉の確認 ○合言葉「しゃべらない」の例外 異常の報告：傷病者、集団離脱者等 ○授業外における避難時の下級生等への声かけ 「はげまし」「避難の促し」「誤った行動の制止」
③避難場所・避難経路	○今回の訓練で使う避難経路の理解 ○避難場所及び、整列位置 ○整列時の留意事項	○避難経路が複数あることの意味及びそれぞれの経路利用時の留意事項の理解 ○避難場所及び整列位置 ○整列時の留意事項	○避難経路の意味とそれぞれの経路利用時の留意事項確認 ○避難場所及び整列位置 ○整列時の留意事項
④避難方法	<b>【授業中】</b> ・担任等の指示に従い合言葉を守って整列・避難  <b>【授業外】</b> ・教室→担任等の指示に従って避難する。 ・教室以外→放送や、担任等の指示に従って避難する。  ○頭部を保護しながら避難する ○合言葉「お・か・し・も・ち」を守って避難する。	<b>【授業中】</b> ・担任等の指示に従い整列・避難 ・下級生等優先  <b>【授業外】</b> ・自らの判断で避難する。 ※校内放送を聞く、先生の指示を聞く。 ※物が「落ちてこない、倒れてこない」ことを確認しながら避難する。  ○頭部を保護しながら避難する。 ○合言葉「お・か・し・も・ち」を守って避難する。 ○下級生等優先	<b>【授業中】</b> ・担任等の指示に従い整列・避難 ※下級生等優先  <b>【授業外】</b> ・自らの判断で避難する。 ※校内放送を聞く、先生の指示を聞く。 ※物が「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」ことを確認しながら避難する。  ○頭部を保護しながら避難する。 ○合言葉「お・か・し・も・ち」を守って避難する。 ○必要な場合には、可能な範囲で下級生に声をかけて共に避難する。(※例外) ○下級生等優先
⑤引渡し方法	○引渡しの基準、引渡し場所、手順の理解 ○災害時安心つながるカードの理解	○引渡しの基準、引渡し場所、手順の確認	○引渡しの基準、引渡し場所、手順の確認 ○集団下校の方法及び留意事項の理解(中学生)

## (2) 避難訓練における事後指導内容

避難訓練事後には、「避難訓練事後自己評価シート例」を活用して避難行動を振り返るとともに、以下の内容を発達段階に合わせて指導する。

- ①地震や津波の知識と避難行動
  - ②災害時安心つながるカードの使い方
  - ③家族が集まる避難場所や家庭防災用品の確認
  - ④避難場所運営委員会や自治会等で実施される防災訓練参加の奨励
- ※参考資料P 1 2 1

**避難訓練事後自己評価シート例**  
(ひなくんれんをふりがえろう！)

年 組 名前

1 訓練中に自分の「考えたこと」や「行動できたこと」であてはまるところに○をつけよう。

(1) 地震の揺れが強いとき、  
避難場所が安全か確認して動くことができた・できた・あまりできなかった・できなかったか。

(2) 揺れが強いとき、  
避難場所が安全か確認して動くことができた・できた・あまりできなかった・できなかったか。

(3) 自分の身を守ることができたか。

(4) 「お・か・し・ら・ら」を思い出して安全が確認して避難することができたか。

2 緊急地震速報が聞こえたときに、どこにいて、どのように身を守りましたか。

どこに ( )

どのように ( )

評定の目安：①が「ほとんどない」、②が「少ない」、③が「多い」をそれぞれ、①が最も低い、③が最も高いとする。

【図：避難訓練事後自己評価シート例 資料P 2 4】

### 【地震や津波の知識と避難行動】

#### ○地震に関する知識(マグニチュードと震度の違い)

マグニチュードは、地震そのものの大きさ(規模)を表し、震度はある場所での揺れの強さを表す尺度である。

#### ○津波に関する知識(小学校低・中・高学年・中学生共通)

- ・津波は、30cmの高さでも 幼児や児童は流されることがある。
- ・津波は海岸に到達すると速度が陸上の短距離選手と同じくらいの速さになり、高さは沖合に比べ数倍になるので、津波を見つけてから走って逃げるのは難しい。
- ・その場の揺れが小さくても、津波が襲ってくることがある。
- ・津波は何度でも襲ってくる。後からの津波の方が大きい場合もあるまた、違う方向から襲ってくることもある。
- ・津波は一般に地震の規模が大きいほど長く続き、大規模な場合は数日続くこともある。



**海の近くで揺れを感じたら直ちに行動する！**

- ◎海から可能な限り、速く、遠くの高台へ避難する。
- ◎橋を渡って、避難しない。
- ◎川に沿って、避難しない。
- ◎事前に避難場所を確認しておく。

【参考】※気象庁津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」(小・中)  
※内閣府教材「自分の命は自分で守る」～津波災害への備え～(小)



## Ⅱ 指導資料編

- 1 避難訓練実施計画例
- 2 学習指導案例
- 3 ワークシート例
- 4 参考







# 1

## 避難訓練実施計画例

- 各学校で避難訓練を実施するにあたっては、「避難訓練における指導内容」を基に、「避難訓練実施計画例」を参考として、事前・事後指導を行い「児童生徒に身に付けさせたい力」を計画的に育成する。

### 参考

熊谷地方気象台ウェブページ「緊急地震速報訓練用指導プログラム」

<http://www.jma-net.go.jp/kumagaya/education/index2.html>

# 1 避難訓練実施計画例

## (1) 小学校避難訓練計画例 (緊急地震速報を利用した休み時間における訓練)

### 平成〇〇年度 第 回 避難訓練 (地震・火災) 実施計画

〇〇小学校安全教育部

#### 1 ねらい

- ・大地震及びそれに伴う火災の発生に際して、安全に避難するために必要な実践的な態度や能力を養う。
- ・休み時間や授業中での地震発生を想定することで、常に災害の発生に対応する心構えをもたせ、自主的な避難、敏速に行動する態度を育成する。
- ・緊急地震速報チャイム音を聞いて自主的に避難行動をとることができるようにする。
- ・避難経路と避難場所を確認する。

#### 2 期日

平成〇〇年〇月〇日 (〇) 13:25~13:50 (昼休み~清掃時間)

※実施時刻については児童に知らせないで実施する。

※雨天及び校庭の状況で実施困難な場合には延期する。(期日は後日連絡)

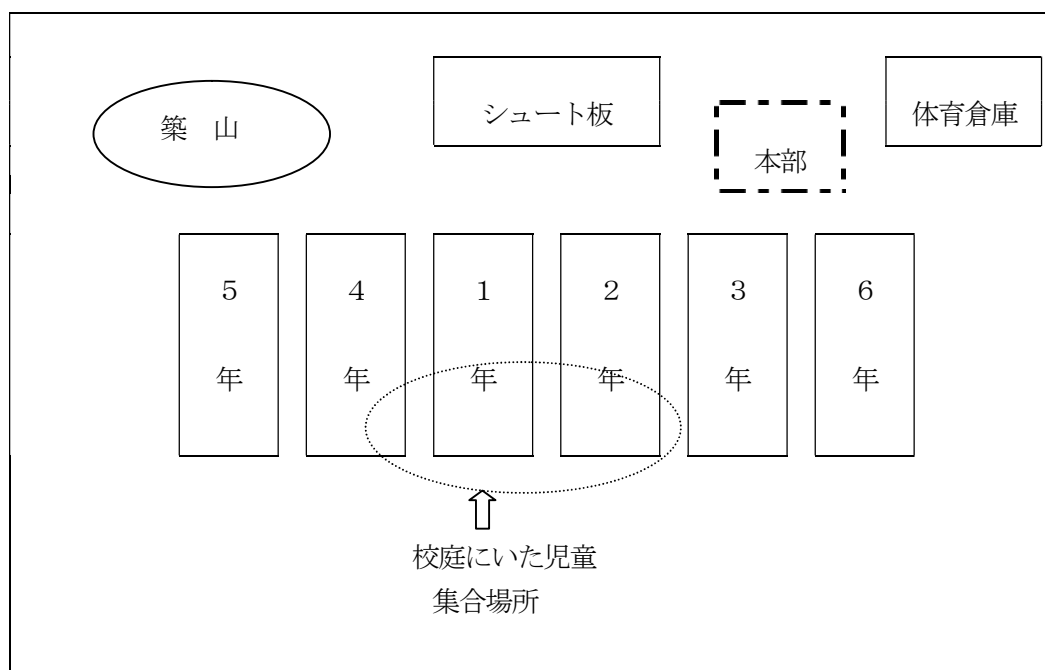
#### 3 想定

昼休み時間中に緊急地震速報の後大地震が発生し、それに伴い近隣で火災発生

#### 4 避難場所

校庭の南側シュート板前

#### 5 避難集合隊形



※校庭にいた児童は、トラックの中心に集合し、放送で指示があるまでその場に待機する。放送後、各クラス男女1列(名簿順)で整列する。

#### 6 実施計画及び展開

(1) 事前指導 特別活動 (0.5)



①地震の際の危険と、基本動作の理解及び練習

※ 物が「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所にすばやく身を寄せる。

- ・教室にいる場合は、机の下にもぐり安全を確保する。
- ・廊下等では、近くの教室に入り、机等の下にもぐり安全を確保する。
- ・防災頭巾等で頭部を保護する。
- ・校庭・体育館等では、安全な場所（中央）へ行き身を低くする。

②避難時の合い言葉「お・か・し・も・ち」の理解

・「おさない かけない しゃべらない もどらない ちかづかない」の指導を徹底する。

③避難場所・避難経路・避難方法の確認

ア 避難場所：校庭のシュート板前

イ 避難経路：火災時の避難経路

- ・一番近い避難経路を通して避難する。

ウ 避難方法：チャイム音を聞いたら自主的に避難する。

- ・チャイム音を聞いたら自らの判断で身を守る。
- ・近くにいる先生の指示や放送を聞きながら校庭等へ避難する。

※ 休み時間等授業時間以外における基本的な行動の仕方を理解させる。

④緊急地震速報時の基本行動

※ 事前に緊急地震速報のチャイム音を聞かせて指導する。

- 1 チャイム音を聞いたら活動を止め、身の回りの危険（◎）を確認しながら、机の下等に身を隠す。
- 2 放送をよく聞き、指示に従う。

◎「物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身を寄せる」という観点で指導する。

(2) 実施計画及び展開 (学校行事 0.5)

時刻	本部	教職員	児童
13:25	<p>1 緊急地震速報のチャイム音を放送する。</p> <p>2 地震発生を放送する。</p> <p>「訓練、訓練、訓練。ただ今、大きな地震が発生しました。落ち着いて机の下に隠れなさい。※廊下にいる児童は近くの教室に入り、机の下に隠れなさい。校庭にいる児童は、校庭の中央に集まり、腰をおろして待ちなさい。」</p>	<p>○校舎内</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口を結んで放送を聞き取らせる。</li> <li>・（近くの教室に入り）机の下に避難するように指示する。</li> <li>・ドアを開け、避難口を確保する。</li> <li>・火気、電気、薬品等を始末する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐに活動を止め、放送をよく聞く。</li> <li>・物が「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所に身を隠す。</li> <li>・防災頭巾等が身近にあったらかぶって頭部を保護する。</li> </ul>
13:26		<p>○校庭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口を結んで放送を聞き取らせる。</li> <li>・地震沈静まで校庭中央で待機させる。</li> </ul>	

<p>13:27</p>	<p>3 地震沈静、避難指示を放送する。 「地震がおさまりましたが、校舎西側の住宅で火災が発生しました。西側階段を通らないようにして、児童は校庭に静かに走らないで避難しなさい。校庭にいる児童はクラス毎に並びなさい。」 ※指示と同時に計時開始（教頭）</p> <p>4 避難場所にて本部を設置する。 ・対策本部長：校長 ・救護：養護教諭</p>	<p>○校舎内</p> <p>A 避難の指示、避難児童の誘導をする。（階段付近・非常階段入り口付近） ・窓を閉め、カーテンを結束する。 ※配慮を要する児童への対応（担任または近くにいる教員）</p> <p>B トイレ、普通教室、特別教室を見て、逃げ遅れの児童の有無を確認する。確認が済んだ教室のドアは閉める。全ての児童の避難を確認後避難する。</p> <p>○校庭</p> <p>・放送により、クラスごとに名簿順で並ぶよう指示する。</p> <p>○担任外</p> <p>・対策本部の設置 ・出席簿、引き渡しカード搬出</p> <p>A 児童の避難指示、避難児童の誘導（西側階段で1Fに降りないように誘導する。降りてきた児童には2F西側非常階段を使用して避難するように指示する。）</p> <p>B 2F西側階段より東側で逃げ遅れの児童がいないかを確認する。</p> <p>C 1F東側階段避難口で児童を誘導する。（混雑しているときは1F昇降口へ誘導する。） ・児童避難の確認後避難する。</p>	<p>・「お・か・し・も・ち」の合い言葉を守りながら上履きのまま外へ出る。</p> <p>・校庭にいる児童は、指示に従い、整列する。 ・名簿順に並ぶ。</p>
<p>13:32</p>	<p>5 対策本部長（校長）は避難状況を把握する。</p> <p>※ 本部長に報告した時点で計時を終了する。</p>	<p>・出席簿を元に点呼して人員を確認する。 ・児童の人員確認の報告を、担任は学年主任に学年主任は教頭に する。 ・教頭は避難状況を取りまとめ、所要時間とともに本部長に報告する。</p>	

13:37	6 対策本部長（校長）が指導、講評する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急地震速報のチャイム音で避難行動をとることができたか。</li> <li>・「落ちてこない、倒れてこない、移動して来ない」場所に身を寄せることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静かに集中して指導、講評を聞く。</li> </ul>
13:45	7 訓練を終了する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・整列して教室にもどる。</li> </ul>

### (3) 事後指導

学級ごとに、避難の状況を振り返らせ、改善点を確認する。

### 7 係分担

- ・対策本部長（指導・講評）：校長
- ・児童確認：教頭
- ・放送：教頭
- ・重要資料等搬出：教務主任、事務職員
- ・拡声器：教頭
- ・救護：養護教諭
- ・出席簿、引き取りカード搬出：教務
- ・計時：教頭
- ・本部旗設置：教頭
- ・**A** 2 F 西側階段児童誘導（ ）
- ・**B** 2 F 西側階段より東側逃げ遅れ児童の確認（ ）
- ・**C** 1 F 東側階段避難口児童誘導（ ）

### 8 事後評価

事後評価用紙の提出： 締め切り 日（安全部員に提出）

### 9 その他

- ・当日は、通常の日課通り授業を行い、避難訓練を実施する。
- ・地震発生時は、出入り口を開け避難経路を確保し、避難後出入り口を閉める。（教室・校舎）
- ・休み時間中実施の場合、避難経路（口）に近い児童から避難する。
- ・予め分担（校舎内確認担当・校庭避難確認担当等）を確認しておく。
- ・原則として2 F 昇降口は避難口として使用しない。1 F 東側階段避難口が混雑している場合には、担当者が判断して1 F 昇降口に誘導しても差し支えない。

(2) 中学校における避難訓練計画例 (緊急地震速報のチャイム音を利用した訓練及び引き渡し訓練)

〇〇年度さいたま市立〇〇中学校 第〇回 避難・引渡し訓練実施計画

安全教育部

1 日時 平成〇〇年〇月〇〇日 (〇) 第6時限 14:40～ そのまま下校 (部活動なし)  
雨天決行 ※服装は制服 (ハンカチ、ビニール袋持参)

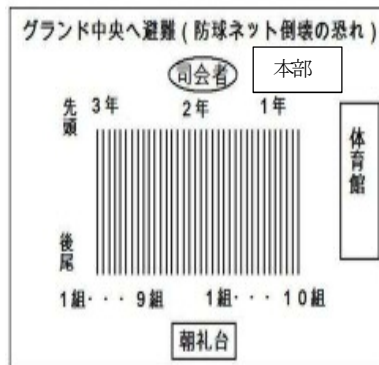
2 目的 ・大地震発生時に安全に避難できる実践的な態度や能力を養う。  
・集団下校及び保護者への「引渡し」の方法について実践を通して理解させる。

3 内容 さいたま市内で震度5弱以上の地震が発生したことを想定した訓練  
第1部 緊急地震速報チャイム音を利用した避難訓練

第2部 震災時における引渡し・集団下校の訓練

4 日程

時間	活 動	備 考
14:30	◎5時間目授業	・外ばきをカバンに入れさせておく。 (ビニール袋を用意)
14:40	◎6時間目授業 (学活扱い) 【事前指導】 ・避難行動について担任による指導	・事前に生徒自身が集団下校のコース、 引渡し方法を分かっているか確認して おく。 ※「学校安心メール」
14:50	【第1部 避難訓練】 ・放送 (「緊急地震速報」のチャイム音を流す。) 「訓練、訓練、ただいま地震が発生しました。机の下に身を隠して、安全を確保してください。」 「ただ今の地震は、さいたま市内で震度5弱以上が観測されました。したがって、全校で集団下校・引渡しを実施します。荷物を持って校庭に避難して下さい。」	・引渡し訓練実施について配信する。 ・事前指導の内容 ※物が「落ちてこない、倒れてこない、 移動してこない」場所に身を寄せる。
14:55	・図の位置に、出席番号順に整列させる。 ・名簿を元に人員を点呼し、担任は、学年主任に報告する。 ・学年主任は教頭に報告する。 ・校長先生の話	ア 頭部保護 イ テーブルや机の下に身を隠す。 ウ あわてて外に飛び出さない。 エ 自動販売機やビルのそばに近づかない。 オ 正しい情報に従って行動する。
15:00	司会 (安全担当) ※避難行動の評価・指導 ※自助と共助について	・出席番号関係なく廊下に並び避難する。 ※人員確認 ・震災時セット (第2会議室) の搬出 (事務職員) ※1
15:10	【第2部 集団下校・引渡し訓練】 ・第2部の趣旨説明 (教頭)	・出席簿の搬出 (担任) ・健康観察簿の搬出 (養護教諭) ・引き渡し名簿の搬出 (〇〇) ・職員室待機 (〇〇) ※避難にかかった時間の測定 (教頭) ※放送器具の用意 (視聴覚担当) 司会用ワイヤレスマイク 1本 ◎震災時セット



15:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下校コースごとに生徒を並べ替える (安全担当)</li> <li>・集団下校名簿を使って人員点呼 (各学年担当教員、先頭と最後尾)</li> <li>・「学校待機の張り紙」に日付・曜日をその場で書いて全員に配布する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下校コースごとに、3年・2年・1年の順に2列で整列。学年の中では、先頭から1組・2組・・・となるように並ぶ。※2</li> <li>・各学年先頭の教員は、震災時セットの表示 (A～H) を掲げて、先頭的位置を示し、もう一人の教員は最後尾で整列の指示をする。</li> </ul>
15:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団下校・引渡し訓練開始 (出発の間隔は、前グループが最初の信号を渡ったことを確認してから)</li> <li>Aコース (3年→2年→1年)・Gコース (3年) 出発</li> <li>Bコース (3年→2年→1年)・Gコース (2年) 出発</li> <li>Cコース (3年→2年→1年)・Gコース (1年) 出発</li> <li>Dコース・Fコース (3年→2年→1年) 出発</li> <li>Eコース出発</li> <li>Hコース出発・引渡し生徒の移動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※並べ替え所用時間の計時 (教頭)</li> <li>※混雑を避けるため、5分間隔で下校させる</li> <li>・集団下校の際、自宅付近についたら最後尾の教員にその旨を告げ、列から分かれて帰宅する。</li> <li>・実際の集団下校では、その際に最後尾の教員からガムテープを受け取る。(張り紙用)</li> <li>・最後尾の教員が、名簿を使い、列から分かれた生徒を記録する。</li> </ul>
15:55	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 引渡し生徒は、下記の教室に移動し待機する。</li> <li>1年→3年1組2組3組 (1学年主任・〇〇・〇〇)</li> <li>2年→3年4組5組6組 (2学年主任・〇〇・〇〇・〇〇)</li> <li>3年→3年7組8組9組 (3学年主任・〇〇・〇〇)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 引渡し訓練に参加する保護者には、下記の教室に待機させ、受付後、子どもを引渡す。</li> <li>1年保護者→3年1組</li> <li>2年保護者→3年4組</li> <li>3年保護者→3年7組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※引渡し訓練に参加する生徒から下校</li> <li>※<u>実際の集団下校では、自宅が帰宅困難または保護者不在で家に入れない等の場合、張り紙を自宅に貼りつけた後、各ポイントで待機している教員と合流し、帰校後引渡しの教室へ移動する</u></li> </ul>



5 事後評価

事後評価用紙提出締め切り ○月○日 ( ) 安全指導主任へ  
生徒への事後指導 各担任

6 改善点の明確化

安全指導部会 ○月○日 ( )  
事後評価用紙の集計結果確認  
改善点の検討

【参考】

- ※1 震災時セット → 避難時に必要となる機材をパッケージ化して常備する。
- ※2 下校コースの編成例  
自治会別 地区別

・引渡し名簿等 ○その他のセット内容



- ・軍手
- ・懐中電灯
- ・電池
- ・ガムテープ
- ・マジック
- ・地図
- ・安否確認表示

(3) 避難訓練事後自己評価シート例

# 避難訓練事後自己評価シート例

## (ひなんくんれんをふりかえろう！)

ねん 年      くみ 組      なまえ 名前

- 1 訓練中に自分の「考えたこと」や「行動できたこと」であてはまる  
ところに○をつけよう。

(1) 緊急地震速報のチャイム音や訓練放送をしゃべらないで聞くことができましたか。

よくできた・できた・あまりできなかった・できなかった

(2) 緊急地震速報が聞こえたときに、何をしたらよいか自分で考えることができましたか。

よくできた・できた・あまりできなかった・できなかった

(3) 自分の身をまもることができましたか。

よくできた・できた・あまりできなかった・できなかった

(4) 「お・か・し・も・ち」をまもって安全な場所に移動できましたか。

よくできた・できた・あまりできなかった・できなかった

- 2 緊急地震速報が聞こえたときに、どこにいて、どのように身を守りましたか。

どこに ( )

どのように ( )

評価の観点：物が「落ちてこない。倒れてこない。動いてこない。」場所に身を寄せる。頭部を守る。身を低くする。



## 2

# 学習指導案例

- 防災教育は、学習指導要領に基づき、各教科等で、それぞれの教科等の特質に応じて指導するものである。この学習指導案例では、その中から主なものを取り上げている。
- 学習指導案例における「防災教育の視点」は、「発達段階別目標及び観点別指導内容(P 6・7)」に基づいて、設定してある。
- 災害被害経験のある児童生徒の心情や個人情報等に十分配慮して指導する必要がある。

## 小学校第1学年 道徳「みんなのやくそく」

### 1 主題名

「みんなのやくそく」 4－（1）公德心、規則の尊重

### 2 資料名

「みんなのこうえん」（出典：副読本）

### 3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

児童が生活する上で、公德心や社会規範を守ることは大切なことであり、それは避難場所での生活でより一層重視されるものである。児童にとっての小さな社会である友だちとの関係から、集団生活における公共心や公德心に気付き、自他の権利を尊重するとともに義務を大切にすることを育てていきたい。

（2）資料について

本資料は、公園で楽しく過ごしている様子を中心に展開していく。絵の中から、「よいこと、楽しいこと」に気付かせて授業を展開していき、反対に、「よくないこと」に気付かせるきっかけとする。公園は、自分たちと同じ年頃の小学生だけでなく、幼い子どもやその保護者、また高齢者の方も憩いの場として利用している。そこで、学校における生活や遊びの時の様子を思い起こし、比較しながら、主題に迫らせたい。

### 4 防災教育の視点

人が集まる場所では、みんなのための約束があることを知る。 （共助）

### 5 展開

本時のねらい	・日常生活における身近な出来事から、みんなでするものを大切に、約束を守る態度を育てる。
学習活動	・指導上の留意点 ○評価
1 公園など公共の場所で楽しく遊んだことについて話し合う。(10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊んで楽しかったことを想起させる。</li> <li>・だれがいたかの発問を通して、色々な人が集まるみんなの場所であることに気付かせる。</li> </ul>
2 資料「みんなのこうえん」を見て、公園の様子について発表する。(15分) (1) 楽しく過ごしている様子を見つける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな子がお母さんと来ているね。</li> <li>・砂場で楽しそうに遊んでいるよ。</li> </ul> (2) 困っている様子を見つける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランコを男の子同士が取り合っているよ。</li> <li>・泣いている子がいるよ。どうしたのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物や場面の条件・状況については、場面絵をもとに展開の中でおさえていく。</li> <li>・資料「みんなのこうえん」から、公園に来ているのは、子どもだけではないことや、くつろぎのために来ている人がいることにも気付かせたい。</li> <li>・だれが何をしているか発表させ、公園には子どもだけでなく、いろいろな人が来ていることに気付かせる。</li> <li>・仲良くしている場面に注目させ、決まりや約束の中で楽しく過ごしているということに気付かせる。</li> <li>・公園には使う人みんなに知ってもらいたい約</li> </ul>



<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみを地面に捨ててしまっている。いけないな。</li> <li>・水道水が出しっぱなしになっているよ。</li> </ul> <p>(3) どうしたらみんなで楽しく過ごせるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良く順番を決めてブランコにのる。</li> <li>・ごみはゴミ箱に入れる。</li> <li>・出ている水は止める。</li> </ul> <p>4 楽しく、仲良く過ごしている様子について役割演技をする。(10分)</p>	<p>束があることについて、学校など自分の身近な場所を思い出させながら触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「もし、自分がこの場にいたらどうするか。」という発問でより深く考えさせる。</li> <li>・子ども同士で、助け合っていることにも気付かせる。</li> </ul> <p>○公園などの公共の場では、いろいろな約束があることに気付いたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良く過ごしている演技の中から、どんなことに気をつけてすごすことが大切かということに気付かせる。</li> <li>・役割演技を見ている児童には、「自分だったらなんと言うか」を考えながら見るように声かけをする。</li> <li>・教師が約束を守っていない例を演じ、それに対する児童のセリフを引き出させる。</li> </ul>
<p>5 自分の生活をふり返る。(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割演技の中にあつた場面を例に、自分はみんなのための約束を学校や公園等で守っているか、考えさせる。</li> </ul>
<p>6 学校や公園などで遊ぶときに気を付けたいことについて発表する。(5分)</p>	<p>○日常生活において、どんな決まりや約束があるか、自分を振り返って考えられたか。</p>

### 活動例

○学年合同のティーム・ティーチングによる授業の展開

- ・学級の枠をはずし、資料「みんなのこうえん」の中で、最も注目した様子ごとにグループを編成し、それぞれに教師が担当する。それにより、普段の学級以外の友だちからもより多くの考えを聞くことができる。

- ・教師にとっても連携を強めることができ、同時にねらいにより深く迫ることができる。

○役割演技例（教師と子どもで行う場合：ねらいがずれないように配慮する。）

**教師**：（お菓子を食べるふりをしながら）「ごみは落としておけばいいか。」

**児童**：「だめだよ、そこに捨てちゃ。ごみはゴミ箱に捨てないと、みんなに迷惑がかかるんだから。」

**教師**：（ベンチの上に土足でのっている）「めんどくさいから、このままのっちゃえ。」

**児童**：「だめだよ。ベンチが汚れて、次に座る人が困っちゃうよ。」

## 小学校第 1 学年 生活 「がっこう だいすき」

### 1 単元の目標

- ・学校の施設や設備、先生、学校で働く人、友達に関心を持ち、学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、進んでかかわり楽しく安心して学校生活を送ることができる。

### 2 単元の指導計画（10 時間扱い）

- ・みんなでがっこうをあるこう（3 時間）
- ・がっこうをたんけんしよう（6 時間）  
学校の施設・様子・人々  
危険マークを探そう
- ・がっこうでみつけたことをはなそう（1 時間）

### 3 防災教育の視点

- ・学校には様々な施設や設備があり多くの人々が生活していること、安全に生活するためには約束や工夫が大切だということに気付かせる。（自助）
- ・大きな地震が起きた時は、物が「落ちてこない」「倒れてこない」場所に身を寄せることを分らせる。（災害に関する知識・理解）

### 4 展開（9 / 10 時）

本時のねらい	・学校の様々な場所にあるマークを見つける活動を通して、地震が起きた時に、学校ではどのようなことに気を付けたらよいのかを知ることができる。	
学習活動	・指導上の留意点 ○評価	主な資料
1 危険マークの写真を見てその意味やこれから行う活動について理解する。（10 分） ・2 年生と 1 年生の 2 人組で活動 ・ワークシートの記入方法	・2 年生と一緒に活動したときに見つけた児童の話から、本活動のルールや意味、方法等を知らせる。	・危険マーク ・校内の写真
「きけんまあく」を探して大きな地震がきたときにどうしたらよいかを考えよう		
2 校内の危険マークを見つける。（25 分） ・廊下 ・階段 ・トイレ ・図書室 ・体育館 ・昇降口	・マークを見つけたら、何から身を守るのか（危険な物）も見つけ、ワークシートに記入させる。 ・危険な物（ガラス破片、倒れてきた本棚等）から身を守るにはどのような行動を取ったらよいかその都度考えさせる。 分からない児童のために、ヒントカードを近くに掲示し、その理解の助けとする。	・危険マーク ・ワークシート ・探検バッグ  ・ヒントカード
3 危険マークを探すことによって分かったことを発表する。（10 分） ・学校の中には地震が起きると危ない物がある。	○学校で大きな地震が起きた時、自分の身を守るために周りの施設に気を付けて、物が「落ちてこない」「倒れてこない」所に移動することが大切なことに気付	・危険マーク ・校内の地図 ・ヒントカード

<ul style="list-style-type: none"> <li>物が「落ちてこない」「倒れてこない」安全な場所に身を寄せる。</li> </ul>	いている。【気付き】 ○学校で火事等が起きた時は、近くの非常口から校庭に避難することに気付いている。【気付き】
--	--

補充資料

【危険マーク】



【ヒントカード】



【非常口マーク】



【みつけたよカード】



【ワークシート】

**もけんまあくを みつけよう!**  
がっこうたんけん3

2ねん 1くみ

つぎの「まあく」をみつけて、くいずにこたえましょう。

まあく	いま、じしんがおこったら...	いま、じしんがおこったら...	いま、じしんがおこったら...
みつかったばしょ	1かいのかい	はうこう口	はくいんし
そこでじしんがおきたら、あぶないものはなに?	まど、ガラス、げんき	たしほ、げんき	ガラス、げんき、たしほ
じぶんのあんぜんをまもるには、どうしたらいい?	たいらなとろですわる	すわってまどをまもる	たいらなとろですわる
ひじょうぐち	じしんやかじがおきて、そこにひなんするときにつかいます。	いくつ みつけた?	26こ



小学校第 2 学年 生活 「もっとなかよし 町たんけん」

1 単元の見目標

- ・自分たちの生活は、地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。

2 単元の指導計画（15時間扱い）

- ・町たんけんのけいかくを立てよう (3時間)
- ・町の人に会いに行こう (3時間)
- ・もっと町の人となかよくなるよう (5時間)
- ・なかよくなった人のことをしょうかいしよう (4時間)

3 防災教育の視点

- ・地域の人々と関りながら安全に生活しようとするようにする。  
(自助)
- ・私たちの町では、交番の警察官や子どもひなん所 110 番の家の人、防犯ボランティアさんなどが、私たちや地域の安全に心を配っていることやその人々の思いを知ることができるようにする。  
(災害に関する知識・理解)

4 展開 (15 / 15 時)

本時のねらい	・町の人や公共施設などのかかわりの中で見つけた、自分の暮らしている町のよさを、友達と教え合うことができる。		
学習活動	内容	指導上の留意点 ○評価	主な資料
1	本時の活動について確認する。(5分) ・発表の仕方 ・交流の仕方(質問、感想、気付きなど)	・それぞれの発表方法が生かされるように場の設定を工夫する。 ・発表のめあて、話を聞くめあてを確認しお互いのよさを認めあえるようにする。	地域マップ 紹介したい人の写真・絵 ワークシート
見つけたまちのすてきをおしえあおう			
2	グループごとに「まちのすてき」を発表する。(25分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">黑板</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">全体での伝え合い</div> </div> <p>○町でかかわった人や場所の様子を調べてきたものを使って伝えることができる。 【思考・表現】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パネル</li> <li>・画鋏</li> <li>・セロテープ</li> <li>・指示棒</li> <li>・机</li> <li>・椅子</li> <li>・探検バッグ</li> <li>・ワークシート</li> </ul>

<p>3 発表を聞いて分かったことをまとめる。(15分)</p>	<p>○自分が暮らしている町には、すてきな人や場所がたくさんあることに気付いている。</p> <p>○町の中には、自分達の安全を守ったり見守ったりしてくれる人がいることが分かり、親しみをもち、適切に接するとともに安全に生活しようとする。</p> <p>【気づき】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探検バッグ</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
----------------------------------	---	---

補充資料

【地域の安全を守っている人々について調べた例】

子どもひなん所110番の家の人



交番の警察官



防犯ボランティアさん



【たんけん見つけたよカード】

町のすてきを見つけたよ  
11月13日  
名まえ( )

ほくは、ありいずみさんのおじいちゃんに、  
ソタビ-をしまけた。ほくが「ふしんしほ  
入って来たことはあるんですが」と聞いた  
ら、「うえ木ばちをぬすみにくる人がい  
る」と言いました。ほくはこう思います。  
「おじいちゃん、ここにおきてるな  
んて」と思いました。おじいちゃん  
が来てお家に入れてくれるそうです。  
ありいずみさんのおじいちゃんはずごく  
やさしいから、おじいちゃん、早く家に入れて  
くれるそうです。



毎朝、あいさつしてくれて  
うれしいです。

地域のいろいろな人が、  
みんなの安全を守っている  
んだよ。



## 小学校第2学年 学級活動 「学校で火事が起こったら」

### 1 本題材のねらい

- ・学校で火事（火災）が起きた際の危険や、避難における基本的な行動について理解し、安全に気を付けて行動することができるようにする。

### 2 防災教育の視点

- ・学校で火事（火災）が起きた際に、自分の身を守るためにどのような行動をするべきかについて理解し、実践することができるようにする。 (自助)

### 3 展開

#### (事前指導)

児童の活動	・指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・火事が起きた際の避難時にどんなことに気を付けたらよいかについてアンケートをする。	・避難時の正しい行動について、理解している点、不足している点について把握する。	○火事が起きた際の、正しい避難の方法について関心をもっている。 【関・意・態】(アンケート)

#### (本時の展開)

学習活動	・指導上の留意点	資料等	目指す児童の姿と評価方法
1 火事について知っていることを話し合う。 ・こわい。(5分) ・逃げられない。 ・けむりがすごい。 ・やけどをする。	・火事が起こると、大きな被害につながることを確認する。 ・火の勢い、煙、建物の被害、など、火事の様子が伝わるように、あらかじめ絵、写真等の掲示資料を用意しておく。	・絵、写真等	
2 アンケートの結果を発表する。 ・大声を出す。 ・急いで逃げる。 ・窓を開ける。(5分)	・学校では火を扱う場所が多くあり、危険も潜んでいることに気付かせる。	・アンケート結果	
学校で火事が起こったとき、どのように行動したらよいか考えよう			
3 火事が起きた場合の正しい避難の仕方について話し合う。(10分) ・おかしもち ・火には近づかない。 ・煙を吸わないように姿勢を低くして移動する。 ・しっかり前を見る。 ・口や鼻をハンカチで	・「お（押さない）か（駆けない）し（しゃべらない）も（戻らない）ち（近づかない）」を活用し、焦った行動による危険性について気付かせる。 ・火事が起きた場合の避難の行動について話し合うことを通して正しい避難の方法が理解できるようにする。	・掲示資料 おかしもち  ・ハンカチ	

覆う。  4 火事が起きて避難する際に気を付けることは何かについて話し合う。(15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難時に一人ひとりが使うものを確認し、実際に身に付けさせることで迅速に対応できるようにする。</li> <li>煙によって前が見えなくなる可能性もあることを示し、移動の際の姿勢についても指導する。</li> <li>発生場所によって避難経路が異なることについても指導する。</li> </ul>	・防災頭巾	
5 避難訓練(火事)における自分のめあてを決める。(5分) 6 教師の話聞く。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習をもとに、避難訓練の際の具体的なめあてを考えられるように助言する。</li> <li>日ごろ、学校だけでなく家庭や外出先でも、学んだことを生かして安全に気を付けて適切に避難するように指導する。</li> </ul>	・ワークシート	○火事に対する適切な行動を考え、安全に避難するために気を付けることや自分のめあてを考えている。 <b>【思・判・実】</b> (学習カード・観察)

**(事後指導)**

児童の活動	・指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・避難訓練の振り返りを行う。	・自分のめあてが達成できたかどうかを振り返り、今後の生活に生かすことができるようにさせる。	○正しい避難の仕方について理解している。 <b>【知・理】</b> (振り返りカード)

**活動例**

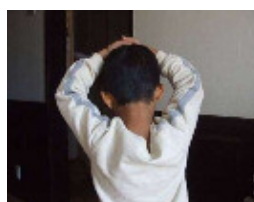
- ・本指導例は、1単位時間の学級活動(2)として避難訓練の事前指導を兼ねて実施する。事後に学校行事で避難訓練を実施し自分のめあてについて振り返る。年間指導計画を作成する際は、避難訓練の時期に合わせて学習できるように題材を設定するとよい。
- ・自分の家庭や身近で火事(火災)を経験している児童には、導入の際の提示資料や扱う内容について十分に配慮する。

**参考**

- ・必要な時に防災頭巾が手元にない場合がある。その際、手提げ袋や手などで頭部(頸動脈等)を保護することが望ましい。
- ・火災時に煙が発生した場合には、ハンカチで口や鼻を覆い、煙を直接吸わないようにすることを指導する。ハンカチがない場合は、給食用ナフキンや衣類の袖や裾を代用させる。



**【手提げ袋で頭部を守る】**



**【手で頭部を守る】**

## 小学校第3学年 道徳「心にひびく思いやり」

### 1 主題名

「心にひびく思いやり」 2 - (2) 思いやり・親切

### 2 資料名

「新幹線で」(出典：副読本)

### 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

親切は、相手を思いやる心から生まれてくる。避難場所の生活では、人とのかかわりが不可欠であり、年齢に関係なく、互いに相手を思いやって助け合う姿勢が必要である。どんな状況でも、相手の身になって、温かい気持ちで接しようとする心を育てたい。

(2) 資料について

本資料は、主人公のぼるが、お母さんのふるさとに向かう新幹線の中で、見知らぬおじさんに親切にされ、そのおじさんの忘れものである眼鏡を何とか返そうと、新聞に投書をするという話である。知り合いでもないおじさんに親切にされ、そのありがたさを実感した、のぼるの気持ちを中心に、相手のことを考えた思いやりと行動について考えさせたい。

### 4 防災教育の視点

- ・困っている相手のことを思いやり、自分が今できることを考えて、温かい気持ちで接することができるようにする。(共助)

### 5 展開

本時の ねらい	・相手の気持ちを考え、親切にしようとする思いやりの心を育てる。	
	学習活動	・指導上の留意点 ○評価
1	親切にされた、親切にした経験を答えたアンケートをもとに発表する。(5分)	・事前に「親切にされた、した経験」についてアンケートをとっておく。 ・ねらいとする価値への方向付けをする。
2	登場人物や場面の条件・状況を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(登場人物)・のぼる ・お母さん ・おじさん (条件・状況) のぼるは、新幹線の中で急に体調が悪くなってしまった。そのとき、となりの席のおじさんが新聞紙をわたして助けてくれた。ところが、おじさんはメガネを忘れて降りて行ってしまった。</div>	
3	資料「新幹線で」を読み、話合いの方向性をつかむ。(5分)	・のぼるの心の動きを考えながら聞かせる。
4	のぼるの心の変化を中心に話し合う。(20分) (1) 列車が動き出し、体調が悪くなってしまったのぼるは、どんな気持ちだったのだろうか。(5分)	・児童の発表を教師が順序立てて整理し、話合いの柱とする。 ・動き出した列車の中で気分が悪くなり、つらい気持ちでいるのぼるに共感させる。



<ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったな、どうしよう。</li> <li>・苦しい、がまんできるだろうか。</li> </ul> <p>(2) やっと体調がよくなったのぼるは、 どんなことを思っているだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周りを汚さずにすんだ。よかった。</li> <li>・助かった。やさしいおじさんだな。</li> </ul> <p>(3) 遊んでいても、おじさんが忘れていた眼鏡のことが頭から離れないのぼるは、どんなことを考えていたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・眼鏡を返す方法はないかな。</li> <li>・ぼくもおじさんに親切にしたい。</li> </ul> <p>(4) のぼるはどんな思いで、おじさんと電話で話したのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・眼鏡を返せる。よかった。</li> <li>・親切にするって気持ちいい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共の場で突然不調に陥ったときは、不安がより一層大きいことに気付かせる。</li> <li>・おじさんの親切に感謝するのぼるの気持ちに共感させる。</li> <li>・見知らぬ人でも迷わず親切にできる、おじさんの素晴らしさに気付かせる。</li> <li>・おじさんのことを心配し、眼鏡を返したいという気持ちをとらえさせる。</li> <li>・人からされた親切は、人の心にしっかりと刻まれるということを補足する。</li> </ul> <p>○相手の気持ちを考えて親切にしようとする思いやりの心の大切さに気付けたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親切な行動に出るときには、行動を起こす勇気も必要であることに気付かせる。</li> <li>・行動に移したからこそ、おじさんと連絡が取れたことをおさえる。</li> <li>・親切にしたときの満足感に共感させる。</li> <li>・のぼるとおじさんのように、親切な行動に年齢は関係ないことに気付かせる。</li> </ul>
<p>5 もう一度アンケートを振り返り、自分のされた親切、した親切を振り返る。 (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人だけでなく、見知らぬ人に対しても同じように親切な行動に出ることの大切さに気付かせる。</li> </ul>
<p>6 教師の説話を聞く。(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人だけでなく、見知らぬ人にでも親切にした、された話をする。</li> </ul>

参考

【説話の留意点】

- ・親切にした、または親切にされた、身近な体験を話すようにする。
- ・身近な人だけでなく、見知らぬ人との関わりを取り上げるようにする。
- ・「相手の気持ちを考えて」親切にした、または「親切にされて感謝した」という気持ちを話すようにする。
- ・親切にした、または親切にされた後の清々しい気持ちを話すようにする。

## 小学校第4学年 道徳「進んで人のために」

### 1 主題名

「進んで人のために」4－(2) 勤労

### 2 資料名

「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」(出典：副読本)

### 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人間は、働くことを通して多くの人と関わり、自分の生活の糧を得ると同時に、個性を生かしていくことを大きな喜びとする。それは、人生を主体的に生きていくことにも通じる。働くことは、当然、精神的、肉体的にも苦痛を伴うが、それを乗り越えたとき、汗を流した喜び、人のために役立った満足感を味わうことができる。奉仕活動では、働いた後に充実感や満足感などが得られるという心情を育てたい。

(2) 資料について

本資料は、主人公である「ぼく」が、先生や女の子が働く姿を見て、自分も何か役に立つ仕事をしなくては、と考え実行していく話である。「ぼく」が実行に移すまでの心の変容を考えていくことで、進んでみんなのために働くことの意義を理解させ、いざというときの実践への意欲を高めたい。

### 4 防災教育の視点

- ・働くことの大切さと満足感を知り、いざというときにも進んで人のため、周りの人のために働こうとする。(共助)

### 5 展開

本時のねらい	・働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働こうとする態度を育てる。
学習活動	・指導上の留意点 ○評価
1 「自分がしている仕事」のアンケートを書く。(5分)	・普段、自分がしている仕事、手伝い等には、どんなことがあるか、思い起こさせる。
2 登場人物や場面の条件・状況を知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           (登場人物)・ぼく(宮本君) ・大浜先生 ・一年生くらいの女の子            (条件・状況) 大きな地震におそわれ、学校で避難所生活をしている「ぼく」。大人たちは、先生やボランティアの人と協力して、避難所の仕事を行うことになった。         </div>
3 資料「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」を読み、話合いの方向性をつかむ。(5分)	・阪神・淡路大震災について掲示資料等を活用しながら補足説明する。
4 「ぼく」の行動について話し合う。(20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の素晴らしさに気付くのと同時に、面倒な仕事は自分にはできない、先生は大人だからできるんだ、という「ぼく」の思いについて話し合わせる。</li> <li>・震災の避難所の様子を補足説明し、便所の後始末という仕事がいかに大変な仕事かを強調する。</li> <li>・先生に続き手伝う大人達が次々と現れたのはなぜかということについて考えさせる。</li> </ul>
(1) 便所の後始末を、黙々とやっている先生の様子を見ている「ぼく」はどんなことを思ったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生は立派だな。</li> <li>・よくできるなあ。ぼくにはできないよ。</li> </ul>

<p>(2) 1年生ぐらいの女の子が牛乳びんを温めて配っている様子をじっと見ている「ぼく」はどんなことを考えているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくより年下なのに、みんなの役に立とうと自分にできる仕事を探している。</li> <li>・ぼくにも何かできないだろうか。</li> </ul> <p>(3) 泣いている子のために、必死で絵本を探し回ったのは、「ぼく」のどんな気持ちからか。</p> <p>(4) 先生の「君たちがいるかぎり、神戸は立派に立ち直る」という言葉を聞いて、「ぼく」はどう思ったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰かのために働くということは、とても気持ちがいい。</li> <li>・困った時は、自分たちでも役に立つことを考えて、進んで働くことが大切なんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何もしないでいる自分と、自分よりも小さいのに懸命に働いている女の子との差について話し合わせる。</li> <li>・先生や大人達が働いているのを見ていたときは違う、「ぼくは何もしないでいていいのだろうか」という葛藤する気持ちについて話し合わせる。</li> <li>○「ぼく」の思いに共感し、実践への意欲を感じ取れたか。</li> <li>・ようやく自分の仕事が見つかり懸命になる「ぼく」の思いを十分に探っていきたい。</li> <li>○喜んでもらいたいという思いと、自分の仕事が見つかった喜びに共感できたか。</li> <li>・「生き生きしてきた」という先生の言葉から、みんなに活力が出てきたことに気付かせる。</li> <li>・進んで働くことの意義、素晴らしさについて話し合わせる。</li> </ul>
<p>5 もう一度アンケートを振り返り、自分のできる仕事について考え、感想を書く。(10分)</p>	<p>○みんなのために働くことが自分の喜びになり、人々の力にもなることに気付いたか。</p>
<p>6 「心のノート」P.78、79を活用し、身近な人々の役に立てることにはどのようなことがあるか、考えさせる。(5分)</p>	<p>・「心のノート」を活用し、今自分にできることを考えさせ、実践につなげるようする。</p>

補充・参考資料

【心のノート】(P78・79)

終末で「心のノート」P78、79「学級の役に立つこと・家族や地いきの役に立つこと」を活用し、身近な人々の役に立つことから考えさせ、実践できるように励ましていく。

【阪神・淡路大震災の概要】(内閣府ウェブページ 阪神・淡路大震災教訓情報資料集)

平成7年1月17日5時46分、淡路島北部、深さ16kmを震源とするマグニチュード7.3の地震が発生した。この地震により、神戸と洲本で震度6を観測したほか、豊岡、彦根、京都で震度5、大阪、姫路、和歌山などで震度4を観測するなど、東北から九州にかけて広い範囲で有感となった。また、この地震の発生直後に行った気象庁地震機動観測班による被害状況調査の結果、神戸市の一部の地域等において震度7であったことがわかった。

[http://www.bousai.go.jp/1info/kyoukun/hanshin\\_awaji/earthquake/index.html](http://www.bousai.go.jp/1info/kyoukun/hanshin_awaji/earthquake/index.html)

## 小学校第3学年 社会 「学校のまわりのようす」

### 1 単元の目標

- ・学校周辺の特色ある地形、土地利用の状況や交通の様子などに関心をもち、計画に沿って観察・調査し、必要な情報を読み取って絵地図にまとめることを通じて、地域の様子は場所によって違いがあることを理解する。

### 2 単元の指導計画（13時間扱い）

- |                |                    |
|----------------|--------------------|
| ・学校のまわり（3時間）   | ・たんけんの計画を立てよう（1時間） |
| ・コース別たんけん（3時間） | ・班ごとの絵地図づくり（3時間）   |
| ・たんけん発表会（1時間）  | ・まとめ（2時間）          |

### 3 防災教育の視点

- ・学校の周り地域に、防災に関する施設・設備があることを理解させる。  
(災害に関する知識・理解)

### 4 展開（4 / 13時）

本時のねらい	・学校の周りについて、調べる対象や視点を明確にして計画を立てる。		
学習活動	・内容	・指導上の留意点	○評価
1	自分の担当する探検コースを確認する。 (10分)	・事前に、方位や目印になるものを地図に記入しておく。	・学校のまわりの地図 ・方位磁針
学校のまわりをたんけんする計画を立てよう			
2	見たいこと、知りたいことを話し合う。 (25分) ・住宅やお店の多いところ ・土地の高いところや低いところ ・みんなのための施設 ・大きい道路 ・電車の駅やバス停 ・昔からあるもの（神社や寺など） ・避難場所の看板や防災倉庫	・見学時の自分たちの行動の様子を予想させ、交通安全や公衆マナーについて説明する。 ・避難場所の看板や、土地の高低などの写真を示し、調査に関する視点を広げる。 ・見学では調査できない対象を取り上げ、インタビューが有効であることに気付かせる。 ・班の友だちと話し合わせ、各コースで何を見てくるのか視点を明確にする。 ○対象や視点を明確にして計画を立てている。【思・判】	・たんけんの計画カード ・避難場所の看板の写真 ・防災倉庫の写真
3	グループで話し合った調査対象や方法について発表する。 (10分)	・情報を共有化することで、どのコースでも、それぞれの視点がもてるようにする。	

## 補充資料



【避難場所】 災害で自宅にいられなくなった、また、そのおそれがある時に避難する建物のことをいう。公民館は、高齢の方や障害のある方など「災害時要援護者」の優先避難場所となる。

【一時避難場所】 災害発生時に一時的に避難する場所。

(さいたま市ウェブページより)

## 参考

### 【帰宅困難者を支援するシステム】

さいたま市を含む\*九都県市では、災害時に帰宅が困難になる方の対策として、水道水・トイレ・情報の提供が受けられるようガソリンスタンド・コンビニエンスストアなどとの協定を結んでいる。

\*九都県市＝埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・横浜市・川崎市・千葉市・さいたま市・相模原市



### 【防災倉庫】

避難場所にある防災倉庫には、アルファ化米、粉ミルク、毛布、ライト、カセットコンロ、救急箱、組立式仮設トイレ、発電機などが備蓄されている。また、避難場所の中には非常災害用井戸を設置しているところもある。非常災害用井戸は、自家発電設備により井戸から水を汲み上げるため、地震等の災害時においても継続的に飲料水を供給できる施設である。

(さいたま市ウェブページより)

## 活動例

各学校では、「地域安全マップ」が作成されている。本小単元の地形、土地利用の学習とは別に、防災に特化したマップ作りの時間が考えられる。小学校4年生での学習と重複する部分もあるので、3年生では、様々な施設設備や看板探しの活動を中心に行うことになる。

①防災に関連する施設設備について話し合う。

・避難場所や一時避難場所、消防署、防災倉庫、防火水槽、消火器など

②探検しながら、白地図に書きこむ。

## 小学校第 4 学年 社会 「火事をふせぐ」

### 1 単元の目標

- ・地域の人々による安全を守るための諸活動に関心をもち、消防署において見学・聞き取り調査をしたり、資料を活用したりして、消防署や関係機関に従事する人や地域の人々が工夫や努力をしていること、消防署の諸活動が私たちの安全な生活の維持と向上に役立っていることを理解する。

### 2 単元の指導計画（10時間扱い）

- ・おそろしい火事（1時間）      ・消防しょをたずねて（3時間）
- ・火事が起きると（1時間）      ・火事にそなえる（2時間）
- ・市の働き（1時間）      ・地いきの協力（1時間）      ・まとめ（1時間）

### 3 防災教育の視点

- ・火事を防ぐため、火事から人々を守るために、消防署や地域の人々が協力して活動していることを理解させる。

（災害に関する知識・理解）

### 4 展開（1 / 10時）

本時のねらい	・資料から火事による災害について調べ、学習問題をたてる。	
学習活動 ・内容	・指導上の留意点 ○評価	主な資料
1 資料を見て、気付いたことを話し合う。（15分） ・消防車、救急車、パトカー ・話し合っている消防士	・火事の恐ろしさやその被害の大きさを実感できるように写真を拡大して提示する。	・消火活動の様子 ・火事の写真
2 資料から本市の火事の現状について調べる。（10分） ・件数      ・主な原因 ・統計資料の読み方	・さいたま市でのデータを示すことで、災害を身近なものに感じさせる。	・市内で起きた火事の主な原因と件数
3 資料から火事を防ぐための取組について調べたいことを発表する。（15分） ・消防車が現場に着く時間 ・消防士の様子 ・火事を消すしくみ ・119番通報	・消防署の役割や消防士の仕事など、多岐にわたる疑問を丁寧に取り上げ、学習意欲を高める。	
4 小単元の学習問題を立てる。（5分）	・疑問を整理しながら、学習問題の主旨につなげる。	
おそろしい火事をすばやく消すために、どのような人たちが、どのような工夫や努力をしているのでしょうか		

○調べたいことを整理し、学習問題を立てている。【思・判】

資料解説

【消火活動の様子】(p98～99)

ここでは、火事の様子、消火活動の様子について資料から読み取る。消防士の服や放水の様子、消防車の数などに着目することが予想される。その中から、警察官による交通整理、ガス会社の車、電気に従事する人、話し合いをしている消防士などに着目させる。このことから、多くの人々が火事の現場に関わっていることに気づかせ、防災教育における公助の考え方につなげることができる。

【一年間に起きた火事の件数】(p99)

さいたま市では、1年間に453件の火災が発生していることを読み取ることができるが、件数だけに着目させるのではなく、そのリスクについて感じとらせたい。1日1件以上起きているという事実とともに、学校の児童数とも関連させながら、数字を捉えさせる。

これにより、児童の防災に対する意識の向上、日常的な備え、安全な行動へとつなげることができる。

補充資料

写真【夜の消火活動】



提供：東京消防庁

写真【焼けあとの様子】



提供：豊中市消防本部

(総務省消防庁「防災48」ウェブページ)

副読本では、イラストだけで実際の写真はない。そこで、写真資料を提示し火事の恐ろしさを実感させたい。夜の消火活動の資料では、火の強さや火の燃え移る様子などが読み取れるだろう。焼けあとの様子からは、家具類がほぼ焼失してしまっている様子がわかる。これらは実際に火事を目にしたことのない児童にとって驚くべきことであろう。

本小単元のめあての中心は安全な暮らしを守る人々のくふうや努力についてであるが、火事の恐ろしさを考えさせることで、火災予防の意識を高めることができる。ただし、実際に火事の被害に遭ったことのある児童への配慮が必要である。

参考

平成23年中にさいたま市内で発生した主な(焼損面積が500㎡以上、又は損害額が1,000万円以上のもの)火災は以下の通りである。また、平成23年中の火災による損害額は約44億4622万円にのぼる。(さいたま市：平成24年版消防年報より)

1月 岩槻区	1月 大宮区	1月 中央区	2月 緑区	2月 大宮区	3月 浦和区
4月 緑区	4月 岩槻区	7月 岩槻区	9月 見沼区	10月 浦和区	11月 岩槻区

## 小学校第 3 学年 総合的な学習の時間 「わたしの町の安全パトロール」

### 1 単元の目標

- ・自分達の地域の安全を具体的に調べていく活動の中で、課題を発見し、見直しをもって学習を進め、まとめ・表現する力を高める。また、地域の人々とのかかわりを通して、地域の安全を守る人々の思いや願いを知り、自分にできることを実践しようとする態度を養う。

### 2 単元の指導計画（15 時間扱い）

過程	時間	学 習 内 容	
ふれる	3	地震がおきるとどうなるの？	地震のビデオを見る。 校長先生の話聞く。 防災倉庫を見る。
つかむ	2	調べてみたいな 知りたいな	調べてみたいこと、疑問に思うことを書きだす。計画を立てる。
調べる	5	計画にそって調べよう (インタビュー、見学、 体験、思い・願いを考える) 振り返り→再調査	・交通事故が起きそうな所 ・大きな地震がおきたら ・怖い人が出そうな通学路 ・安全について (ボランティア、避難場所、AED 設置場所、関係機関等) ・ここが危ない通学路 ・町の安全標示 等
まとめる	3	安全マップを作ってみんに伝えよう	調べたこと、体験したこと等をクラスごとに安全マップにまとめる。
広げる・生かす	2	自分にできることを考えよう 安全を守るために友達に伝えよう。	「〇〇小の安全を守るぞ！」発表会を開く。

### 3 防災教育の視点

- ・自分達の周りには多くの危険があることに気付き、安全に生活するためにはどうしたらよいかを考えることができるようにする。(自助)
- ・地域の安全を守るために自分達が大切だと思うことを「安全マップ」にまとめ、友達に伝えることができるようにする。(共助)
- ・自分達の日常の安全は、多くの人に支えられていること、災害時、非常時に備え様々な準備や計画をしていることなどに気付かせる。(災害に関する知識理解)

### 4 展開（14 / 15 時）

本時のねらい	・自分達が調べた、地域の中で安全に気をつけなければならないことや自分達の安全を守ってくれている人やその思いについて友達に伝えることができる。また、友達の発表を聞き地域の安全について自分なりの考えをもつことができる。	
	学習活動	・指導上の留意点 ○評価 主な資料
1	本時の活動について知る。 (5分) ・発表の仕方 ・聞き方(質問、感想、気付きなど)	・それぞれの発表方法が活かされるように場の設定を工夫する。 ・発表のめあて、話を聞くめあてを確認する。 ・安全マップ ・紹介したい人の写真 ・カード



気をつけよう、地域のここ！大切なこと！		
<p>2 グループごとに「地域の安全について大切なこと」を発表する。(30分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全マップを指し示しながら図や絵を使って、どんな安全上の問題があるのか、私たちはどうしたらよいと考えるのかを分かりやすく発表できるよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全マップ</li> <li>パネル</li> <li>画鋏</li> <li>セロハンテープ</li> <li>指示棒</li> <li>絵、図、写真、紙芝居等</li> </ul>
<p>3 発表をしたり質問に応えたりして分かったことをまとめる。(10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全な地域をつくるために、自分達が伝えたいことを、分かりやすく説明している。【主体的、創造的、共同的に取り組む態度】</li> <li>○自分の発表やそれについての質問などについて、自分なりの考えをもてるよう支援する。また、友達の発表についても自分なりの考えをもてるよう支援する。</li> <li>○地域の安全について考え、実践していこうとする意欲をもっている。 【自己の生き方】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> </ul>

補充資料

【ワークシート】

**「安全パトロール」発表会**

発表した場所に○印をつけて、大事なことをメモしよう。

発表した場所


3年 組 番 名前


◎地元の安全を守るために、実行したいことを書きましょう。


☆友達の発表を聞いて大切だと思ったことを書きましょう。


## 小学校第4学年 学級活動 「休み時間に地震が起きたら」

### 1 本題材のねらい

- ・ 休み時間に地震が起きた場合の適切な避難方法を理解し、その場に応じて安全に避難することができるようにする。

### 2 防災教育の視点

- ・ 地震が起きた際に、正しい判断と適切な避難行動をとることができるようにする。(自助)
- ・ 避難する際に自分の身を守ることに加えて、友達やまわりの人の安全を考えて行動することができるようにする。(共助)

### 3 展開

#### (事前指導)

児童の活動	・ 指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・ 地震の際の避難の仕方についてのアンケートを実施する。	・ 休み時間に地震が起きた場合の避難行動について、児童の知識を把握する。	○ 地震の際の避難方法について関心を持ち、休み時間に地震が起きた場合の危険性をよく考えている。 【関・意・態】(アンケート)

#### (本時の展開)

学習活動	・ 指導上の留意点	資料等	目指す児童の姿と評価方法
1 学校で地震が起きたとき、どんな危険があるか話し合う。(5分) ・ 教室→窓ガラスが割れる。 ・ 棚近く→物が落ちる。 2 アンケート結果について話し合う。(5分) ・ どうしたらよいかわからない人が多い。 ・ 場所ごとに気を付けることが違うのではないか。	・ これまでの地震の経験から、地震の危険について話し合い、学校では、自分のいる場所によって様々な危険があることに気付かせる。 ・ アンケート結果から、休み時間に地震が起きた際の適切な行動について理解が不足している実態について気付かせる。	アンケート結果	
休み時間に学校で地震が起きたらどのように行動したらよいか考えよう。			
3 休み時間に地震が起きた時に自分がいる場に応じて、どのような行動をとるべきかについて話し合う。(25分) <u>○廊下</u> ・ すぐに動かない。 ・ 落下物から身を守る。	・ 教員がその場にはいないということを共通の条件にして、休み時間におけるそれぞれの状況(場面)での適切な避難行動について話し合わせる。 ・ 階段では上級生として、低学年の児童を優先させるな		

<p>○階段</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・階段、昇降口は低学年優先で移動する。</li> </ul> <p>○トイレ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・扉をすぐに開ける。</li> <li>・逃げる際に閉じ込められている子がいなければ確認する。</li> </ul> <p>○校庭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物から離れる。</li> <li>・校庭中央に避難する。</li> </ul>	<p>ど、共助の視点での避難行動についても指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震により火災が発生する可能性があることにも触れ、避難方法や気を付けることがあることを指導する。</li> <li>・「何をするか」だけでなく、「なぜそうするか」についても考えさせることで実践につなげる。</li> <li>・特別教室においては、避難経路を確認して行動することにも触れる。</li> </ul>	<p>・避難経路図</p>	
<p>4 休み時間に地震が起こった時の自分のめあてを立てる。(5分)</p> <p>5 教員の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練について</li> <li>・避難経路について</li> </ul> <p>(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況に応じて、自分で考えて適切な避難行動をすることについて助言する。</li> <li>・休み時間に避難訓練を行うことを伝え、教室だけでなく、自分がいると予想される場所からの避難経路についても指導する。</li> </ul>	<p>・ワークシート</p>	<p>○休み時間を想定した地震の際の適切な行動について話し合い、自分のめあてを立てている。</p> <p>【思・判・実】 (ワークシート)</p>

**(学校全体で休み時間における地震を想定した避難訓練)**

**(事後指導)**

児童の活動	・指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その場所に応じて、自分で考えて行動することができたか振り返るようにさせる。</li> </ul>	<p>○自分で考えて、状況に応じて、適切に安全な避難行動を起こすことの大切さを理解している。</p> <p>【知・理】(ワークシート)</p>

**活動例**

- ・本指導例は、避難訓練の事前指導として実施することを前提に作成した。年間複数回実施する避難訓練の中に、休み時間における避難訓練を計画的に位置付けて、本題材を設定することによって、単なる避難の仕方を理解させるだけでなく、児童の防災意識を高め、実践力を高めることが期待できる。

**参考**

- ・自分の身を守るための指導資料や避難経路図は各教室に掲示しておく。
- ・地震により火災が発生した際には、避難経路が変わることも指導する。

**【ひなの仕方】**

- まず自分の身を守りましょう。  
(物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身をよせましょう。)  
(特に首の後ろ・頭部を守りましょう。)
- 指示に従い、避難しましょう。  
ここは、 音楽室 → 階段 → 昇降口 → 校庭

## 小学校第5学年 社会 「自然災害を防ぐ」

### 1 単元の目標

- ・我が国における自然災害やそれに伴う防災、減災の取組に関心をもち、我が国の国土は自然災害が起こりやすく、国や地方公共団体が様々な取組を進めていること、国民一人ひとりの協力、防災意識の向上が大切であることを理解する。

### 2 単元の指導計画（4時間扱い）

- ・自然災害の多い日本（1時間）
- ・災害を防ぐために（1時間）
- ・地域みんなで災害を防ぐ（2時間）

### 3 防災教育の視点

- ・自然災害に対する日頃からの備えについて理解するとともに、災害発生時に自分の身を守る方法について考えることができるようにする。(災害に関する知識・理解)(自助)

### 4 展開（4 / 4時）

本時のねらい	・これまでの学習をもとに、自然災害による被害を減らすために自分たちにできることを考え、作品に表現する。		
学習活動	・内容	・指導上の留意点 ○評価	主な資料
1	これまでに学習した災害について振り返る。（5分） ・津波 ・地震 ・台風	・それぞれの災害の特徴について、具体的に確認する。	・写真（土砂災害、地震、津波、洪水、大雪、台風、噴火）
自然災害から身を守るために、わたしたちができることを考えよう			
2	自然災害に関する防災、減災のために大切なことについて話し合う。（15分） ・災害の発生に気付くこと ・自分の身を守ること ・防災グッズを備えること ・防災訓練へ参加すること ・近所の人との関係作り ・避難場所及び集合場所、避難経路の確認	・早めに災害の兆候に気付くこと、地域の人に知らせることが、防災や減災の第一歩であることに気付かせる。 ・話し合いでは、自分の身を自分で守ることの重要性について焦点化していく。 ・具体的な事例を取り上げ、自分の身の周りでできることを考えさせる。	・防災グッズ（非常用持出品・非常備蓄品）の実物
3	自分たちができることを作品に表わす。（25分） ・防災訓練告知のポスター ・避難場所をまとめた地図 ・連絡先を記入したカード	・ポスターを作成し自宅に掲示する、カードを作成し持ち歩くなど多様な形式を認め、防災に対する意識を高める。 ○これまでの学習をふまえ、自然災害による被害を減らすためにできることを考えている。 <p style="text-align: right;">【関・意・態】</p>	

## 補充資料

### 【災害の備え】

児童が減災に必要な要件を考え、表現するためには、様々な事前の情報も必要となる。そこで、情報を教員から具体的に提示するとよい。例えば、防災グッズは実物を用意するとよい。一般的に、発災直後から公的機関による支援体制が整うまで、最低 3 日間かかると言われている。災害が発生して緊急に避難する必要がある場合は、あまり多くのものは持ち出せないため、避難のときに持っていくもの（非常用持出品）と、その後の避難生活に必要な生活用品（非常用備蓄品）とを分けておいた方がよい。

#### [非常用持出品]

飲食物	・飲料水(ペットボトルなど)、軽食(チョコレートや飴玉など)
救急用品	・絆創膏、消毒薬、脱脂綿、包帯、常備薬、処方箋のコピーなど
生活用品	・衣類、下着、防寒着など ・ティッシュ、タオル、ビニール袋 ・生理用品、オムツ ・筆記用具、メガネ、ナイフなど
貴重品	・現金、通帳、印鑑、免許証や健康保険証(コピー)

#### [非常備蓄品(3日分程度の飲料水と食料品など)]

飲料水及び食料品	・水は一人一日 3 リットルが目安、給水用のポリタンク ・調理しなくてよい非常食品、レトルト食品、缶詰、紙コップや割り箸
簡易トイレ、消火器、消火用水	
生活用品	・簡易コンロ、固形燃料、ライター、毛布、ビニールシート、軍手など
各種資機材	・おの、ハンマー、スコップ、のこぎりなど

また、避難の際に両手を空けておけるよう、非常用持出品はリュックなどに詰め、取り出しやすいように玄関などに置いておくとよい。

(参考：消防科学総合センター：消防防災博物館「もしもに備える」ウェブページ)

## 参考

### 【家具の安全対策】

児童が、実際に呼びかけて実施しやすいものに自宅の家具の点検がある。家の中には、たんすやテレビ、食器棚などの大型家具やガラスなど、震災時に凶器となる恐れのあるものがたくさんある。このような危険を少しでも減らすために、日頃から家具の配置や転倒防止に配慮する必要がある。

家具の配置については、地震により万一家具が倒れてしまっても、出入り口をふさぐことのない位置や向きに配慮する。また、寝室における家具の配置は壁を背にした家具が前方に倒れることを考慮して、就寝位置は家具の側方とするか、家具の前方とする場合は家具の高さ以上に距離をとるべきである。その他、家具の動き方や収納物の飛び出し、ガラスの飛散を意識させることで、防災、自助の視点が育つと考えられる。

(参考：消防科学総合センター：消防防災博物館「もしもに備える」ウェブページ)

### 【その他資料】

本市では、「浸水(内水)防災マップ」や「地震マップ」が作成されている。また、総務省消防庁から刊行された、児童向け「わたしの防災サバイバル手帳」が参考となる。

## 小学校第5学年 理科 「台風と天気の変化」

### 1 単元の見目

- ・台風による強風や大雨とそれに伴う災害に興味をもち、台風の進路と天気の変化について、テレビ、新聞、インターネット等の情報、教科書の資料を活用して調べ、台風の動きは、特有であることをとらえることができるようにする。また、台風による災害例について、教科書や地域にある資料等で調べ、災害に対する備えや情報活用の重要性に気付くことができるようにする。

### 2 単元の指導計画（4時間扱い）

- ・台風によって天気はどう変わるか（4時間）

### 3 防災教育の視点

- ・台風による災害の危険性や災害の備えについて理解できるようにする。  
(災害に関する知識・理解)
- ・台風による災害発生時に、情報を活用し、状況に応じて適切な行動をとり、自分の身を守ることができる。  
(自助)

### 4 展開（4 / 4時）

本時のねらい	・台風による災害を調べ、災害に対する備えや防災について考えるとともに、情報活用の大切さに気付くことができる。		
学習活動	・内容	・指導上の留意点	○評価 主な資料
1	台風の災害について、経験をもとに発表する。（5分） ・洪水 ・土砂崩れ ・交通機関の混乱	・事前に呼びかけておいた、台風がきたときの新聞の情報をもとに、発表をさせる。	
台風によって起こる天気の変化や災害について調べよう			
2	台風による天気の変化や災害について、写真や新聞などを使って調べる。（20分） ・大雨、強風 ・洪水、建築物の倒壊 など	・より実感を伴った理解となるように、台風報道の録画映像を活用させる。  ・次単元「流れる水のはたらき」との関連を図るために、増水した河川の水量と土地の様子の変化にも着目させる。	・教科書の写真 ・新聞記事 ・台風報道の映像
3	調べたことを発表する。（10分） ・洪水、がけ崩れなどの大雨による被害 ・高波、高潮、建築物等の倒壊などの強風による被害 ・水不足の解消	・台風によって水不足の解消などの恩恵を受ける場合があることを補足する。 ○台風による大雨や強風と、それがもたらす災害について進んで資料を調べたり、発表したりしようとしている。  【関・意・態】	

<p>4 調べたことをもとに、台風への備えや災害を防ぐ工夫について話し合う。(10分) 建造物の損傷などを防ぐ工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・窓や雨戸の補強をする。</li> <li>・風で飛びそうな物を固定する。</li> </ul> <p>人的被害を防ぐ工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常用品や避難経路の確認をする。</li> <li>・台風に関する情報に注意する。</li> <li>・すばやく避難する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より身近な問題としてとらえ、防災意識を高めるために、さいたま市洪水ハザードマップを提示する。</li> <li>・話し合いでは、建造物の損傷などを防ぐ工夫、人的被害を防ぐ工夫の視点で整理する。</li> <li>・話し合いの中で、情報を活用し災害に備えることの必要性について焦点化していく。</li> </ul> <p>○災害に対する備えや工夫について自分の考えを表現し、情報活用の重要性に気付くことができる。 【思・表】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の写真 (理科のひろば)</li> <li>・さいたま市洪水ハザードマップ</li> </ul>
---	---	---

#### 補充資料

【さいたま市洪水ハザードマップ】(さいたま市ウェブページ)

「荒川・入間川版」「利根川・江戸川版」「芝川版」「綾瀬川・元荒川・大落古利根川・新方川版」「鴨川・鴻沼川版」の5つの地域のハザードマップがさいたま市ウェブページに掲載されている。各河川の洪水ハザードマップは、それぞれ50～200年に1回程度降る大雨を想定し、作成されたものである。

川の水位が上昇し、堤防が決壊した場合などのシミュレーション結果に基づいて、浸水想定区域図・避難場所などを示しており、防災を身近な問題としてとらえることができる。また、非常持ち出し品例や避難時の注意点、避難情報の種類などについても記載されている。

#### 参考

【防災基礎講座：基礎知識編】

(独立行政法人 防災科学技術研究所

<http://dil.bosai.go.jp/workshop/>)

台風など自然災害のしくみや被害状況、備えなどについて、具体例に基づき、基礎的な事項を解説している。

【台風を知る】(日本気象協会 [tenki.jp](http://tenki.jp))

<http://tenki.jp/docs/note/typhoon/>)

台風のしくみや台風による災害、防災対策等を図、絵を基に説明している。

【気象情報】(気象庁ウェブページ

<http://www.jma.go.jp/jp/radame/>)

気象情報をリアルタイムで知ることができる。また、災害の警報・注意報を細かく知ることができる。

#### 資料解説

【沖縄県の伝統的な民家の赤瓦と石垣 (p.63)】

沖縄県では、昔から台風が接近することが多い。しかしながら、建造物の倒壊、損傷や人的被害が少ない。

これは、瓦でできている屋根を漆喰で塗り固めたり、家の周りに石垣をつくったりして、台風による災害を防ぐ工夫をしているからである。

なお、現在は鉄筋コンクリート造りで、堅固であるものが多い。

## 小学校第5学年 理科 「流れる水のはたらき」

### 1 単元の見目

- ・土地の様子、増水に伴う災害に興味をもち、地面に水を流して調べる。また、川とそのまわりの土地の様子について、資料や実際の川で調べ、川の上流と下流では川原の石の大きさや形に違いがあること、流れる水には土地を侵食したり、石や土を運搬したり、堆積させたりする働きがあること、流れる水の速さや水量が変わると土地の様子が大きく変化する場合があることをとらえることができるようにする。

### 2 単元の指導計画（13時間扱い）

- ・流れる水は地面をどう変えるのか (3時間)
- ・川の水は土地の様子を変えるのか (3時間)
- ・水の流し方を変えて流れる水の働きを調べよう (4時間)
- ・川を観察して水の働きを調べよう (3時間)

### 3 防災教育の視点

- ・大雨、台風などによる災害発生のメカニズムや災害を防ぐための取組について理解することができる。 (災害に関する知識・理解)
- ・増水などにより、川が危険であると予測することができる。 (自助)

### 4 展開（6 / 13時）

本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川の水が長い時間をかけて土地を変化させている様子についてまとめる。</li> <li>・川の水の働きが大きくなるときの要因と土地の変化について考える。</li> </ul>			
学習活動	内容	指導上の留意点	○評価	主な資料
1	<p>流れる水と土地の様子について話し合う。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつもは土地の様子はほとんど変化していない</li> <li>・土地の様子が変化することもある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川や川岸の様子について、大雨の前と後の写真を比較させる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の写真</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">                     流れる水が土地のようすを大きく変えるのはどのようなときだろうか                 </div>				
2	<p>生活経験や視聴覚資料を基に流れる水が土地を大きく変えることについて話し合う。(25分)</p> <p>&lt;どのようなとき&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨</li> <li>・台風</li> <li>・雪どけ など</li> </ul> <p>&lt;理由&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水量が増え、流れが速くなると、流れる水の働きが大きくなるため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の生活経験を基に、どのようなときに川や川岸の様子が大きく変わるのか、話し合わせる。</li> <li>・増水により川が危険なものになることに触れる。</li> <li>・地域に川がある学校では、増水前後の違いが分かる同地点の画像を準備しておく。</li> <li>・水量や流れの速さの変化と、土地を変化させる働きに関連性に気付くことができるよう、話し合いの話題を整理する。</li> </ul> <p>○川の水量が増えたときに、土</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・NHK デジタル教材</li> </ul>



	地の様子が大きく変わることを理解している。 【知・理】	
3 災害を防ぐ工夫について話し合う。(15分) ・川の水をあふれさせないための工夫 ・流れを弱めるための工夫 ・川の水があふれたときのための工夫	・教科書の写真を見て、災害を防ぐために、どのような工夫がされているかを話し合わせる。 ・地域の川において、災害を防ぐために行われている工夫について話し合わせることで、防災への意識を高める。	・四万十川の沈下橋 ・教科書の写真資料(理科のひろば) ・NHK デジタル教材

#### 資料解説

##### 【大雨前後の川の様子】(P75)

2枚の写真は、川幅や川岸などが一見変わっていないように見えるが、川原の位置が変わっている。

導入において、2枚の写真は大雨の前後であることを伏せておく。次に、展開において、どのような気象の時に川が大きく変化するかを考えさせる。そして、流れる水の量や速さ、川原の位置に注目させ、土地のようすの変化に気付かせていく。

##### 【NHK デジタル教材】(NHK ONLINE ウェブサイト)

5年理科「ふしぎがいっぱい」では、大雨で増水した川の水が、川岸の土を削る様子の映像などがある。また、災害を防ぐための工夫、堤防や河川敷などの映像もある。

#### 参考

##### 【四万十川の沈下橋 指導書】(P90)

高知県を流れる四万十川は、途中、約50の沈下橋がある。増水の際、橋が水面下に潜ってしまうことをあらかじめ想定したものである。

#### 参考

##### 【最上川の1年間の水量変化】(P88)

増水の原因は、台風や梅雨の頃の集中豪雨、雪どけなどである。雪どけについてはさいたま市ではあまり身近ではないが、グラフを見ることで、梅雨(7月)だけでなく、雪どけの頃(4月)も水量が多いことが読み取れる。

##### 【災害情報】(国土交通省 国土地理院

<http://www.gsi.go.jp/bousai.html>)

平成23年台風12号の大雨による災害前後の空中写真など、最近の災害関連情報が掲載されている。川幅や川原の位置の変化を確認することができる。導入で大雨前後の川や川岸のようすの違いを読み取らせる際に活用することもできる。

##### 【防災基礎講座：基礎知識編】

(独立行政法人 防災科学技術研究所

<http://dil.bosai.go.jp/workshop/>)

台風・洪水など自然災害のしくみや被害状況、備えなどについて、具体例に基づき、解説している。特に、地形・地盤など地域の土地環境に重点をおいて説明している。

## 小学校第6学年 理科 「大地のつくりと変化」

### 1 単元の目標

- ・大地やその中に含まれている物に興味をもち、大地の構成物やでき方について資料などによる調査、地層の観察を行い、各地層が水の働きによるものか火山の働きによるものかを推論できるようにする。また、大地の変化について、自然災害と関係付けながら調べ、大地は地震や火山の噴火などによって変化すること、自然の力は大きいことを感じとれるようにする。

### 2 単元の指導計画（11時間扱い）

- ・がけにしま模様がみられるのはなぜか（1時間）
- ・地層はどのようにしてできるのか（3時間）
- ・わたしたちが住む大地はどのようにしてできたのか（2時間）
- ・地しんや火山のふん火による大地の変化を調べよう（5時間）

### 3 防災教育の視点

- ・地震による大地の変化の様子やその危険性などについて理解できるようにする。  
（災害に関する知識・理解）
- ・地震発生時に、身の安全確保に努めることができるようにする。（自助）

### 4 展開（7 / 11時）

本時のねらい	・地震による大地の変化の様子について理解することができる。		
学習活動	・内容	・指導上の留意点 ○評価	主な資料
1	大地が変化する要因について話し合う。 （5分） ・流れる水の働き ・地震 ・火山の噴火	・見たこと、体験したことを基に、地震や火山の噴火による大地の変化の様子について話し合わせる。 ・大地は、流れる水の働きだけでなく、地震や火山の噴火によっても変化することを説明する。	
地震によって大地はどのように変化するのだろうか			
2	地震による大地の変化を調べる。 （20分） ・がけ崩れ ・道路の崩れ ・地割れ、土地のずれ（断層）	・地震による大地の変化や過去の地震のあとの様子など、大地が変化したことによってもたらされたものを中心に調べさせる。 ・地震発生時には、まず自身の安全を確保することに触れる。	・教科書の写真 ・地震被害写真集 （新潟県中越地震／岩手宮城内陸地震／東北地方太平洋沖地震等）
3	調べたことを発表する。 （15分）	・大地の変化と変化をもたらすエネルギーについても、話し合わせる。 ・より実感を伴った理解となるように、さいたま市において	・さいたま市地震マップ

	<p>想定されている地震やその被害予測を説明する。</p> <p>○地震による大地の変化の様子について理解している。</p> <p style="text-align: right;">【知・理】</p>	
4	<p>本時の学習を振り返る。</p> <p style="text-align: right;">(5分)</p>	

#### 補充資料

【地震被害写真集】(首都大学東京都市環境学科土質研究室ウェブページ

<http://geot.civil.ues.tmu.ac.jp/archives/eq/index-j.html>)

国内外で大きな被害が出た地震を取り扱っている。児童の調べ学習の際、参考となる地盤の液状化や斜面・盛土の崩壊など、地震により大地が変化したことによる災害を中心とした画像集である。

【さいたま市地震マップ】(さいたま市

<http://www.city.saitama.jp/www/content/s/1215586890558/index.html>)

さいたま市に大きな被害をもたらす地震を想定して、震度や被害(液状化現象)を予測し、地図上にまとめたものである。

#### 資料解説

【宮城県栗原市の写真】(p104)

写真におけるがけ崩れに注目させる。栗原市周辺では地震のゆれで山が大きく崩れ、道路などが遮断された。地震によって大地が大きく変化することに気付かせたい。

【兵庫県淡路市の写真】(p105)

土地のずれに注目させる。ずれの幅は草の高さから想像することができる。(垂直方向で約 50cm)。

左の写真から、段差が長く続いていることが分かる。地震によって大地が大きく変化することに気付かせる。

#### 参考

【東北地方太平洋沖地震 2011年】

大津波以外にも、東日本全域にわたる大きな地殻変動や東北太平洋岸の地盤沈下や液状化現象など広大な範囲で被害が発生した。

【岩手・宮城内陸地震 2008年】

建物被害が少なく、土砂災害が多かった地震。特に栗駒山では、史上最大規模の山体崩壊が起こった。

【自然災害のしくみ】(独立行政法人 防災科学技術研究所

<http://www.bosai.go.jp/>)

地震災害を始め、各種の自然災害のしくみを説明している。

【兵庫県南部地震 1995年】

淡路島北部から六甲山地東部にいたる長さ 30km の断層の活動によるもので、数 km にわたって断層が出現した。この断層に沿って、南東山地側が 0.4~1.3m 上昇、北西海岸側に対して 0.7~1.2m 右方へずれた。

【地震情報】((財)日本気象協会 [tenki.jp](http://tenki.jp) <http://bousai.tenki.jp/bousai/earthquake/>)

日本各地で起こった地震の震度に関する情報や震源情報、震度を、最新の地震からさかのぼって順に知ることができる。

## 小学校第5学年 体育科（保健） 「けがの防止」～けがの手当～

### 1 単元の目標

- ・学校や地域で起こるけがは、人の行動や身の周りの環境が関わって起こることに気が付き、けがの防止に対する関心を高めることができるようにする。【関心・意欲・態度】
- ・学校や地域におけるけがの原因から課題を見つけ、課題解決の学習を通して、けがの防止のしかたや自分の生活への生かし方を考えることができるようにする。【思考・判断】
- ・けがの原因やけがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当のしかたについて理解することができるようにする。【知識・理解】

### 2 単元の指導計画（5時間扱い）

- ・けがの発生（1時間）
- ・交通事故の防止（1時間）
- ・学校や地域でのけがの防止（1時間）
- ・けがの手当（1時間）
- ・災害に備えて（1時間）

### 3 防災教育の視点

- ・学校や地域で起こるけがや事故の原因には、人の行動とまわりの環境が関わっていることを理解し、簡単な手当の仕方ができるようにする。（自助）
- ・けがをした場合やけが人が出た場合に、落ち着いた正しい判断と近くの大人に助けを求めるなどの適切な対応ができるようにする。（共助）

### 4 展開（4／5時）

本時のねらい	・けが人が出たときは、落ち着いて観察し、正しく通報するなど適切に対処することを理解させるとともに、簡単なけがの手当ての仕方について理解できるようにする。		
学習活動	・内容	・指導上の留意点	○評価 主な資料
1	学校でけがをした人が出た場合にどのような行動をするか考える。（5分） ・落ち着いて観察する。 ・通報する。 （近くにいる先生や職員室、保健室の先生を呼びに行く。）	・具体的な事例を挙げ、児童がイメージしやすいようにさせる。 ・学校内であれば、近くに人がいる可能性が高い。その人に助けを求めても良いことを理解させる。	
けがをした人が出たときにどのように行動すればよいのか考えよう			
2	学校外でけがをした人が出た場合にどうしたらよいか考える。（7分） ・落ち着いて観察し、判断する。（周りに危険はないか、けがの程度はどうか、近くに人がいるかどうかなど） ・近くの大人や救急機関に知らせる。	・児童の実態に応じてなるべく具体的な例を挙げ、児童がイメージしやすいようにする。 ・学校外では、近くに人がいないことがあるので、時には、自分一人で判断し、対応しなくてはならないことを自覚させる。 ・救急機関への知らせ方は、できるだけ具体的にイメージできるようにする。	・事故の場面の画像

<p>3 AEDとは、どのようなもので、どこに置いてあるのかを理解する。(8分)</p> <p>4 簡単なけがの手当の仕方について理解する。(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すりきず</li> <li>・鼻血</li> <li>・切りきず</li> <li>・やけど</li> <li>・ねんざや打撲・つき指</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急車の呼び方として、公衆電話の種類と救急電話のかけ方を理解させる。</li> <li>・AEDとは、どんなときに使い、普段どこに置いてあるのかを理解させる。</li> <li>・先生の指示があったら持つてくることができるようにする。</li> <li>・自分にできることを落ち着いて素早く行うことが大切であることを伝える。</li> </ul> <p>○ けがの原因やけがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当のしかたを理解している。【知・理】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆電話の画像</li> <li>・手順を記した掲示資料</li> <li>・AED画像(あるいは、実物)</li> <li>・けがの手当の仕方を記した掲示資料</li> </ul>
<p>5 本時で学習したことの感想や今後、気を付けることについてワークシートに記入する。(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりが本時で学習したことを振り返り、今後気をつけることを記入させる。</li> </ul> <p>○ 学校や地域で起こるけがの原因に気付き、けがの防止や手当のしかたを自分の生活へ生かそうとしている。【思・判】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>

補充資料

【救急車の呼び方、伝え方】

- (1) 119番にダイヤル
- (2) つながったら  
「救急です。救急車をお願いします。」
- (3) 住所を告げる。  
住所が分からない場合は、目標物(○ビルの前です。)を告げる。
- (4) 事故や傷病者の状態を説明する。  
「だれが」「いつ」「どこで」「どのようなになったのか」  
あとは、係員の質問に答え、指示に従う。

【公衆電話の種類と救急電話のかけ方】



- ① 受話器をはずす→②赤い救急ボタンを押す→③119番を押す。  
(グレーの電話は、救急ボタンを押さなくてよい。)

【AEDとは何?どこにある?】

AEDは、電気ショックによって心臓のけいれんを取り除き、心臓を正常な状態に戻すための機器である。

普段は、どこにあるのか、思い出させながら確認する。



## 小学校第5学年 体育科（保健）「けがの防止」～災害に備えて～

### 1 単元の見目標

- ・学校や地域で起こるけがの原因には、人の行動や身の周りの環境が関わって起こることに気付き、けがの防止に対する関心を高めることができるようにする。  
【関心・意欲・態度】
- ・学校や地域におけるけがの原因から課題を見つけ、課題解決の学習を通して、けがの防止のしかたや自分の生活への生かし方を考えることができるようにする。  
【思考・判断】
- ・けがの原因やけがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当ができるようにする。  
【知識・理解】

### 2 単元の指導計画（5時間扱い）

- ・けがの発生（1時間）
- ・交通事故の防止（1時間）
- ・学校や地域でのけがの防止（1時間）
- ・けがの手当（1時間）
- ・災害に備えて（1時間）

### 3 防災教育の視点

- ・学校や地域で起こるけがや事故の原因には、人の行動とまわりの環境が関わっていることを理解するとともに、けがの手当てができるようにする。（自助）
- ・けがをした場合やけが人が出た場合に、落ち着いた正しい判断と近くの大人に助けを求めるなどの適切な対応や大人の手伝いができるようにする。（共助）

### 4 展開（5/5時）

本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな災害が発生して、けがをしてしまった場合、また自分は無事でもまわりの人がけがをしてしまった場合にどのような行動をとればよいか理解できるようにする。さらに、災害時に役立つけがの手当てについて理解させる。</li> </ul>			
学習活動	・内容	・指導上の留意点	○評価	主な資料
1	地震や津波などの震災時の映像を見て、非常時は、すぐに病院では診てもらえない場合があることを知る。 (5分)	・映像を見せ、自分たちが直面する可能性がある災害について具体的なイメージをもてるようにする。		・地震や津波の映像 あるいは画像、新聞記事
きずの手当てについて理解しよう				
2	前時に学んだけがの手当について実習し、手当の仕方を理解する。 (25分) (前時に扱ったけが) ・すりきず　・鼻血 ・切りきず　・やけど ・ねんざや打撲・つき指	・前時に学習したことを掲示物にしておき、すぐに確認できるようにする。  ・前時に行ったけがの手当については、災害時でも役立つことを認識させる。		・けがの手当てを記した掲示物

<p>3 災害のときに、身体に異常を訴えた友だちがいたときにできることを考えよう。</p> <p>(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出血しているとき</li> <li>・痛みを訴えたとき</li> <li>・寒気を訴えたとき</li> <li>・吐き気を訴えたとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二次災害にあわないようにすることに留意させる。 (物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身を寄せる。)</li> <li>・大人に助けをもとめる。</li> <li>・大人が来たら手伝えることを考えさせる。 (AEDの運搬等)</li> <li>・既習のけがの手当ての方法や日常生活での体験を基に考えさせる。</li> </ul> <p>○けがの原因やけがの防止について理解するとともに、災害時の応急手当について留意すべきこと理解しようとしている。 【関・意・態】</p>	
<p>4 本時で学習したことの感想や今後、気をつけることについてワークシートに記入し発表する。</p> <p>(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりが本時で学習したことを振り返り、今後どんなことに気を付けようとしているのかを記録させる。</li> </ul> <p>○本時の学習を自分の生活へどうやって生かしていくかを考えている。 【思・判】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>

補充資料

【津波の映像や画像】



写真提供：首都大学東京土質研究室

津波や地震の際は、すぐに病院で診てもらうのが難しいことがイメージできるように、映像や画像があるとよい。

【地域の避難場所や危険な場所の地図】



地域の避難場所や危険な場所についても知っていれば、非常時に慌てなくてすむ。

活動例

【2人1組で実際に行う】

児童は、前時でけがの手当ての仕方について学習してきている。本時では、2人1組やグループをつかって、実際に手順にしたがって行わせて体得させたい。

<b>参考</b> <b>小学校第6学年 体育科 「水泳」～着衣泳～</b>
--

**1 単元目標**

- ・安全に気をつけて、積極的に様々な泳ぎ方に挑戦することができるようにする。【関心・意欲・態度】
- ・自分の力にあつためあてを持ち、その達成に向けて、練習の仕方や行い方を選んだり工夫したりして取り組むことができるようにする。【思考・判断】
- ・自分の能力にあつた泳ぎ方に挑戦し、補助や補助具などにより技能を向上させ、速く泳ぐことや長い距離を泳ぐことができるようにする。【技能】

**2 指導計画（9時間扱い）**

- ・水泳の学び方、泳法の基本動作（1時間）
- ・クロール、平泳ぎの基本技能（1時間）
- ・クロール、平泳ぎ課題別練習（2時間）
- ・様々な泳法や速さ、距離に挑戦（2時間）
- ・水泳検定（2時間）
- ・着衣泳（1時間）

**3 防災教育の視点**

- ・衣服を着たままで水に落ちたらどうするかを体験的に学び、とっさの時の自己保全の行動につなげられることができるようにする。（自助）

**4 展開（9／9時）**

本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着衣での水中の不自由さを知り、着衣泳の方法を知ることができる。</li> <li>・慌てず、浮いて救助を待つことの大切さを知り、できるようにする。</li> </ul>	
学習活動 ・ 内容	・ 指導上の留意点 ○ 評価	主な資料
1 集合、挨拶、体調の確認をする。 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はっきりと大きな声で挨拶をする。</li> <li>・児童の健康状態を確認する</li> <li>・しっかり準備体操をする。</li> <li>・水着を着て水慣れを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水の事故に関する事例</li> </ul>
2 準備運動、水慣れをする。 (5分)		
3 課題を知る。 (5分)		
着衣での水中の不自由さを知り、着衣泳の方法を知ろう		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)水の事故で毎年1,000人近い人が亡くなっている。</li> <li>(2)服のまま水に落ちている。</li> <li>(3)川や海の近くで遊んでいるときに事故が起きている。</li> <li>(4)もし、水に落ちたら浮いて助けを待つ。</li> </ul> 上記のことを説明する。	



<p>4 服を着て、入水する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着衣での水慣れ</li> <li>・水中での靴脱ぎ</li> <li>・着衣でのけのびや伏し浮きやクロール、平泳ぎなどを行ってどの泳ぎ方が良いか知る。(15分)</li> </ul> <p>5 背浮きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットボトルを脇にかかえて浮かんでみる。</li> <li>・上着に空気を入れて浮かんでみる。(5分)</li> </ul> <p>6 流れるプールをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流れのある中で、浮いたり泳いだりしてみる。(5分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着衣しているときとしていないときの違いに気づかせる。</li> <li>・水中での靴脱ぎを体験させる</li> <li>・万が一の状態を想定し、浮いたり泳いだりさせる。</li> <li>・着衣していることで普段と異なると理解させる。</li> <li>・クロールよりも平泳ぎの方が「長く浮いているという点」ではよいことに気づかせる。</li> <li>・力を抜いてあおむけに浮く(無駄な力をつかわない)</li> <li>○安全に気をつけて積極的にさまざまな浮き方を試そうとしている。【関・意・態】</li> <li>○服を着たまま水に入った時の特性を知り、疲れないで長く浮いていられる。【技】</li> <li>・流れがあるときの方が、ないときよりも難しくなることを体験させる。</li> </ul>	
<p>7 体調の確認、整理運動をする</p> <p>8 まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カード</li> </ul> <p>9 挨拶し、後片付けをする。(7分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を発表させ、着衣した状態で水に落ちた際にどうしたらよいかを確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>

参考



## 小学校第6学年 学級活動「家にいるときに大きな地震が起こったら」

### 1 本題材のねらい

- ・児童が家庭にいるときに、大きな地震が起こった場合、どのような行動をとるべきか話し合い、実際に大きな地震が起きた場合に適切な避難行動へ生かすことができるようにする。

### 2 防災教育の視点

- ・大きな地震が起こったときに、自分の身を守るための適切な行動について理解し、安全に避難することができるようにする。(自助)
- ・家族や周りの人を助けることの大切さを理解して、行動することができるようにする。(共助)

### 3 展開

#### (事前指導)

児童の活動	・指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・家にいるときに起きた大きな地震についてのアンケートを行う。	・事前に地震に対する児童の意識を高めるとともに、実態を教員が把握しておくようにする。	○家にいるとき地震がおきた場合に問題となる場所や行動を考えている。 (アンケート)【関・意・態】

#### (本時の展開)

学習活動	・指導上の留意点	資料等	目指す児童の姿と評価方法
1 大地震についてのアンケート結果を見て話し合う。(10分) ・台所の棚が倒れるかもしれない。 ・大きな地震が起こったら、まず玄関のドアを開ける。	・写真資料等を通して、大地震の被害の様子やいつ起こるかわからないことを確認する。 ・家庭にいるときに地震が起きた場合を想定させ、どのような行動をとるべきか、考えさせる。	・アンケート結果 ・写真資料	
家にいるときに大きな地震が起こったらどのように避難したらよいか考えよう			
2 家にいるときに大きな地震が起きた場合の避難の仕方について話し合う。(25分) ①自分の身を守るためにすべき行動 ・「物が落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所に身を寄せる。 ・姿勢を低くする。 ・割れる、倒れる物に近づかない。(ガラス・家具) ・ドアを開ける。	・家にいるときに大地震が発生した場合、どうしたらよいか、これまでの避難訓練等の経験を想起させ、その際、自分自身の安全確保を優先に考えるよう助言する。 ・避難の際に何を持っていくべきか、どこに集合するか、どのように連絡を取り合うかなど、家族で考えておくことの重要性に気付かせる。また、地域で指定された避難場所があることにつ		

<ul style="list-style-type: none"> <li>・慌てて外に出ない。</li> <li>・大きな揺れがおさまったら避難を始める。</li> <li>②自分の身を守った上で家族など、周りの人のためにできる行動</li> <li>・声をかける</li> <li>・家族に安全を知らせる。</li> <li>・お年寄りとは、手をつなぐなどして一緒に避難する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いて知らせる。</li> <li>・自分のできることはないか、身近なことで、できることから考えさせる。</li> <li>・幼児、お年寄りがいる場合についても考えさせる。</li> <li>・大地震が発生し、火災が発生することも想定させ、学校での避難訓練や「おかしもち」の行動を生かすことの大切さに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>	
<p>3 今後、家にいた時に、大きな地震が起きた際に自分がとるべき行動についてのめあてを立てる。 (5分)</p> <p>4 教師の話聞く。 (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の家、家族を想起させてめあてを立てさせる。</li> <li>・「災害時安心つながるカード」の使い方を学ぶとともに、携行することを確認する。</li> <li>・家庭で防災グッズや地域の避難場所の確認をさせる。</li> <li>・地域の防災訓練に保護者が参加する際には可能な範囲で参加することにふれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>	<p>○家にいた時の地震に対する安全な行動を考え、自分のめあてを立てている。</p> <p>【思・判・実】 (ワークシート)</p>

**(事後指導)**

児童の活動	・指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での防災グッズの確認や避難場所について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年だより等で家庭に協力を依頼し、家族で大地震が起きた際を想定した防災用品や避難場所確認、連絡方法等を話し合ってもらおうようにする。</li> </ul>	<p>○家庭で大きな地震が起きた際の家庭での防災の備えや避難場所、約束等を理解している。(ワークシート)</p> <p>【知・理】</p>

**活動例**

・本指導例では、大地震における家の中での危険性、安全確保への理解だけでなく、小学校高学年として、身近な家族について考えることについても視点を置き、共助についても指導する。

**参考**

・自助、共助ができる児童を育てるために、本時を活用して「災害時安心つながるカード(小学生用)：さいたま市教育委員会作成」の使い方や、日頃から携行することの大切さを確認する。また、本時の学習内容を学年だより等で家庭にも知らせて、防災グッズや地域で指定された避難場所(つながるカードにも記入欄あり)について家族で話し合い、決めておいてもらうように依頼し、事後指導の際に活用する。



【図1：災害時安心つながるカード(小学生用)裏面】

## 中学校第2学年 道徳「人間として生きる喜びを見出す」

### 1 主題名

「人間として生きる喜びを見出す」 3－(3) 人間の弱さの克服

関連項目「勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める」 4－(5)

### 2 資料名

「私には何ができるのだろう」(さいたま市小・中学校道徳読み物資料「みらいを拓く」)

### 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

中学生の時期は、人間が内に弱さや醜さをもつとともに、強さや気高さも併せてもっていることを理解することができるようになってくる。しかし、なかなか自分に自信がもてないでいるため、劣等感にさいなまれたり、人をねたみ、恨み、うらやましく思ったりすることもある。自分を奮い立たせることで目指す生き方、誇りある生き方に近付けるといふことに目を向けられるようにすることが大切であり、内なる自分に恥じない、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことにつなげたい。

(2) 資料について

人は、総体として弱さをもっているが、それを乗り越え次に向かっていくところに素晴らしさがある。時として、自己の思い込みを優先させ、誘惑に負けて行動することもあるが、だれもがもつ良心によって悩み、苦しみ、呵責に耐えられない自分の存在を深く意識するようになる。そして、人間として生きることの喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人は強く、気高い存在になりうる。

主人公は大震災に遭った時の自分の不用意な行動を後悔しつつ、被災した少年の生き方から、人の強さや気高さを知り、自分を奮い立たせるすべを考え始める。この主人公の姿を通して、弱さを乗り越え、誇りある生き方や、夢や希望を持った生き方を見いだそうとする態度を養いたい。

### 4 防災教育の視点

- ・災害には、社会や家族の絆が大切であり、自分もその一員であることを自覚して生活できるようにする。(共助)

### 5 展開

本時のねらい	・人間の弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを知り、人間として生きることの喜びを見出そうとする態度を養う。
学習活動	・指導上の留意点 ○評価
1 平成23年3月11日の地震が起きた時の行動を思い出す。(5分)	・体験を想起させ、不安な気持ちや、好奇心があったことを思い出させる。

2 登場人物や場面の条件・状況を知る。	<p>(登場人物) 中学生 わたし 小学生</p> <p>(条件・状況) 中学生が学校で地震に遭遇し、避難をした。自分たちの命には危険が無かったが、帰宅後に見たニュースで、先ほどの地震と津波により、多くの死者、行方不明者がでているなど大きな災害が発生していることを知る。</p>
<p>3 資料「私には何ができるのだろう」を読んで話し合いの方向性をつかむ。</p> <p>(1) 避難した後、友達と笑って話をしている主人公はどんな気持ちだったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スリルを味わった。</li> <li>・自分にとってはたいしたことはない。</li> </ul> <p>(2) 家に帰り「一万人以上の死者、行方不明者」という事実を知った主人公の気持ちはどんなだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信じられない。</li> <li>・笑っていた自分が恥ずかしい。</li> </ul> <p>(3) 「大黒柱になる」という少年の言葉を聞いた主人公の気持ちはどんなだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も同じような決意ができるだろうか。 (25分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災の映像（津波）、写真等を活用してもよい。</li> <li>・命に危険のないスリル感を味わっていた感覚に気付かせる。</li> <li>・地震には遭遇したが、避難することはでき、たいしたことはなかったという気持ちに気付かせる。</li> <li>・思いもよらない死者、行方不明者の数に驚かされる気持ちに気付かせる。</li> <li>・他人事として、笑っていた自分に対して腹立たしくなっていることに気付かせる。</li> <li>○主人公の心の葛藤に気付いたか。</li> <li>・自分の弱さに気付き、自分をしっかり見つめようとしていることに気付かせる。</li> <li>○自分に対しての迷いや不安な気持ちに気付いたか。</li> </ul>
<p>4 「私には何ができるだろう」を自分におきかえて考える。 (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公を自分と重ね合わせ、自分の生活、これからの生き方を考えさせる。</li> <li>・自分の生活の中で弱さを克服することができた経験をもとに考えさせる。</li> </ul>
<p>5 「絆」という言葉を聞いて何を感じるだろう。また、自分が大切にしている「絆」とはどんなものだろうか。 (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と人のつながりについて考えさせ、自分を振り返らせる</li> <li>○共助の視点で発表できているか。</li> </ul>

参考資料

【東日本大震災を教訓とした防災教育教材「自分の命は自分で守る」－津波災害への備え－（内閣府）DVD】

東日本大震災における津波災害の様子についての映像資料編（ダイジェスト）を活用することができる。

【中学校心のノート】（文部科学省 [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/doutoku/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/index.htm)）

P80・81・82・83「かみしめたい人間として生きるすばらしさ」を活用して人間には自分の弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることについて話し合う。

## 中学校第3学年 道徳 「優れた文化の継承」

### 1 主題名

「優れた文化の継承」 4 - (8) 郷土愛

### 2 資料名

「津波てんでんこ」(さいたま市小・中学校道徳読み物資料 「みらいを拓く」)

### 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

生徒が、地域社会に根付いた文化の良さに気付き、継承していこうという心情を養うと共に、先達の言葉の重みを感じ生活をしていこうという気持ちを大切にさせたい。

(2) 資料について

地域の伝統文化についての理解を深め、その価値を継承していくことによって、新しい文化の創造にもつなげていくことが大切であり、本資料は、伝統文化に少し偏見を持っている主人公が、現実息付いている言い伝えが多くの人々の命を救ったことを知り、自分が思っていた伝統文化とは違うのではないかと考える話である。主人公は概ね今の中学生と同じような考え方であると思われることから、主人公と自己を重ね合わせて、「伝統文化」を大切にする思いをはぐくみたい。

### 4 防災教育の視点

- ・自分の住んでいる地域に愛着をもち、過去の災害から人々が得た防災に関する経験や知識を大切にしながら地域の一員として災害時に進んで行動できるようにする。(共助)

### 5 展開

本時のねらい	・ 伝統文化の継承は、自分たちの生活にも生きていることを知り、先達に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める態度を育てる。
学習活動	・ 指導上の留意点 ○ 評価
1 東日本大震災の際に子供たちの命を救った三陸地方の言い伝え「津波てんでんこ」についての話を聞く。(10分)	・ 子供たちが先達の言い伝えを守ることで命を救うことができたことを知る。
2 登場人物や場面の条件・状況を知る。	
<p>(登場人物) 由香 晴美 陽子 母 安田さん  (条件・状況) 主人公由香が地域の伝統文化の継承者、安田さんから伝統文化について取材する。その後、ニュースで耳にした「津波てんでんこ」の言葉から受け継がれる文化の大切さについて考える。</p>	
3 資料「津波てんでんこ」を読んで話合いの方向性をつかむ。 (1) 安田さんにインタビューしている晴美たちは、どんな思いで話を聞いていただろうか。 ・ 部活が気になって、気がのらない。 (2) 「津波てんでんこ」という言葉を聞いた主人公はどのような気持ちだった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統文化にあまり強い関心をもっていないことに気付かせる。</li> <li>・ 昔の言葉が今でも語り継がれている事実気付かせる。</li> <li>・ 言い伝えには先達が努力し守ってきた地域等への思いがあること、現代社会の中でも生か</li> </ul>

<p>たのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の言葉が今も語り継がれていることに驚いた。</li> </ul> <p>(3) 晴美はお風呂に浸かりながら「伝統文化」についてどんなことを考えたのだろう。 (30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化は現代の生活には関係ないと思っていたがそうではなかった。</li> </ul>	<p>せることに気付かせる。</p> <p>○言い伝えを守ったことで、多くの命が救われたことに気付いたか。</p>
<p>4 防災に関わる「言い伝え」を参考に自分たちを守るための新しい「郷土の防災標語やスローガン」を考える。 (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「言い伝え」の意味を理解させた上で、自分たちの住んでいる地域の実態に即した「標語」を作らせる。</li> <li>・どのような思いで「標語」を作成したのか発表させる。</li> <li>・心のノート P 122・123 を活用する。</li> </ul>

参考資料

【NHK クローズアップ現代】(NHK ONLINE ウェブサイト)

・平成 24 年 1 月 17 日放送「子どもが語る大震災 (2) 僕らは大津波を生きた」

東日本大震災の際に、釜石小学校 184 人の子どもたちが、自らの判断で津波から逃れることができた適切な避難行動について。

【防災に関わる「言い伝え」】(総務省消防庁ウェブページ)

[http://www.fdma.go.jp/html/life/saigai\\_densyo/index.html](http://www.fdma.go.jp/html/life/saigai_densyo/index.html)

【「津波てんでんこ」(自分の命は自分の責任で守れ)】

東日本大震災で 1,200 人を超す死者と行方不明者を出した岩手県釜石市では、3,000 人近い小中学生のほとんどが無事に避難した。背景には、古くから津波に苦しめられてきた三陸地方の言い伝え「津波てんでんこ」(自分の責任で早く高台に逃げろの意味)に基づいた防災教育があり、想定外の大津波が押し寄せる中、防災の教えが子供たちの命を救った。釜石市北部の大槌湾を望む釜石東中学校(生徒数 222 人)は、同湾に流れ出る鶴住居(うのすまい)川から数十メートルしか離れていない。11 日午後の地震発生時は、各教室で下校前のホームルームが行われていた。立ってられないほどの横揺れが生徒たちを襲った。1 階にいた 3 年生の男子は避難口を確保しようと、とっさに窓を開け、机の下へ入る。揺れが一段落すると、担任教師が「逃げろ」と叫び、2、3 階にいた 1、2 年生も非常階段を下りてきた。校庭に出た生徒たちは教師の指示を待たず、高台に向かって走りだした。途中、同校に隣接した鶴住居小学校(児童数 361 人)の児童も合流。小学生の手を引く中学生の姿も目立ったという。子供たちは普段の防災訓練で使っている高台に集まろうとしたが、だれかが「まだ危ない」と言いだし、さらに高い場所にある老人施設まで移動。学校から 1 キロメートルも走っていた。教師たちが点呼を取ったところ、登校していた両校の児童生徒計 562 人全員の無事が確認できた。5 分後、両校の校舎は津波にのみ込まれた。「てんでんこ」は「てんでんばらばらに」の意。もともとは自分だけでも高台に逃げろという考え方を示すが、現在の三陸地方では自分の命は自分の責任で守れという教訓として使われている。

## 中学校第2学年 社会 日本の諸地域

### 1 単元の目標

- ・世界的視点や日本全体からの視点から見た日本の地域的特色について関心をもち、地形や気候について、地図やグラフで調べ、地理的事象の地域差について気付くとともに、我が国の自然環境の特色が分かる。

### 2 単元の指導計画（6時間扱い）

- ・世界の地形（1時間）
- ・日本の山地と海岸（1時間）
- ・日本の川と平野（1時間）
- ・世界から見た日本の気候（1時間）
- ・自然災害と防災への取り組み（1時間）
- ・地形図の読み取り①（1時間）

### 3 防災教育の視点

- ・災害時に、状況に応じて的確に判断し、自らの安全を確保する行動がとれるようになる。（自助）
- ・復旧復興に向けた取組について、地域の方々と協力し、自分のできる範囲でボランティア活動を積極的に実践しようとする態度を育てる。（共助）

### 4 展開（5／6時）

本時のねらい	・我が国でみられる自然災害について、自然環境の特色と関連付けて理解し、人々の被害を少なくする努力に気付き、身近な地域の防災対策について考える。		
学習活動	・内容	・指導上の留意点 ○評価	主な資料
1	写真から、どのような場面か考える。 （5分） ・中学生と小学生と一緒に避難している場面	・写真を大きく引き伸ばし、中学生が小学生の手をひいている様子に気付かせる。	・ワークシート例（津波から避難している様子の写真）
われわれの住んでいる地域には自然災害は起こらないのか考えよう			
2	自然災害の種類について調べる。 （25分） ・地震 ・津波 ・強風 ・冷害 ・火山の噴火 ・集中豪雨 等	・石巻市立大川小学校での悲しい出来事を取り上げ、自然災害の被害の凄まじさを感じ取らせる。	・「ひまわりのおか」
3	自分たちの地域に発生が予想される自然災害や、その被害の様子について考える。 （15分） ・地震 ・竜巻 ・落雷 ・洪水	・さいたま市防災マップを利用して地域に予想される災害を確認する。 ○様々な自然災害について、日本の自然環境の特色や人間活動と関連づけて考察している。 【思・判】	・さいたま市防災マップ（さいたま市地震マップ、さいたま市洪水ハザードマップ）
4	災害時に取るべき行動について考える。 （5分） ・自分自身の身を守ること ・地域の人を守ること	・釜石東中学校の例をあげ、「自助」に留まらず、「共助」が求められていることに気付かせる。	・「中学生向けの危機管理・防災に関する教材」



## 補充資料

### 【ワークシートの写真「釜石の奇跡」】

東日本大震災の際、海沿いにある岩手県釜石市立鶴住居小学校の児童たちは、最初に校舎3階に避難した。その後、隣の市立釜石東中学校の生徒が校庭に走り出ているのを見て、児童たちは自主的に中学生を追い、付近の高台に避難した。中学生も小学生を助けながら避難した。

その後より高い場所を求めて、2回避難し全員が無事であった。この奇跡は、津波に対して以前から十分に備えていた釜石市の防災教育の結実といわれている。

### 【さいたま市防災マップ】

#### 「さいたま市地震マップ」

今後、さいたま市で想定される3つの地震（「東京湾北部地震」、「関東平野北西縁断層帯地震」、「さいたま市直下型地震」）ごとの揺れや液状化による危険度を表したものの。

#### 「さいたま市洪水ハザードマップ」

50～200年に1回程度降る大雨（2日間で総雨量355mm等）を想定し、市内の浸水想定区域と避難場所を表したものの。（さいたま市ウェブページ）

## 参考

### 【「3.11を忘れない」】（東京都教育委員会編纂防災教育補助資料）

これまでの日本の代表的な自然災害の状況、それに対する人々の取り組み、また、「東日本大震災」を踏まえて今後我々が備えるべきこと、中学生に期待されることなどがまとめられている。

### 【「ひまわりのおか」】（著作者：松成真理子（絵）葉方丹（文）出版：岩崎書店）

「ひまわりのおか」には、大津波で全児童108人中74人、教職員10人が犠牲となった石巻市立大川小学校の津波到達時の様子とその後の捜索、残された保護者たちの想いなどが綴られている。

### 【「中学生向けの危機管理・防災に関する教材」】（埼玉県）

埼玉県・さいたま市・明治大学危機管理センターの共同開発により作成された、中学生向けの危機管理・防災に関する教材である。

第6章では、「自分たちの地域は自分たちで守る」として「共助」の重要性について解説されている。また、第9章「災害時のボランティア活動」では、中学生のできる災害時ボランティアについて詳しく紹介されている。

## 活動例

地域の災害について関心をもたせるためには、聞き取り調査などの体験的な学習活動を取り入れることが有効である。具体的には、次のような活動が考えられる。

### ① 家族などへのインタビュー

インタビュー用紙を配付し、住んでいる地区での過去の自然災害の状況を家族、親戚、近所の方などに聞き取り調査を行う。それを持ち寄り、各自が発表する。

### ② 地域の方の講演会

過去の地域の自然災害について、地域の有識者を学校に招き、生徒への講演を依頼し、その話の中から地域の自然災害の状況を確認する。

## 中学校第3学年 社会 「地方の政治と自治」

### 1 単元の目標

- ・身近な地方公共団体の政治について関心をもち、住民の権利や義務について、憲法や法律を調べることによって理解する。また、直接民主制における主権者としての政治参加の在り方に気づき、地方自治の発展に寄与することの大切さが分かる。

### 2 単元の指導計画（5時間扱い）

- ・わたしたちと地方自治（1時間）
- ・地方自治の制度（1時間）
- ・地方財政（1時間）
- ・住民参加の拡大（1時間）
- ・わたしたちの政治参加（1時間）

### 3 防災教育の視点

- ・被害規模が大きくなるほど行政機関や地方自治体による「公助」が必要不可欠となることを理解することができるとともに、地域の方々と協力しながら、「安全なまちづくり」に参加する意欲を高める。（災害に関する知識・理解）（共助）

### 4 展開（5 / 5時）

本時のねらい	・地域づくりについて関心をもち、身近な地域について町づくりを調べ、考えたことを提言としてまとめることで、進んで地域の活動に参加する意識を高める。	
学習活動	・内容	・指導上の留意点 ○評価
主な資料		
1	国土交通省東北地方整備局長が各自治体に配布した手紙について気付いたことを発表する。（10分） ・被災した人々への異例な指示	・千年に一度・未曾有の災害を前に行政機関が取った行動を取り上げて、「公助」について説明するとともに、さいたま市の取組にも触れる。
市や自校で作った防災マップを見直そう		
2	防災マップから地域の危険性について、気付いたことを、グループの中で話し合う。グループの意見をカードにまとめる。（15分） ・気付かなかった危険箇所 ・自分が日頃感じている危険	・各地区の危険箇所を事前に把握しておく。 ・防災や交通安全など、自他の生命を守る視点で、防災マップを見直させる。 ○地域の課題やその解決のために、意欲的に調べたり、まちづくりに参加しようとしていたりしている。 【関・意・態】
3	グループの発表をもとに自分たちにできることを話し合う。（20分） ・担当部署への提案 ・地域の方への働きかけ	・「東北地方整備局長」の手紙 ・さいたま市地震マップ、洪水ハザードマップ ・自校の防災マップ

<p>4 学習を振り返り、考えたことを発表する。(5分)</p> <p>・地域の方とともに安全な町にしていきたい。</p>	<p>・地域の防災、安全を考える取組から、地域の一員として地域の今と将来を考えさせる。</p>	
---	---	--

補充資料

【国土交通省東北地方整備局長】の手紙  
平成23年3月22日、当時の国土交通大臣の意を受けた東北地方整備局長が被災地である東北各地の市町村長に手紙を出した。千年に一度ともいわれる非常時に際し、国土交通省の所管にとらわれず、被災地の地方自治体から望まれることはすべて行うことを表明したものである。大規模な自然災害からの復旧・復興に対しては行政機関による「公助」が当然必要である。東日本大震災の際も、この資料のような被災者の立場に立った「公助」が行われ、多くの人々を救済した。

政府も復興基本法の施行、復興庁の創設などを通じて、現在も震災への「公助」を継続中である。

平成23年3月22日(火)

被災された市町村の首長さまへ

東北地方整備局長  
徳山日出男

災害復旧、お疲れ様でございます。昨日もお手紙を差し上げましたが、本当に国土交通省所管事務以外のことと結構ですので、何なりとお申し付けください。

(中略)

実際、各方面に直接電話して、直接買い付けたり、持っている方をお願いしたりしました。

まだ、「国土交通省の整備局なんだからこんなことは無理だろう」という先入観をお持ちだと思います。大畠国土交通大臣からも、「国土交通省の枠を超えて政府代表の局として対応せよ」と言われておりますので、本当に何でも遠慮なく言ってください。

(中略)いつでもお手伝いさせていただきます。

参考

【「さいたま市地域防災計画」】(さいたま市ウェブページ等)

災害対策基本法に基づき、災害時に市が行う復旧・復興に至る一連の防災活動について、さいたま市防災会議が策定した計画である。本市の地域及び施設並びに市民に関わる災害に備え、細部にわたって検討されている様子が、計画書のページ数の膨大さから、容易に感じ取れる。本計画書の中で、「公助」への最大限の努力を市や防災関係機関は繰り返し誓っているが、その能力の限界も認め、防災活動の原点は「市民は自らの命は自ら守る」と規定している。

活動例

生徒が地域の危険箇所などの防災マップを見直すには、フィールドワークを取り入れた学習活動が有効である。具体的には、次のような活動が考えられる。

- ① 居住地区ごとに生徒を分ける。自分の住む地区の危険箇所が記入されたマップをもち現地を訪れ、自分の目でその危険性を確かめる。
- ② 危険箇所の近くに住んでいる方々が抱える不安などについて聞き取りを行う。
- ③ 居住地区の安全に配慮した施設(例えば指定避難場所、コンビニエンスストア、災害に対応できるガソリンスタンド、災害に対応した自動販売機など)の場所を確認する。

## 中学校第1学年 理科 「大地の変化」

### 1 単元の目標

- ・地震の体験や記録をもとに、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付くとともに、地震の原因と地球内部の働きを関連付けてとらえ、地震に伴う土地の変化の様子を理解する。

### 2 単元の指導計画（4時間扱い）

- ・地震のゆれの伝わり方（1時間）
- ・地震のゆれの大きさ（1時間）
- ・地震と災害（1時間）
- ・地震が起こるしくみ（1時間）

### 3 防災教育の視点

- ・地震災害の特徴、発生メカニズムについて理解する。（災害に関する知識・理解）
- ・地震災害発生時に状況に応じ、適切に行動しようとする態度を養う。（自助）（共助）

### 4 展開（3／4時）

本時のねらい	・地震による大地の変動や、それにもなう災害について、実生活と関連付けてとらえ、まとめる。		
学習活動	・内容	・指導上の留意点 ○評価	主な資料
1	写真や資料を見て、大地の変化について気付いたことを発表する。 (10分)	・地殻変動に伴う土地の変化が垂直方向と水平方向に及ぶことを認識させる。	・教科書 P207 図 ・地殻変動の図
地震による大地の変化と、災害について考えよう			
2	地震による大地の変化について調べる。 (5分)	・地震に伴う急激な土地の変化と日常的に続く緩やかな変化があることにも気付かせる。	
3	地震による災害と、その対策について、班の中で話し合い発表する。 (25分)	・災害をいくつか発表させる。 ・次に教科書 P208 の科学と生活を読んだ上で、私たちにできる対策を考えさせる。 ○災害時に自分たちにできることは何かを分析して解釈し、自らの考えを表現している。 <b>【思・表】</b>	・教科書 P208 「科学と生活」
4	本時の学習を振り返る。 (10分)	・自然災害について考えることの大切さに気付かせる。	
	・土地の隆起 ・地殻が変動していること		
	・隆起 ・沈降		
	・津波 ・火災 ・土砂崩れ ・液状化 ・緊急地震速報		
	・自然災害について考えること の大切さ		

## 資料解説

### 【日本列島の地殻変動】

(国土地理院 <http://mekira.gsi.go.jp/>)

地震調査研究、火山噴火予知研究のための広域地殻変動監視を目的として、全国に約 20km 間隔で 1,240 点の電子基準点を設置している。電子基準点の解析結果から、日本全土で進行している地殻変動をとらえることができる。

ホームページから、変動の様子を表す図やアニメーションを閲覧することができる。

### 【地震の被害を減らすために】

(教科書 P208 科学と生活)

地震により様々な被害を受ける。この被害を減らすために、様々な活動（例えば、緊急地震速報が人命を守ること）があること、また、防災を意識して、日頃から備えておくことが大事なことを説明した後に、生徒自身でできることを話し合わせる。

## 参考

### 【防災マニュアル】(総務省消防庁)

[http://www.fdma.go.jp/bousai\\_manual/index.html](http://www.fdma.go.jp/bousai_manual/index.html)

防災前後の対応策が細かく載っている。また、備蓄品チェックシート等も掲載されている。

### 【液状化現象とは】(新潟地震対策連絡会)

<http://www.hrr.mlit.go.jp/bosai/niigata/jishin/paneru/ekijoka/introduction.html>

液状化現象が起こるメカニズムがわかりやすく説明してある。また、簡単な実験方法が掲載されているため、時間に余裕があれば、演習実験をするのもよい。

本市でも、低地で液状化現象が発生する可能性があり、注意が必要である。

### 【地震被害写真集】

(首都大学東京 土質研究室)

<http://geot.civil.ues.tmu.ac.jp/archives/eq/index-j.html>

災害の写真は、目を背けたくなるものが多いが、実際に見せることで、学習意欲を高められると考える。時間があれば、学習活動 3 の所でこのサイトの写真を何枚か紹介する方法もある。



▲液状化現象

▲津波被害

写真提供：首都大学東京 土質研究室

## 中学校第2学年 理科 「天気とその変化」

### 1 単元の目標

- ・身近な気象に関する観察や観測を通して、気象要素と天気の変化の関係を見いだすとともに、気象現象が起こる仕組みと規則性についての認識を深める。

### 2 単元の指導計画（6時間扱い）

- ・大気の動き（2時間）
- ・日本の天気（3時間）
- ・天気を予報しよう（1時間）

### 3 防災教育の視点

- ・台風の特徴、発生メカニズムについて理解することができる。  
(災害に関する知識・理解)
- ・台風や急激な天候の変化に伴う災害時に、状況に応じて適切に行動しようとする態度を育てる。  
(自助) (共助)

### 4 展開（5／6時）

本時のねらい	・夏の天気や台風の定義・構造について、高気圧や海洋の影響と関連付けて説明する。		
学習活動	内容	指導上の留意点 ○評価	主な資料
1	夏の天気や台風について、知っていることを発表する。 (5分)	・考えたことを自由に発表させ多様な意見を認める。	
日本の夏の天気や台風について、高気圧や海洋の影響と関連付けて考えよう			
2	夏・台風の天気の特徴について調べる。 (20分) ・夏の天気 ・台風 ・太平洋高気圧 ・偏西風	・教科書を参考に、高気圧や海洋の影響を考えさせながら、夏の天気や台風について板書させる。 ○夏の天気や台風の構造等について、高気圧や海洋の影響と関連付けて説明している。 <b>【思・判】</b>	・教科書 P218 「科学と生活」
3	夏の天気・急激な天候の変化に伴う災害の注意点、その対策について発表する。 (20分) ・ゲリラ豪雨 ・落雷、突風、竜巻、発達した積乱雲 ・台風による風害・水害・土砂崩れ	・いわゆるゲリラ豪雨についても触れておく。天気の特徴を知っておくことで、防災に役立てることができるよう意識付けをする。	

<p>4 本時の学習を振り返る。 (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏の天気の特徴</li> <li>変わりやすい天気への的確に対応するためにも防災意識を持つことが大切</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏の天気について、板書をもとに確認させる。</li> <li>近年に多い急な天気の変化にも意識をもたせる。</li> </ul>	
--	---	--

資料解説

【夏の天気の注意点】(P218 科学の生活)  
ゲリラ豪雨、突風、竜巻など、急な天候の変化に伴う気象現象を例として挙げ、日本各地で、被害が出ている状況を伝える。

また、落雷により部活動中に生徒が亡くなった事例を取り上げ、天気の変化に関心をもって生活することの大切さに気付かせる。

参考

【「防災教育補助教材 中学生版 3・11 を忘れない】(東京都教育委員会)  
・台風による災害 (P12・13)

写真を使って台風による被害の大きさを示す。特に P12 の風害や水害と土砂崩れは一緒に読み合わせるとよい。

【竜巻による被害】  
(つくば市役所ウェブサイト)

平成 24 年 5 月 6 日、茨城県つくば市で竜巻が発生し、死傷者 38 名の被害があった。



(写真提供：つくば市役所)

参考

【気象情報に関する資料】

(気象庁ウェブサイト)

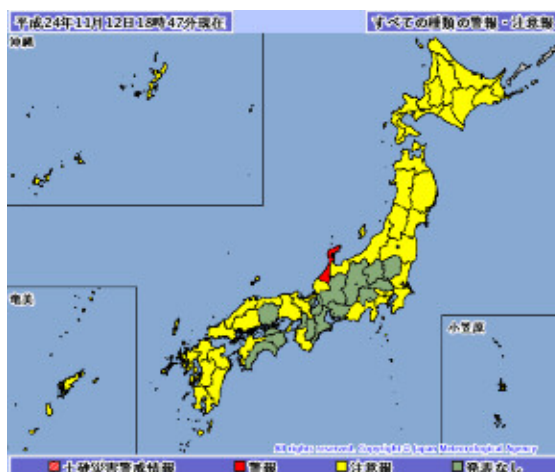
- 局地的大雨から身を守るために

([http://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/tenki\\_chuui.htm](http://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/tenki_chuui.htm))

局地的大雨(いわゆるゲリラ豪雨)の発生原因や、身を守るための注意点などがまとめられている。

(<http://www.jma.go.jp/jp/radame/>)

その日その時間の気象情報をリアルタイムで知ることができる。また、災害の警報・注意報を細かく知ることができる。このような HP を利用して、天気予報を常に確認するような指導もできる。



【大雨に関する普及啓発資料】

(熊谷地方気象台ウェブページ  
<http://www.jma-net.go.jp/kumagaya/education/index.html>)

教育機関と連携した局地的大雨に関する知識の普及啓発に関するリーフレットと指導資料がまとめられている。

## 中学校第3学年 理科 「自然と人間」

### 1 単元の目標

- ・自然がもたらす恵みと災害について調べ、これらについて多面的、総合的にとらえ、自然と人間のかかわり方について考察する。

### 2 単元の指導計画（6時間扱い）

- ・活動する大地（2時間）
- ・気候の特徴と自然災害（1時間）
- ・自然の恵みと災害の調査（3時間）

### 3 防災教育の視点

- ・過去の災害について理解することができる。（災害に関する知識・理解）
- ・火山活動や地震による災害の発生時に、学校周辺に潜む危険を予測するとともに、自ら状況に応じた行動を取ることができる。（自助・共助）

### 4 展開（2／6時）

本時のねらい	・ハザードマップの目的と意義について、例をあげて説明する。		
学習活動	・内容	・指導上の留意点	○評価
主な資料			
1	地震や火山が引き起こす災害について考える。（10分） ・地震に伴う津波被害 ・火山噴火に伴う噴出物による被害	・2つの写真の違いから、被害の様子について発表させる。	・教科書 P252 図
火山活動や地震による被害と人間との関係について考えよう			
2	災害年表を見て、日本の過去にどのような災害があったのか、被害の状況等を調べる。（15分） ・日本の主な地震 ・火山災害	・年表の中から生徒が実際に体験しているもの、チリ地震津波のように、海外で起きた地震による津波等をいくつか取り上げて説明する。	・指導書 P408、409
3	災害に対してどのような備えをしておけばよいか、ハザードマップを例に話し合い、発表する。（20分）	・学校周辺地域のハザードマップをもとに、自分たちにできること、「共助」についてを話し合わせる。 ○ハザードマップ作りを通して、対策について発表することができる。【思・表】	・教科書 P253 「科学と生活」 ・学校周辺の地図



<p>4 本時の学習を振り返る(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然現象の知識</li> <li>・防災の意識が大切</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み物とともに、埼玉県で起こりうる首都圏直下型地震が予測されていることを説明する。また、対策の必要性を伝える。</li> </ul>	
---	--	--

資料解説

【東北地方太平洋沖地震のときに発生した津波などによる浸水の被害】

(教科書 P252 図)

導入時に、土地の変化により私たち人間がどんな被害が遭遇するのか生徒一人ひとりが考え、それを自由に発表させる時に効果的である。

【有珠山の噴火から学ぶこと】

(教科書 P253 科学と生活)

ハザードマップの目的と意義、事前の対策により災害を最小限にすることができることを説明する。その上で、学校周辺地域のハザードマップをつくり、自分たちができることを話し合わせ、発表させる。

【日本の地震災害・火山災害年表(指導書 P408、409)】

生徒が生まれてからこれまでの間に起こった地震等を列挙する。日本列島では地震や火山の災害が多いことやその被害状況について認識させる。教科書 P252 図 3・4 の地図で場所も確認させると効果的である。

参考

【「防災教育補助教材中学生版 3・1 1 を忘れない」】(東京都教育委員会)

- ・年表で見る主な自然災害(P6~7)

過去の大災害について、写真付きでまとめられている。

- ・地震・火山による災害(P8~11)

災害の様子を具体的に説明するときに効果的である。

## 中学校第 1 学年 保健体育科(保健分野)「心身の機能の発達と心の健康」

### 1 単元の目標

- ・心身の機能の発達と心の健康について関心をもち、意欲的に取り組むことができるようにする。  
【関心・意欲・態度】
- ・知識を活用した学習活動により、健康・安全に関する課題について適切な思考・判断を行うことができるようにする。  
【思考・判断】
- ・心身の機能の発達と心の健康、AEDの使い方について科学的に理解できるようにする。  
【知識・理解】

### 2 単元の指導計画（11時間扱い）

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| ・体の発育 (1時間)        | ・呼吸・循環の働きの発達 (1時間)   |
| ・心肺蘇生法 (1時間)       | ・AEDの使い方 (1時間)       |
| ・生殖の働きの発達 (1時間)    | ・性への関心と行動 (1時間)      |
| ・心の発達 (1時間)        | ・自己形成 (1時間)          |
| ・欲求と欲求不満 (1時間)     | ・心と体のかかわりとストレス (1時間) |
| ・ストレス対処と心の健康 (1時間) |                      |

### 3 防災教育の視点

- ・AEDの有効性を理解し、倒れている人がいたら周囲の人や関係機関と連携・協力して実践する心肺蘇生法について理解を深める。(共助)

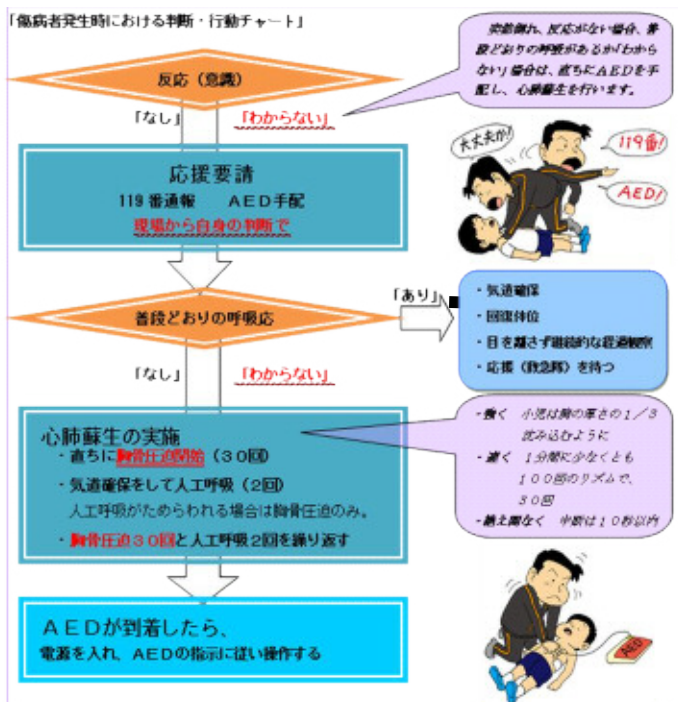
### 4 展開（8/11時）

本時のねらい	・AEDの有効性と、正しい使い方を理解させるとともに、周囲の人や関係機関と協力して実践する心肺蘇生法について理解を深めることができるようにする。	
学習活動	・指導上の留意点 ○評価	主な資料
1 AEDについて知っていることを発表する。(5分)	・肯定的な雰囲気で見聞を多くさせる。	・街中の設置場所の写真など
実習を通して、AED使用を含む心肺蘇生法を理解しよう		
2 教科書や資料により、AEDを使う場面と有効性を理解する。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手順を正確に指導するとともに、AEDが万能でないことを説明する。</li> <li>・人が倒れた場面でいち早くAEDを持ってこること、ためらわずに使うことを確認する。</li> </ul> ○AEDや心肺蘇生法の知識を習得している。【知識・理解】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AED機能の説明資料</li> <li>・どんなところに設置されているかを確認できる資料</li> </ul>
3 既習の胸骨圧迫とセットになった一連の動きの中で、班に分かれてAEDの使い方を練習する。(20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループや活動場所表示など、速やかに実習できるよう準備しておく。</li> <li>・心肺蘇生法の流れの中でAEDの使い方を全員が実習できるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・心肺蘇生実習人形</li> <li>・訓練用AED</li> <li>・実習の手順を含めたワークシート・掲示</li> <li>・流れを指示する音声CDなど(時間のコントロールとT1も個別)</li> </ul>

<p>4 AEDトレーナーによって片付け方を実習する。 (7分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AEDを確実に作動させるためのパッドの貼り方を含めた使い方を理解させる。</li> <li>・次の緊急時に備えて、片付けも大切なことを説明する。</li> </ul>	<p>支援可能にするため)</p>
<p>5 実習をして感じたことを発表する。 (10分)</p>	<p>○実習等に意欲的に取り組み、理解しワークシートに内容を書いている。 【関心・意欲・態度】</p>	<p>・移動黒板など (意見や感想を視覚化する／T2が板書)</p>
<p>6 本時のまとめとして、教師の話を書き、緊急時の初期対応が重要だということを理解する。 (3分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援時に声をかけ、積極的に発表させる。</li> <li>・緊急時の初期対応の「AEDを持つてくる」ことの重要性を強調する。</li> </ul> <p>○実習を通して、心肺蘇生法について理解したことを言ったり、書き出したりしている。【知識・理解】</p>	

補充資料

【救急蘇生のガイドライン 2010 準拠の処置手順】



(さいたま市教育委員会 ASUKA モデルより)

【身近な場所にある AED】

- ・AEDの設置場所の確認方法
- ・地域のAED配置地図の作成  
学校(幼保) > 公共施設(体育館公民館) > 企業 > 駅 > 医療施設 etc



携帯電話で AED の設置場所を今すぐ確認!

携帯サイトへはここからアクセス!

QRコード

パソコンのホームページは「埼玉県 AED」で検索!

設置の目印はこのマーク!

AEDは誰でも簡単に操作できます!

お問い合わせ先: 埼玉県保健医療部業務課 TEL 048-830-3624

(埼玉県業務課 HP より)

活動例

・実践力育成のために、総合的な学習の時間や、特別活動でも学習させる。また、ビデオの活用なども効果的である。

(参考: 公益財団法人日本心臓財団作成のメッセージビデオ <<http://www.jhf.or.jp/push/>>)

心肺蘇生を身に付けることの必要性や、人が倒れた時の心構えなどについて、現実のケースをもとに視聴者に語りかける。

## 中学校第2学年 保健体育科(保健分野) 「傷害の防止」

### 1 単元の目標

- ・ 傷害の防止や応急手当について関心を持ち、意欲的に取り組むことができるようにする。【関心・意欲・態度】
- ・ 知識を活用した学習活動により、課題解決の方法を考えることができるようにする。【思考・判断】
- ・ 傷害の防止と応急手当について理解し、身に付けることができるようにする。【知識・理解】

### 2 単元の指導計画（8時間扱い）

- ・ 傷害の原因と防止 (1時間)      ・ 交通事故による傷害の防止 (1時間)
- ・ 自然災害による傷害 (1時間)      ・ 犯罪に巻き込まれないために (1時間)
- ・ 応急手当の基本 (1時間)      ・ けがの応急手当 (1時間)      ・ 心肺蘇生法 (2時間)

### 3 防災教育の視点

- ・ 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じることを理解するとともに、二次災害の発生を考えて安全な場所へ避難できるようにする。 (自助)
- ・ 自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることを理解し、自らが備えられることや家族や地域の人たちが備えられることを考えられるようにする。 (共助)

### 4 展開 (3/8時)

本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然災害の種類と発生のしくみについて、意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。</li> <li>・ 災害時や災害発生後に身のまわりに起こることを想定し、その対処について実習を通して理解することができるようにする。</li> </ul>			
学習活動	内容	指導上の留意点	○評価	主な資料
1	自然災害の種類と日頃の身近な防災対策についての発表をする。 (10分)	・ 活発な発表ができるような雰囲気をつくる。		・ 実習班編制、手順などを含めた資料
災害時や発生後に身のまわりに起こることを想定し、その対処を演習・実践しよう				
2	災害が起きたときを想定し、いざという時どのような行動をとればよいか、事前にどのようなことを準備しておけるか、話し合う。 (20分) ・ 災害時の備えと行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班で協力的に活動できるように準備と指示をする。</li> <li>・ 災害に遭遇した時の対応と安全の確保(避難)と事前に備えておくべきことを想定するように指示する。</li> <li>・ TTで、担当班を分担するなどして指導する。</li> <li>・ 中1で学習したAEDの使用法を含む心肺蘇生法も事前の備えに含めて考えさせる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時の場面設定(条件等を示した資料)とワークシート 「中学生向けの危機管理・防災に関する教材」</li> <li>・ 掲示資料</li> </ul>

	<p>○いろいろなことを考え予測し、被害の防止に何ができるか考え出そうとしている。【思考・判断】</p>	
<p>3 被害拡大を防ぐため、状況別の想定の結果を全体で話し合い、足りないところを発表する。(5分)</p>	<p>・共感的に情報共有できるように留意する。</p> <p>○自然災害の被害防止に取り組むための話し合いに積極的に参加している。【関心・意欲・態度】</p>	<p>・記入したワークシートを活用</p>
<p>4 対策を考案し、災害時・緊急時に備えてやらなくてはいけないことを話し合う。(10分)</p>	<p>・中学生でも日頃から備えることで、災害の被害拡大防止ができることを確認させる。</p> <p>○自分にできること、地域での備え、いざという時の協力について理解している。【知識・理解】</p>	
<p>4 日頃の訓練や備えの要点を整理してまとめる。(5分)</p>	<p>・訓練や備えの中には授業でおこなう心肺蘇生法・AEDの実習や応急手当の学習も含まれることを確認させる。</p>	

補充資料

【自然災害の実例・映像】

- ・「中学生向けの危機管理・防災に関する教材」(埼玉県)
- ・津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」本編動画(16分)及びハンドブック(気象庁ウェブページ [http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami\\_dvd/index.html](http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd/index.html))

参考



(さいたま市 <http://www.city.saitama.jp/www/contents/1215586890558/index.html>)

※さいたま市洪水ハザードマップについても参考とするとよい。

## 中学校第1学年 総合的な学習の時間「地域を災害から守ろう①」

### 1 単元の目標

- ・自分たちが住んでいる地域で自然災害が発生した場合どのようなことになるのかについて調査活動を通じて知るとともに、自然災害が発生した場合の対応策について「自分たちでできることは何か」を考え、発信しようとする態度を身につける。

### 2 単元の指導計画（4時間扱い）

時	学習過程	学習活動及び学習内容	学習形態
1	【課題設定】 言語活動 共同的な学習	○課題を班ごとに設定する 自然災害（大地震・大規模風水害・大規模火山噴火）が発生した場合の学校及び学区内（各自の自宅周辺）の被害状況について考える課題を設定する。	グループ
2	【情報収集】 【まとめ】 言語活動 共同的な学習	○課題について調べる あらかじめ資料を用意したり、学校や自宅周辺の様子について確認したりしてきた上で、課題について調べる。次の時間に発表できるようにまとめる。	グループ
3	【表現】	○発表と質疑応答 班ごとに発表を行い、大規模な自然災害が起こった場合の学校周辺や自宅周辺の被害状況について具体的に理解する。	クラス グループ
4	【まとめ】 【表現】	○防災について知る 東日本大震災時に命を守ることができた事例を学び、大規模自然災害発生時に被害を最小限に抑えるにはどのようにすればよいか考える。さいたま市や自治会、学校などの防災対策を知り、自分たちでできることについて班で話し合いを行い考えて発表する。	クラス グループ

### 3 防災教育の視点

- ・災害時に自らの判断で適切に行動し、自分の身を守ることができるようにする。（自助）
- ・災害時に積極的に地域に貢献する生徒を育成する。（共助）
- ・それぞれの災害や状況に応じたような行動をとればよいか理解できるようにする。（災害に関する知識・理解）

### 4 展開（4 / 4時）

本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害に対して、どのような対策が行われているか知る。</li> <li>・被害を最小限にするためにはどのようなことをすればよいか考える。</li> </ul>		
学習活動	・内容	・指導上の留意点	○評価 主な資料
1	「釜石の奇跡」についての啓発DVDを見て、感想を発表する。（10分） ・班で話し合う	・釜石市の小中学生は、ほぼ全員が避難できたことに触れ、適切に行動することが自分の身を守る上で重要なことに気付かせる。 ○津波の恐ろしさや適切な行動の重要性が理解できたか。【知・解】	・「釜石の奇跡」について取り上げた新聞記事や気象庁制作のアニメなど※参考1 ・ワークシート

自然災害発生時に被害を最小限にするためには、どのようなことをすればよいか考えよう。		
<p>2 さいたま市（または学校）の防災対策、地域の防災対策について調べる。（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・減災の手立て</li> <li>・避難の方法</li> <li>・安否の確認</li> <li>・避難所や備蓄品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市のHPを活用できなければ、防災マニュアル等の文献や資料プリントで対応する。</li> <li>○身近に多くの防災対策があることを理解できたか。【知・理】</li> <li>・ワークシートに、家庭でできることと学校でできることの両方を記入できるようにしておく。</li> <li>・自分では気付かなかった考えが出たら、プリントに記入させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料プリント</li> <li>・市のHP</li> <li>・市の防災マニュアル</li> <li>※参考2</li> <li>・その他参考資料</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
<p>3 これまでに調べたことや本時で学んだことをもとに、自然災害発生時に被害を最小限にするためにできることについて考える。（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班別の話し合い</li> <li>・学習プリントでまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害を最小限に抑えることは、自らの命を守るとともに地域社会にも貢献できるということに気付かせる。</li> <li>○自分の考えを分かりやすく発表することができる。【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>
<p>4 自然災害発生時に被害を最小限にするために、今後、気を付けることを発表する。(10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害を最小限に抑えることは、自らの命を守るとともに地域社会にも貢献できるということに気付かせる。</li> <li>○自分の考えを分かりやすく発表することができる。【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>

※評価の観点…本事例については各教科との関連を重視しているの以上記のように示した

#### 補充資料

##### 【津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」本編動画及びハンドブック】

(気象庁ウェブページ：[http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami\\_dvd/index.html](http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd/index.html))

本編動画：「津波からにげる」

津波防災ハンドブック：教員など指導者向け解説編及び資料編動画

- ・動画の制作目的～東日本大震災を踏まえて、津波から自ら判断して避難することの大切さを理解することを目的に制作された。

～内容～ 子供にも分かりやすい内容とし、以下の4章で構成されている。

- ①アニメ 【約5分】 小学校における東日本大震災の避難事例
- ②インタビュー 【約4分】 自ら進んで逃げるなどの避難のポイントの紹介
- ③クイズ「津波を知ろう」【約4分】 クイズをとおして津波の知識を学ぶ
- ④防災マップを作ろう 【約3分】 日頃からの備えの重要性を学ぶ～以下略～

##### 【さいたま市地域防災計画】

さいたま市では、東日本大震災の教訓を踏まえ、「さいたま市地域防災計画」を平成24年6月に改定しました。

- ・改定のポイント：想定外をなくすため、東日本大震災で明らかになった課題、本市で明らかになった課題を体系的に整理し、対応方針に基づき、地域防災計画に反映すべき事項を記載しました。

(さいたま市 <http://www.city.saitama.jp/www/contents/1338881547191/index.html>)

## 中学校第1学年 総合的な学習の時間「地域を災害から守ろう②」

### 1 単元の目標

- ・自分が地域社会の一員であることを理解し、地域社会の一員としての自覚をもつとともに、地域社会のために何ができるのか考える。
- ・調べたことの内容に応じて表現方法を工夫するなど、相手に分かりやすく発表できるようにする。

### 2 単元の指導計画（4時間扱い）

時	学習過程	学習活動及び学習内容	学習形態
1	【課題設定】 【情報収集】 【まとめ】	○課題を班ごとに設定する 「災害時の中学生の活躍」について阪神・淡路大震災と東日本大震災の時を事例に班ごとに課題を設定し調べる。その際に自然災害発生時と発生後の動きについて考えさせる。	グループ
2	【まとめ】 【表現】	○課題についてまとめて発表する	クラス グループ
3	【体験活動】	○災害ボランティアについて知る 大規模自然災害が発生した際にボランティアとして活動した人の話を聴く。また、実際にボランティアが行う活動を体験する。	クラスまたは体験班
4	【表現】	○地域社会へ提言を行う 大規模自然災害が発生した際に自分たちは何ができるのか提言を行う	個人

### 3 防災教育の視点

- ・災害時に自らの判断で適切に行動し、自分の身を守ることができるようにする。  
(自助)
- ・災害時に積極的に地域に貢献する生徒を育成する。  
(共助)
- ・災害時のボランティア活動に必要な知識や心構えを理解できるようにする。  
(災害に関する知識・理解)

### 4 展開（3／4時）

本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害ボランティアについて知る。</li> <li>・災害ボランティアの活動を体験し、災害時に積極的に地域に貢献できるようになる。</li> </ul>		
学習活動	内容	指導上の留意点	○評価 主な資料
1	災害ボランティアは、どのような活動を行っているのか話を聞いたり、資料を見たりして理解する。 (10分) ・消防署の方、自衛隊の方や被災地でのボランティア経験者の方から話を聞く。	・市内にある諸機関と連携して実施する。または、身近に災害ボランティア経験者がいれば招き、事前インタビューを行い生徒に発表させる。また、さいたま市には防災アドバイザーもいるので必要に	・写真などの映像資料 ・ワークシート ・防災アドバイザー ※参考



<p>・インタビューしたことを発表する。</p>	<p>応じ協力を依頼する。 ○関心をもって話を聞いている。 【関・意・態】</p>	
<p>災害ボランティア活動の体験をしよう</p>		
<p>2 グループに分かれて災害ボランティア活動を体験する。(30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消火活動（消火器等）</li> <li>・バケツリレー</li> <li>・応急手当等</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>参考・仮設トイレの設置、テントや風呂の設置等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救援物資の運搬</li> <li>・瓦礫の処理</li> <li>・炊き出しの用意</li> <li>・ジャッキアップ等</li> </ul> </div> <p>3 体験で学習したことをワークシートにまとめる。(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の実態に応じて、クラス単位で一つの体験を行う、学年全員の見ている中で代表者が体験を行うなど工夫する。</li> <li>・代表者が行う場合は、見学者には考える視点を与えておき、次の発表につなげる。</li> </ul> <p>○主体的に体験活動に取り組んでいる。 【関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験によってわかったことや考えたことをワークシートにまとめる。単なる感想にならないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・体験活動に必要なもの 消火器、水消火器、バケツ、担架、テントほか</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
<p>4 体験から学んだことを発表する。(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手にわかりやすく発表する</li> <li>・自己評価も兼ねて、活動を振り返らせる</li> </ul> <p>○自分の意見をわかりやすく発表することができる。 【思・判・表】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>

※評価の観点…本事例については各教科との関連を重視しているの以上記のように示した。

補充資料

【防災アドバイザー】（さいたま市ウェブページより）

○防災アドバイザーとは

- ・災害に強いまちづくりを目指し、地域の防災力向上と減災のために自ら率先して活動する人たちである。
- ・防災士の資格を有していることが必要。（現在、約360名の防災士認証登録あり）

○活動内容

- ・日頃から、防災力の向上を図ることが重要。地域との信頼関係を作り出し、地元の自治会や自主防災組織及び避難場所運営委員会などに対し、助言や運営の協力をする。なお、防災アドバイザーの活動は、無償で行う。

【問い合わせ先】さいたま市役所 危機管理部 防災課 防災企画係 048(829)1126

※自主防災組織・・・市内全850自治会中748組織の自主防災組織を結成。

※避難場所運営委員会・各避難場所の地域住民や施設管理者及び担当職員で結成。

中学校第2学年	学級活動	「大地震発生時の行動を考えよう！」
---------	------	-------------------

**1 本題材のねらい**

- ・大地震に対しての心構えや適切な行動を理解し、自分の安全を確保するだけでなく、身の周りの人の安全についても積極的に行動することができるようにする。

**2 防災教育の視点**

- ・大地震発生時の適切な行動を理解し、いざというときにあわてずに対応できるようにする。 (自助)
- ・避難の際には、自分自身の安全確保を前提として、周りの方々の避難にも協力できるようにする。 (共助)
- ・大地震の際の社会における危険な環境の諸条件について理解し、避難行動に役立てることができるようにする。 (災害に対する知識・理解)

**3 展開****(事前指導)**

生徒の活動	・指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
・大地震における自分の行動についてのアンケートを行う。	・大地震が起こった際に、適切な行動を落ち着いてとることができるかについての意識を把握する。	・自分のこととして大地震の際の行動について考えることができる。 【関・意・態】(アンケート)

**(本時の展開)**

学習活動	・指導上の留意点	資料等	目指す生徒の姿と評価方法
1 大地震についてのアンケート(今、大きな地震が起きた時の自分について)の結果を発表する。(5分) ・慌ててしまう。 ・すぐ行動できる自信がない。	・アンケート結果を示し、適切な行動への理解はあるものの、落ち着いてすぐに行動できないことに気付かせる。	・アンケート結果	
中学生として、大きな地震発生時の適切な行動について考えよう！			
2 中学生としてできる大地震発生時の行動について話し合う。(10分) ・地震発生時、自分の安全確保ができた時の行動についてグループで話し合う。 【中学校にいる場合】 (1) 授業中 (2) 休み時間 (3) 放課後・部活動中 【自宅にいる場合】 (1) 部屋 (2) 台所 (3) 風呂場・トイレ 【外にいる場合】 (1) 住宅地(2)中高層ビル街 (3) 繁華街(4)エレベーター 3 各グループでまとめた避難行動について発表する。(15分) 4 大地震発生時の正しい避難行動について知	・グループで話し合わせる。(場面を分担してもよい) ・ワークシートを使用して、自分の考えや他の生徒の意見を記入させる。 ・生徒の発表から自助、共助、災害に対する知識について補足して指導する。 ・「物が落ちてこない」「倒れてこない」「動いてこない」場所に身を寄せて避難する。 ・共助においては、自分よりも立場の弱い幼児や高齢者の避難の手伝いをすることの必要性に気付かせる。 ・地震の場合は避難経路確保のため、ドア・窓は開ける。 ・通電火災を防ぐためにブレーカーを落とす。	・ワークシート	○大地震の際の安全で適切な行動について理解している。 【知・理】 (ワークシート)

る。 (10分)	・地域の倒壊しやすい建物や落下物による危険性について気付かせる。		
6 大地震が起こった時に、中学生としてどのような行動をとるべきかについて考える。(5分)	・避難訓練の必要性を確認する。	・ワークシート	
7 教師の話聞く。(5分)	・つながるカードを示して、記載内容、活用方法の確認をする。		

**(全校で大地震を想定した避難訓練を実施)**

**(事後指導)**

生徒の活動	・指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
・全校で実施した避難訓練の振り返りをする。	・落ち着いて適切な行動ができたことが、自宅や外出時の行動に生かされることについて助言する。	・状況に合わせて適切な避難行動ができる。【思・判・実】 (ワークシート)

**資料解説 (想定場面別の望ましい行動)**

<p>1. 家において</p> <p>(1)まずは自分の身を安全に守れるように心がける。</p> <p>(2)戸を開けて、出入り口の確保をする。</p> <p>(3)棚などの上から落ちてきたりする物があるので、離れて揺れが収まるのを待つ。</p> <p>(4)瓦等が落ちてきてケガをすることがあるので、あわてて戸外に飛びださない。</p>	<p>2. 就寝中</p> <p>(1)暗闇では、窓ガラスや照明器具の破片でのけがに注意する。</p> <p>(2)枕元には、厚手の靴下やスリッパ、懐中電灯、携帯ラジオなどを置いておき、避難ができる準備をしておく。</p> <p>(3)寝室には、倒れそうな物等をおかないようにし、身体の上に物が落ちてこない所に寝る。</p>	<p>3. 台所</p> <p>(1)やけどの危険があるので、揺れが収まるまで待って消火。</p> <p>(2)食器棚や冷蔵庫が倒れ、中身が飛び出すこともあるので注意する。</p> <p>(3)揺れを感じて自動的にガスの供給を停止するマイコンメータが家に設置されていることが多い。特性や使い方を十分に理解しておく。</p>
<p>4. 風呂場・トイレ</p> <p>(1)風呂場ではタイルや鏡、トイレでは水洗用のタンクが落ちてくることがあるので注意する。</p> <p>(2)入浴中は鏡やガラスの破損によるケガに注意する。</p> <p>(3)浴槽の中では、風呂のふたなどで頭部を守る。</p> <p>(4)揺れが収まるのを待って避難する。</p>	<p>5. 住宅地</p> <p>(1)電柱や自動販売機も倒れることがあるので注意する。</p> <p>(2)屋根瓦や住宅のエアコン室外機、植木鉢などが落下することがあるので注意する。</p> <p>(3)強い揺れが起きると、耐震性能の低い住宅が倒壊する場合もある。瓦や窓ガラスが道路に散乱する可能性もあるので、周辺の状況に注意する。</p>	<p>6. 中高層ビル・繁華街</p> <p>(1)窓ガラスが割れて落下すると、時速 40～60km で、高さの 1.5 倍くらいの距離まで広範囲に拡散する。ビルの外壁、タイル、看板などが剥がれ落ちることもある。頭を保護し、建物に入るか、建物から離れる。</p> <p>(2)繁華街では、店の看板やネオンサインなどの落下・転倒物にも注意する。</p>
<p>7. 地下街</p> <p>(1)停電後、非常照明がつくまでむやみに動かない。</p> <p>(2)60mごとに設置されている非常口を利用する。</p> <p>(3)脱出の際は、壁づたいに歩いて避難する。</p> <p>(4)火災が発生しなければ慌てずに行動する。</p>	<p>8. エレベーター</p> <p>(1)地震の時は閉じこめられる可能性がある。すべてのボタンを押し、近くの階で降りる。</p> <p>(2)エレベーターに閉じこめられても、焦らず冷静になって「非常用呼び出しボタン」で連絡を取る努力をする。</p>	<p>【災害時安心つながるカード (中学生用) : さいたま市教育委員会】</p>

(参照資料・参考資料) 総務省消防庁「チャレンジ、防災48」・「中学校向けの危機管理・防災に関する教材 平成24年5月 彩の国 埼玉県」「中学校向けの危機管理・防災に関する教材、指導者用資料~指導展開例、資料・ワークシート集~ 平成24年5月 彩の国 埼玉県」

## 中学校第3学年 学級活動「災害時に私たちができることを考えよう」

### 1 本題材のねらい

- ・自己の所属する様々な集団に所属感や連帯感をもち、集団生活や社会生活の向上のために進んで力を尽くそうとする態度や能力を養う。

### 2 防災教育の視点

- ・実際に中学校が避難所になった際には中学生が力になる。その際に、今自分ができることを中心として適切な行動をとることができるようにする。(共助)
- ・地域の人たちのために避難場所として使用する学校の防災倉庫にある物質及びその利用方法について理解する。(災害への知識・理解)

### 3 展開

#### (事前指導)

生徒の活動	・指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
・災害時における避難場所についてのアンケートをする。	・避難場所の位置や活動する人、活動内容についての生徒の意識を把握する。	・避難場所について考えることによって、避難場所についての関心を高める。 【関・意・態】(アンケート)

#### (本時の展開)

学習活動	・指導上の留意点	資料等	目指す生徒の姿と評価方法
1 避難場所についてのアンケート結果で気付いたことを話し合う。(5分) ・避難場所を知らない人が多い。 ・避難場所で誰がどのような活動をするか知らない。 2 資料：「時間帯別人口の変化」について知る。 ・日中は大人が少なくなっている。 ・動けるのは、中学生などである。(5分)	・地域の避難場所について、これまであまり知らなかったことについて注目させる。 ・避難場所で活動する人や活動内容についての認識も不足していたことに気付かせる。 ・平日の日中には、大都市(さいたま市)では大人が働きに行っているため、人口が少ないことに気付かせる。 ・いざという時の働き手は中学生などであることを気付かせる。	・アンケート調査結果(表) ・学校の近隣の避難場所の位置が分かる地図 ・資料「時間帯別人口の変化」	
災害時に私たち、中学生ができることを考えよう			
3 災害時に中学生ができることを話し合う。(10分) ・荷物を運ぶことができそう。 ・物資の配布をしたり、幼児の世話をしたりすることができるのではないか。 ・お年寄りのお手伝いすることができる。 4 避難場所を運営するために必要な仕事内容	・大きな地震(震度5弱以上)があり中学校に避難場所が開設された場合について話し合わせる。 ・防災倉庫について補足説明を行う。 (所有者、鍵の所在、学校用の食糧、毛布) ・炊き出しは、湯の準備。 ・運搬作業は、避難場所のための荷物運搬と会場設営、食糧・物資の配給。 ・受付と同時に誘導、子供・	・防災倉庫資料・写真等 ・さいたま市「避難場所運営マニュアル」 ・実際に避難場所で活動	

<p>を具体的に知る。(10分)</p> <p>(1)テント設営 (2)炊き出し (3)運搬作業 (4)応急手当 (5)受付・誘導 (6)仮設トイレ設置</p> <p>5 実際に避難場所で活動した中学生の記録を知る。(10分)</p>	<p>お年寄りのお世話と話し相手になることを知らせる。</p>	<p>した中学生の記録</p>	<p>○防災倉庫の物資について知り、積極的に自分のできる支援について理解している。 【知・理】 (ワークシート)</p>
<p>6 避難場所において中学生としてどのように取り組みたいか考える。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分は力が強いので、荷物運搬ならできる。</li> <li>・私は保健委員なので、応急手当の補助をして、優しく声をかけたい。</li> </ul> <p>7 教師の話聞く。(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もし、自分の中学校が避難場所になったらどのように取り組みたいか、自分のよさを生かして考えさせる。</li> <li>・日中において災害が起きた場合には、中学生は避難場所運営の大きな力として期待されていることを知る。</li> <li>・精神的な支えとして避難場所です生活する方々の傍にいてあげることも大切なことを説明する。</li> </ul>	<p>・ワークシート</p>	<p>○避難場所での活動を理解し、自分ができる行動について考えることができている。 【思・判・実】 (ワークシート)</p>

※事後指導については参考活動例参照（避難場所運営の支援をしよう）

参考資料

【時間帯別人口の変化】（総務省統計局資料より）

都 市	昼間人口 (千人)	常住人口 (千人)	昼夜間人口 比率
札幌市	1,894	1,878	100.9
青森市	317	311	101.8
盛岡市	304	284	107.1
仙台市	1,099	1,020	107.7
秋田市	350	333	105.1
山形市	277	256	108.3
福島市	302	291	104.0
水戸市	302	262	115.1
宇都宮市	496	455	109.1
前橋市	342	318	107.5
さいたま市	1,078	1,178	91.9

昼夜間人口比率は、常住人口 100 人あたりの昼間人口の割合を示します。都道府県別にみると（H12年データ）、東京が全国最高で 122.0、ついで大阪 105.9、愛知 101.6 となっています。東京または大阪の近隣県では逆に昼夜間人口比率が低くさいたま市では 91.9 となっています。児童生徒が学校で活動している昼間においては、保護者や若者等のいわゆる労働人口は多数が東京都などに流出していることが想定されます。

東日本大震災においてもさいたま市では多くの帰宅困難者が発生したことから、昼間に大きな地震が発生した場合は、中・高校生の活躍が期待されます。

【避難場所で活動した中学生の記録】（文部科学省：東日本大震災の対応より）

([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpab201001/detail/1312138.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201001/detail/1312138.htm))

吹奏楽と合唱の二つのアンサンブル全国大会に出場予定だった仙台市立八軒中学校の吹奏楽・合唱部は、3月11日（金曜日）の大震災で被災し出場を断念しました。震災後は避難所生活をしている方のために、他の生徒と共に救援物資を運んだり食事を準備したりするなどのボランティア活動を行いました。全国大会当日の3月19日（土曜日）には、津波に襲われ八軒中学校で避難所生活を続けていた仙台市東部の蒲生・荒浜地区の方々を招待し、学校の武道館で音楽の集いを催しました。全国大会で演奏予定であった曲の他に、震災直前に覚えた「あすという日が」の歌詞が避難所生活を続けている方々に元気と勇気を与えるのではないかと考え、最後に披露しました。歌声を聴いた多くの方が涙し、感動しました。その様子がテレビで放映されて全国的に話題となり、学校にたくさんのメールや励ましの連絡が入りました。

参考 中学校第3学年 健康安全・体育的行事「避難場所運営の支援を体験しよう」

1 ねらい

- ・自己の所属する様々な集団に所属感や連帯感をもち、集団生活や社会生活の向上のために進んで力を尽くそうとする態度や能力を養う。

2 防災教育の視点

- ・実際に中学校が避難場所になった際に、今自分ができることを中心として適切な行動をとることができるようにする。(共助)
- ・防災倉庫にある物資を知り、避難場所を開設する市職員や避難する地域の方々のために準備をして待つことができるようにする。(災害への知識・理解)

3 活動内容

活動の流れ	・指導上の留意点	主な資料・準備
1. 本時の活動内容を知る。(5分)	・避難訓練同様に、万が一のための練習・訓練であることをしっかりと押さえる。	・仕事分担の名簿は、授業前に知らせておく。
学校が避難場所になったときに、中学生としてできる支援を体験しよう		
2. 各支援コースの活動 (35分) ○テント設営 ・防災倉庫にあるテントと学校所有のテントを持って来る。 ・体育館で組み立て、設置し、必要に応じて移動する。	・協力し合い、能率よく組み立てられるようにさせる。 ・学年の生徒数やクラス数によって、組み立てるテントの数を決めておく。	・各コースで、手順などを示してある掲示物 ・防災倉庫以外に保管してあるテント
○炊き出し ・お湯を準備する。 ・防災倉庫から非常食をテントまで持って来る。アルファ化米をテント内で箱から出して用意する。 ・炊けた箱から配膳し、役割を決めて避難してきた人に配布する。	・お湯の準備に時間がかかるので、あらかじめ、お湯を沸かしておく。 ・やけどに注意する。 ※このコースは、衛生上のことがあるので、実施については、配慮が必要である。	・各コースで、手順などを示してある掲示物  ※場所、天候(この日の気温、湿度)を調べた資料
○運搬作業 ・防災倉庫の物品を一輪車で運搬する。運搬後、物品整理する。 ・長机といすも用意する。 ・運ばれて来た物品を机の上に並べ、配給の準備を行う。 ・避難して来た人たちに配布する。	・配布する際、避難してきた方々に一言かけさせる。 ・防災倉庫以外からも運搬物があることを知らせる。 ・近所の商店からの援助という設定で、正門からペットボトルの水を運ばせる。	・各コースで、手順などを示してある掲示物 ・長机、いす、ブルーシート等は中学校所有の物を使用
○応急手当 ・負傷者(出血、けが、骨折)とお年寄りの役に分かれる。 ・ガーゼ、包帯、三角巾などを使用して行う。 ・人数に余裕があるときは、担架を使用した運搬を実施する。	・止血法、包帯法、添え木、担架での運搬、負傷者のケアなどの役割を交代して実施する。 ・実際には、お世話と話し相手となり、心のケア・支えにもなることを知らせる。	・各コースで、手順などを示してある掲示物 ・準備するものとして、包帯、三角巾、ガーゼ、毛布、棒、担架
○受付・誘導 ・誘導を容易にする会場案内図を貼りつける。 ・避難してきた人が受付を終了したら、体育館の中に誘導する。	・事前に会場案内図が出来なければ、矢印の誘導案内図でもよいと助言する。 ・筆記用具と氏名記入用紙を準備させる。	・掲示用の紙、案内図を書く太いペン、筆記用具

<p>○仮設トイレ設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース内容を知る。</li> <li>・仮設トイレを組み立てる。</li> <li>・組み立てた仮設トイレを各班設置場所に移動、設置を完了させる。</li> <li>・トイレの使用法等を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置場所については、既に非常用の下水工事が終了している中学校では、指定の場所に設置させる。</li> <li>・生徒が仮設トイレ使用法を説明できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレの使用法を示す掲示物</li> </ul>
<p>3. 実際に体験した活動の感想を書いて発表する。 (5分)</p> <p>4. 教師の話聞く。 (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を振り返り、災害時に活かせるようにする。</li> <li>・避難場所運営委員会など、地域の方々が実施する防災訓練においても、積極的に参加するよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動における感想用紙</li> </ul>

#### 4 評価

- 中学生として力になることを自覚し、意欲的に取り組むことができる。
- 避難場所において中学生としてできる支援について理解することができる。

#### 参考 (実際に体験活動を実施する際の留意事項)

##### 【体験活動内容について】

- ・アルファ化米を利用した炊き出しは市防災課と早めに連絡を取り、訓練用としてのアルファ化米を提供してもらう。
- ・体験活動は生徒数や時間及び内容を精査して実施することが望ましい。
- ・避難場所運営委員会との連携を密にして、防災倉庫の中味については慎重に扱うことが必要である。

##### 【避難場所について】

- ・避難所生活については、ルールがあるが、必要に応じて触れることとする。  
(プライバシー、高齢者や障害のある方、女性、外国人)
- ・実際に避難所生活を体験している生徒の心のケアには十分に配慮する。

#### 活動例 (市内中学校における体験活動の様子)

(1)テント設営



(2)炊き出し



(3)運搬作業



(4)応急処置



(5)受付・誘導



(6)仮設トイレ設置



#### (参考資料)

- ・総務省消防庁「チャレンジ、防災48」
- ・「中学校向けの危機管理・防災に関する教材 平成24年5月 彩の国 埼玉県」  
「中学校向けの危機管理・防災に関する教材、指導者用資料~指導展開例、資料・ワークシート集~ 平成24年5月 彩の国 埼玉県」
- ・さいたま市 「避難場所運営 マニュアル」



# 3

## ワークシート例

○ワークシートの活用については、学習指導案例の展開例に示してある。  
適宜活用し、学習活動の充実を図る。









# まけんまあくを みつけよう!

## がっこうたんけん3

ねん くみ

つぎの「まあく」をみつけて、くいずにこたえましょう。

まあく			
みつかったばしょ			
じしんがおきたら、あぶないものはなに?			
じぶんのあんぜんをまもるには、どうしたらいい?			

	<p><b>ひじょうぐち</b></p> <p>じしんやかじがおきて、そとにひなんするときにつかいます。</p>	<p>いくつ みつかった?</p>
---	--	-------------------

# 町のすてきな人を教えよう！



2年 組 番 名前

すてきな場しょ	しらべた人の名前	すてきな ところ 考え方

＜かんそう＞		

ひなんくんれんアンケート

2年 くみ 名まえ ( )

1 <sup>か</sup>火じ (<sup>か</sup>火さい) について知っていることをかきましょう。


2 もし、がっこうで火じ (火さい) がおきてひなんするとしたら、どんなことに気をつけたらよいとおもいますか。


-----  
ひなんくんれんワークシート

2年 くみ 名まえ ( )

(1) ひなんくんれんのときの、じぶんのめあてをかきましょう。


(2) じぶんのめあてはできましたか。あてはまるものに○をつけましょう。 ( ◎ ・ ○ ・ △ )

月 日 ( )

# 新幹線で

今まであなたが親切にしたこと、親切にされたことには、どんなことがありますが。思いつくだけ、書いてみましょう。

これまでの自分の体験を思い出しながら、今日の学習で考えたこと、思ったことを書きましょう。

	もう少し	ふつう	よくできた
ア 主人公の身になって考えた。			
イ 友達の思いや考えが聞けた。			
ウ 自分の思いや考えが発表できた。			
エ 自分のことについて 振り返ることができた。			

授業のふりかえり

- ア 主人公の身になって考えた。
- イ 友達の思いや考えが聞けた。
- ウ 自分の思いや考えが発表できた。
- エ 自分のことについて 振り返ることができた。

月 日 ( )

神戸のふっしゅうは、

ほんらの手で

「自分がしている仕事」は、  
どんなことですか。

今までの自分の体験を思い出しながら、今日の学習で考えた  
こと、思ったことを書きましよう。

		もう少し	ふつう	よくできた
授業のふりかえり	ア 主人公の身になって考えた。			
	イ 友達の意見をよく聞いた。			
	ウ 自分の考えが発表できた。			
	エ 自分のことについて ふりかえることができた。			

# (1) 火事をふせぐ

年 組 名前



○上のし料を見て、気づいたことを書きましょう。

-----  
-----  
-----

○し料から、火事をふせぐためのとりくみについて調べたいことを書きましょう。

-----  
-----

学習もんだい

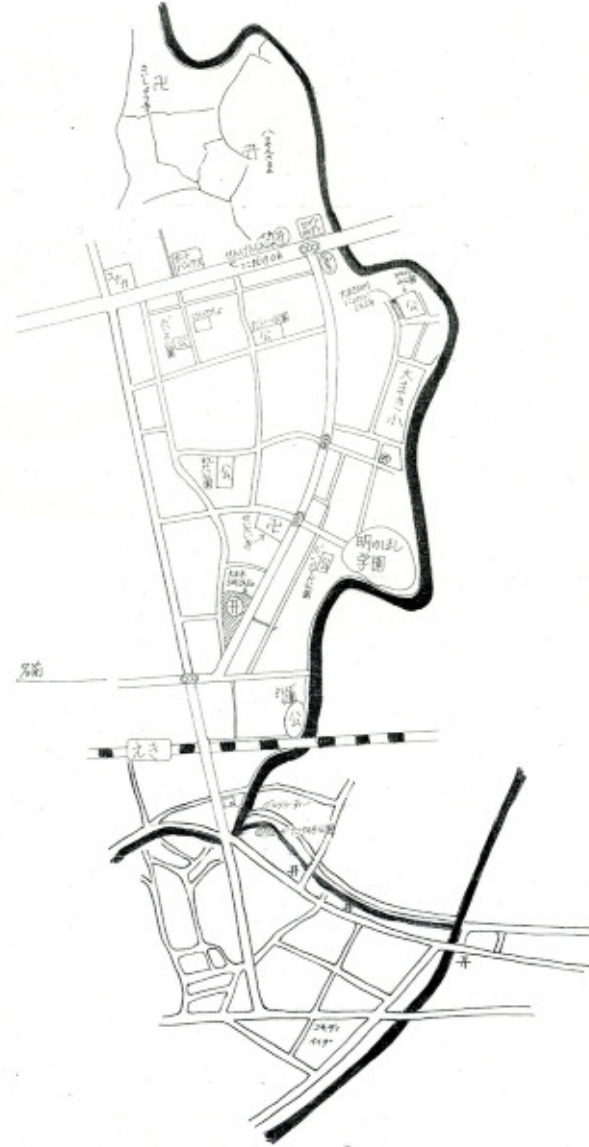
-----

**「安全パトロール」発表会**

発表した場所に○印をつけて、大事なことをメモしよう。

3年 組 番 名前


☆友達の発表を聞いて大切だと思ったことを書きましょう。

◎地いきの安全を守るために、実行したいことを書きましょう。


### ひなんくんれんアンケート

4年 組 名前 ( )

1 学校で地しんが起きた場合にあぶないと思う場所について書きましょう。

また、どんなきけんがあるか予想してみましよう。

場所		きけん	

2 休み時間に地しんが起きたときにどのようなことに気を付けてひなんしたらよいでしょう。


### ひなんくんれんワークシート

4年 組 名前 ( )

1 休み時間に地しんが起こったときの、自分のめあてを書きましよう。


2 ひなんくんれんの時に自分のめあてはできましたか。感想を書きましよう。


( ◎ ・ ○ ・ △ )



## 流れる水のはたらき

5年 組 番号 名前

◎大雨の前と後では、川の流れや川原の様子はどのように変わるのだろうか。

大雨の前

(大雨の前の写真)

大雨の後

(大雨の後の写真)

○川の流れ（流れる水の量や速さ）

---

---

---

○川原の様子（川原の位置）

---

---

---

わかったこと

災害を防ぐ工夫

# けが人が出たらどうすればいいか考えよう

年 組 名前

## 1 学校外でけが人が出たらどうすればよいでしょう。

## 2 簡単なけがの手当のしかた

- (1) すりきず  
きれいな水で（ ） → （ ）する。
- (2) 鼻血  
少し下を向き（ ）をおさえ、（ ）を冷やす。
- (3) 切りきず  
ガーゼなどで押さえ（ ）。  
→（ ）し、包帯をする。
- (4) やけど  
すぐに流水などで（ ）。
- (5) ねんざや打撲  
すぐに（ ）して、安静にする。

## 3 今日の学習でわかったことや考えたこと、今後自分ができそうなことについて書きましょう。

## けがの防止

### 友だちが、からだの異常をうったえたときにできることを考えよう！

年 組 名前

---

#### 1 最初におこなうこと

( )

#### 2 友だちがのうたえていること

(1) 出血しているとき ( )

(2) 吐き気をうたえているとき  
( )

(3) 痛みをうたえているとき  
( )

(4) 寒気をうたえているとき  
( )

#### 3 大人が来たときに手伝えること

( )

#### 4 今日の学習でわかったことや考えたこと、今後自分ができそうなことについて書きましょう。

## 服を着たまま水の中に落ちたら・・・

年 組 名前

---

- 1 服を着たまま水の中に入ってしまったらどうすればよいでしょう。

泳いで岸にたどり着かなそうな場合は、

- 2 今日の学習でわかったことや考えたこと、今後自分ができそうなことについて書きましょう。

「家にいる時に大きな地震が起こったら」アンケート

6年 組 名前 ( )

- 1 家にいるときに、大きな地震が起きた場合に危ないと思うことや、場所、その理由について書きましょう。

(危険なこと・場所)	(理由)

- 2 家にいるときに大きな地震が起こった際に避難する時、どんなことに気を付けたらよいでしょう。


「家にいる時に大きな地震が起こったら」ワークシート

6年 組 名前 ( )

- 1 家にいるときに大きな地震が起こったら、自分の身を守るためにどのような行動したらよいか考えましょう。


- 2 自分の身を守るだけでなく、家族や地域の人のためにどんなことをしたらよいかを考えましょう。


- 3 今後、家にいるときに大きな地震が起きた際にどのようなことに気を付けて行動しますか。自分の家や家族を考えながら書きましょう。


月 日

年 組 番

私には何ができるのだろう

名 前

①避難した後、友達と笑って話をしている主人公はどのような気持ちだったのだろうか。

.....  
.....  
.....

②家に帰り「一万人以上の死者、行方不明者」という事実を知った主人公はどのような気持ちだったのだろうか。

.....  
.....  
.....

③「大黒柱になる」という少年の言葉を聞いた主人公はどのような気持ちだったのだろうか。

.....  
.....  
.....

④「私には何ができるのだろう」を自分におきかえて考えてみよう。

.....  
.....  
.....

「絆」

月 日

年 組 番

津波てんでんこ

名 前

① 安田さんにインタビューしている晴美たちは、どんな思いで話を聞いていたのだろうか。

.....

.....

.....

② 「津波てんでんこ」という言葉を聞いた主人公の気持ちはどんなだろう。

.....

.....

.....

③ 晴美はお風呂に浸かりながら「伝統文化」についてどんなことを考えたのだろう。

.....

.....

.....

・ 郷土の防災標語やスローガンを作ろう

○ 防災標語やスローガンはどのような思いで作りましたか。

「自然災害と防災への取り組み」 ワークシート

2年組 番氏名 \_\_\_\_\_

- 1 この写真を見た、あなたの考えを書きましょう。



Blank rounded rectangular box for writing answers to question 1.

- 2 自然災害は、

Blank rounded rectangular box for writing answers to question 2.

などのことを指す。

- 3 居住する地域で予想される災害は、

Blank rounded rectangular box for writing answers to question 3.

- 4 災害時、第一に取るべき行動は、

Blank rounded rectangular box for writing answers to question 4.



## 「わたしたちの政治参加」 ワークシート

3年組 番氏名 \_\_\_\_\_

- 1 次の文章を読んで、あなたが感じたことを書きましょう。

平成23年3月22日（火）

被災された市町村の首長さまへ

東北地方整備局長  
徳山日出男

災害復旧、お疲れ様でございます。昨日もお手紙を差し上げましたが、本当に国土交通省所管事務以外のことで結構です。何なりとお申し付けください。

（中略）

実際、各方面に直接電話して、直接買い付けたり、持っている方をお願いしたりしました。

まだ、「国土交通省の整備局なんだからこんなことは無理だろう」という先入観をお持ちだと思います。大畠国土交通大臣からも、「国土交通省の枠を超えて政府代表の局として対応せよ」と言われておりますので、本当に何でも遠慮なく言ってください。

（中略）いつでもお手伝いさせていただきます。

- 2 防災マップを見た感想

- 3 学習を振り返って

## 天気とその変化

2年 組 番 氏名 ( )

1. 夏の天気や台風について知っていることを書き出しましょう。

2. 夏の天気の注意点や台風による災害とその対策について考え、班で話し合いました。

★自分の考え

注意点・災害	対策（私たちにできること）

★班員の考え

注意点・災害	対策（私たちにできること）



## 「AEDの使い方」

1年 組 番 氏名

今日の学習

- ・心肺蘇生法を手順に沿って実習
- ・AEDの設置場所をチェック！

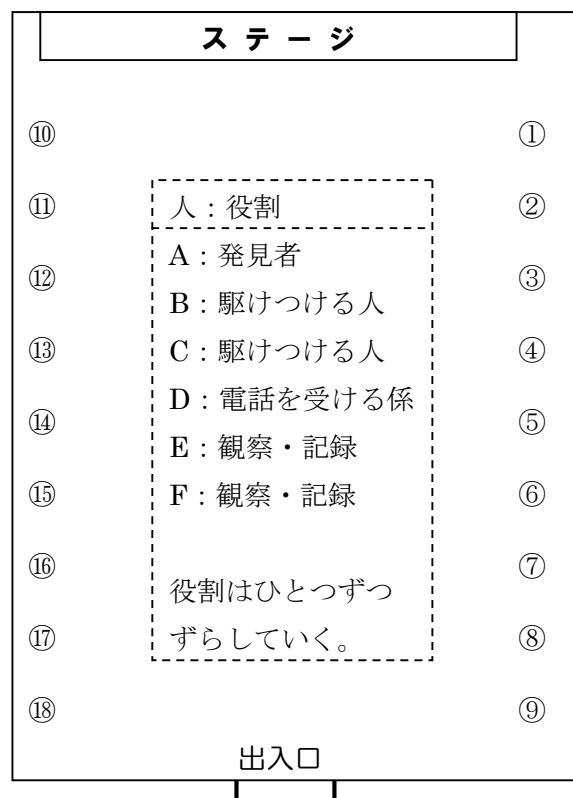
今日の要点

○

## 実習班例

1班	1組男子 1～6番
2班	1組男子 7～12番
3班	1組男子 13～18番
4班	2組男子 1～6番
5班	2組男子 7～12番
6班	2組男子 13～18番
7班	3組男子 1～6番
8班	3組男子 7～12番
9班	3組男子 13～18番
10班	1組女子 1～6番
11班	1組女子 7～12番
12班	1組女子 13～18番
13班	1組女子 1～6番
14班	1組女子 7～12番
15班	1組女子 13～18番
16班	1組女子 1～6番
17班	1組女子 7～12番
18班	1組女子 13～18番

## 実習場所（壁に班番号と資料あり）



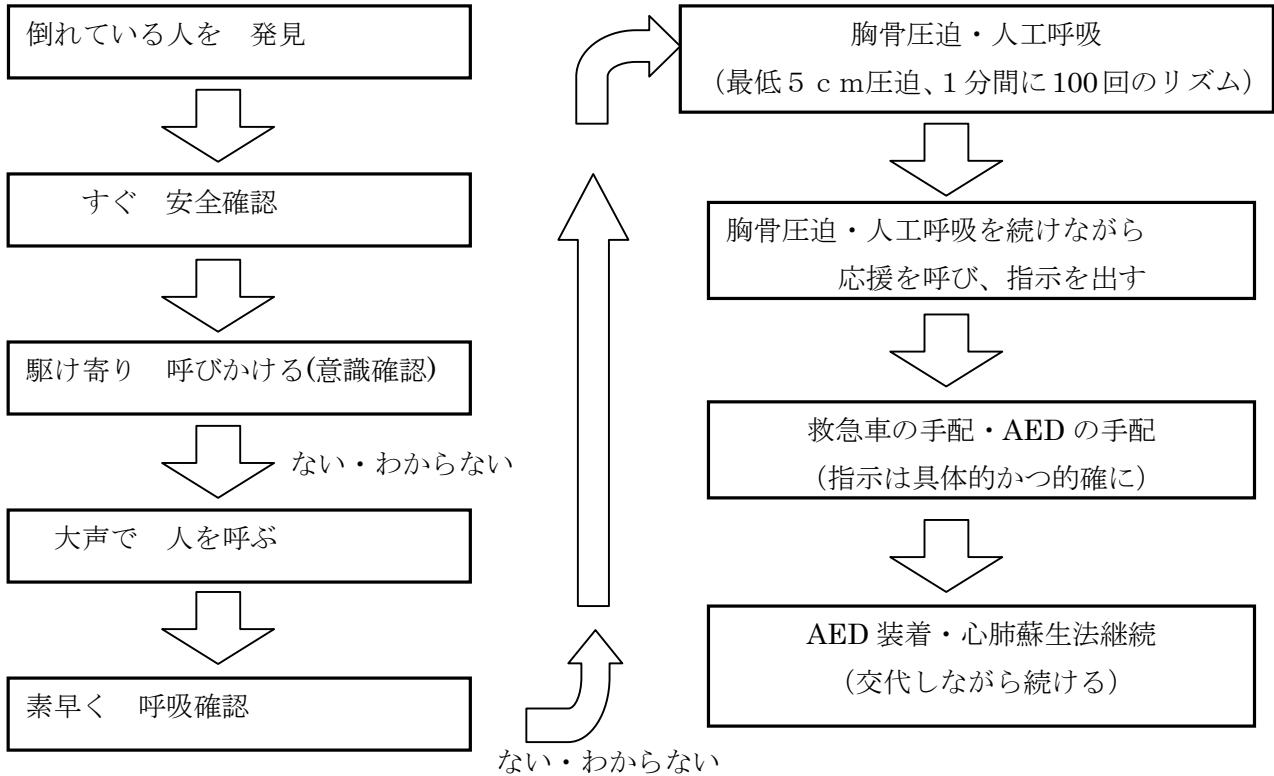
## AEDの設置場所（すぐに持って来られるように、覚えておこう！）

<校内>

<よく行くところ>

<自宅の近く>

## 実習の動き ( CD の指示に従って正しく素早く実習しましょう )



## こんな時はどうするの? ( 疑問や不安に思ったことを記入して、確認 )

( 記入例 )

心臓が動いている人に胸骨圧迫をしてしまっても大丈夫なのか? →

呼吸をしているかよくわからないけど、人工呼吸はするべきか? →

呼吸はないが心臓は動いている。何をすべきか? →

AED がショックの必要がないと言っているが、他に何をしたらいいかわからない。→

## 実習のまとめ ( いざという時には行動できるようになりましたか? )

# 自然災害による傷害

2年 組 番 氏名

どこで何が起きたか

その時に、何が危険か  
何に困るか

その事態への対応・事前に備えられること

学校で昼休みに震度7の大地震。  
学校は海から2km、標高は20m。

よく行くショッピングセンターで  
夜7時、火災。停電した。

高校から下校途中にゲリラ豪雨。  
いま、地下鉄に乗っている。

※その他の例については、「中学生向けの危機管理・防災に関する教材」第4章 場面ごとに考える P4-1～P4-4 参照

**実習のまとめ** (いざという時におちついて行動できそうですか? 備えは足りそうですか?)

# 地域を災害から守ろう①

1 年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1 「釜石の奇跡」について～アニメーションを見て感想を書こう

.....

2 自然災害発生時、被害を最小限にするためには、どのようなことをすればよいか考えよう

① さいたま市の防災対策について学ぼう

.....

② 学校において、わたしたちができることを考えよう

.....

③ 家庭（地域）において、わたしたちができることを考えよう

.....

## 地域を災害から守ろう②

1 年 組 番 氏名

1 「災害ボランティア」はどのような活動を行っているか。

.....

2 「災害ボランティア活動」の体験をしよう。

①体験した内容について書こう

.....

②体験をしてわかったことや考えたことをまとめよう。

.....

③友達の発表を聞き、参考になったことを書こう。

.....

◆事前アンケート用紙

**大地震発生時の行動を考えよう！**

年 組 番号 氏名

---

「さいたま市で今、大きな地震が起きました。」

質問1. あなたはどのような行動をとるべきだと思いますか。

.....

.....

質問2. あなたはどんな状況でも落ち着いて行動できる自信はありますか？

とてもある だいたいある あまりない まったくない

質問3. 「あまりない」「まったくない」と答えた人に聞きます。

落ち着いて行動できない理由は何ですか？

.....

.....

◆本時ワークシート（参考：「中学校向けの危機管理・防災に関する教材」資料・ワークシート集）

**大地震発生時の行動を考えよう！**

年 組 班 番号 氏名

---

1 地震発生時、いろいろな場面における安全確保のために具体的にどのようなことに気を付けて行動すればよいか考えましょう。

グループ【場所： 】

(1)  の場面

[自分の考え] .....

[友達・話し合い] .....

(2)  の場面

[自分の考え] .....

[友達・話し合い] .....

(3)  の場面

[自分の考え] .....

[友達・話し合い] .....

2 今日の学習で話し合い、わかったことや考えたことをもとに大地震が起こった時に、中学生としてどのように行動したいと思いますか。具体的に書きましょう。

3 学校で実施した避難訓練の際の自分の行動を振り返りましょう。



◆事前アンケート用紙

## 災害時に私たちができることを考えよう

年 組 番号 氏名

質問1. あなたは家族の避難場所がどこか知っていますか。

ア:知っている ( ) イ:知らない

質問2. 避難場所で活動するのはどのような人だと思いますか。

.....

質問3. 避難場所ではどのような活動が必要だと思いますか。

.....

◆本時ワークシート (参考: 中学校向けの危機管理・防災に関する教材) 資料・ワークシート集

## 災害時に私たちができることを考えよう

年 組 班 番号 氏名

・中学校が避難場所になった場合、中学生としてどのような活動ができるか考えましょう。

(1) テント設営

自分の考え.....

[友達の意見・話し合い]

(2) 炊き出し

自分の考え.....

[友達の意見・話し合い]

(3) 運搬作業

自分の考え.....

[友達の意見・話し合い]

(4) 応急手当

自分の考え.....

[友達の意見・話し合い]

(5) 受付・誘導

自分の考え.....

[友達の意見・話し合い]

(6) 仮設トイレ設置

自分の考え.....

[友達の意見・話し合い]

2 今日の学習での話し合いを通して、今後中学校が避難場所になったときに、中学生としてどのように行動したいと思いますか。具体的に書きましょう。



# 4 参考



(1) 防災教育に関する指導内容

文部科学省学習指導要領解説より抜粋

(※は、さいたま市独自の内容)

ア 小学校

教科等	学年等	指導内容
社会	第3学年 及び 第4学年	○関係機関が災害の防止に努めていることや緊急に対処する体制をとっていることなどを調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。
	第5学年	○地形や気候の概要、自然災害の防止について調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連を持っていることを考えるようにする。 ○情報化社会の様子と国民生活の関わりについて調べ、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや、情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする。
	第6学年	○国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していることについて調べ、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考えるようにする。
理科	第5学年	○流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、流れる水の働きと土地の変化の関係についての考えをもつことができるようにする。 ○雲の動きなどを調べ、天気の変化の仕方についての考えを持つことができるようにする。
	第6学年	○土地は、火山の噴火や地震によって変化するなど、土地のつくりと変化についての考えをもつことができるようにする。
生活	第1学年及び 第2学年	○集団や社会の一員としての自分の役割や行動について考え、安全で適切な行動ができるようにする。
体育	第5学年及び 第6学年	○けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当ができるようにする。※AEDについても触れる
総合的な学習の時間		○国際理解、情報、環境、健康・福祉などの横断的・総合的な課題についての学習活動、地域の人々の暮らしなど、学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと。
特別活動	共通事項	○心身ともに健康で安全な生活態度の形成。
	学校行事	○安全な行動や避難行動、規律ある集団行動の体得などに資するような活動を行うこと。
道徳	全学年	○健康や安全に気を付け、身の回りを整え、規則正しい生活をする。 ○生きることを喜び、生命を大切にする心をもつ。 ○働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つことをする。 他

## イ 中学校

教科等	領域等	指 導 内 容
社会	地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる。</li> <li>○地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考える。</li> <li>○生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めて地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を養う。</li> </ul>
理科	第2分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大地の活動の様子や身近な岩石、地層、地形などの観察を通して、地表に見られる様々な事物・現象を大地の変化と関連付けて理解させ、大地の変化についての認識を深める。</li> <li>○気象現象について、それが起こる仕組みと規則性についての認識を深める。</li> <li>○自然がもたらす恵みと災害などについて調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察すること。</li> </ul>
保健 体育	保健分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。</li> <li>○応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、応急手当には心肺蘇生法等があること。</li> <li>※中学1年で、AEDの使用を含む心肺蘇生法の実習を行う。2・3学年でも可能な限り実習を繰り返し、一層の定着を図ることができるようにする。</li> </ul>
技術・家庭		<ul style="list-style-type: none"> <li>○室内の安全について、自然災害を含む家庭内の事故やその原因について考え、災害への備えや事故の防ぎ方などの安全管理の方法が分かり、安全な住まい方の工夫ができるようにする。</li> </ul>
総合的な学習 の時間		<ul style="list-style-type: none"> <li>○国際理解、情報、環境、健康・福祉などの横断的・総合的な課題についての学習活動、地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと。</li> </ul>
特別 活動	学級活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティア活動の意義の理解と参加</li> <li>○健康で安全な生活態度や習慣の形成</li> </ul>
	生徒会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティア活動などの社会参加をすることができるようにする。</li> </ul>
	学校行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全な行動や規律ある集団行動の体得、責任感や連帯感の涵養などに資するような活動を行うこと。</li> <li>○ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。</li> <li>※地域の関係機関と連携した実践的な避難訓練の実施や地域と一体となった避難訓練の実施等により、進んで防災対応能力を身に付けようとする態度を育てる。</li> </ul>
道徳		<ul style="list-style-type: none"> <li>○生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。</li> <li>○勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める態度を育てる。 他</li> </ul>

## (2)放射線について

### はじめに

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震（マグニチュード9）によって東京電力株式会社福島第一原子力発電所で事故が起こり、放射線を出すものが発電所の外に出てしまいました。

放射線の影響を避けるため、この発電所の周りに住む方々が避難したり、東日本の一部の地域で水道水や食べ物などを飲んだり食べたりすることを一時的に止められたことがありました。

このようなことから、放射線についての疑問や不安を感じている人が多いと思い、放射線について解説・説明した副読本を作成しました。

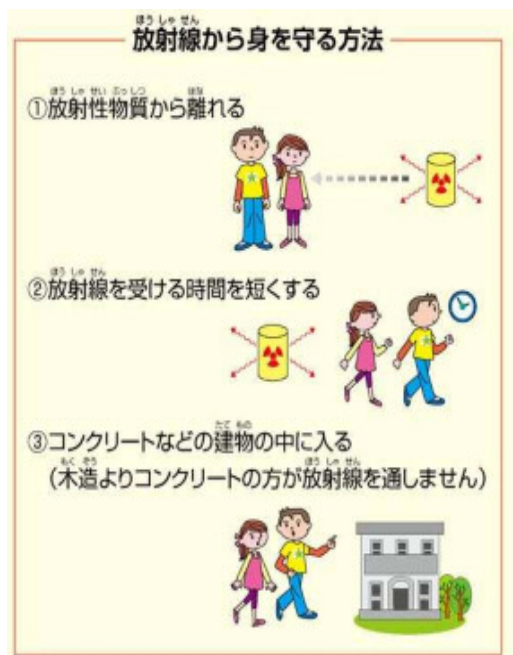
この副読本では、放射線が身近にあることや色々なことに利用されていること、放射線による人体への影響、放射線の測り方や放射線から身を守る方法などについて紹介しています。

## ・放射線から身を守るには？

### ・事故の時に身を守るには

・放射性物質を利用している施設の事故によって、放射性物質が風に乗って飛んでくることがあり、この時に放射性物質から出る放射線を体の外からと体の中から受けることがあります。

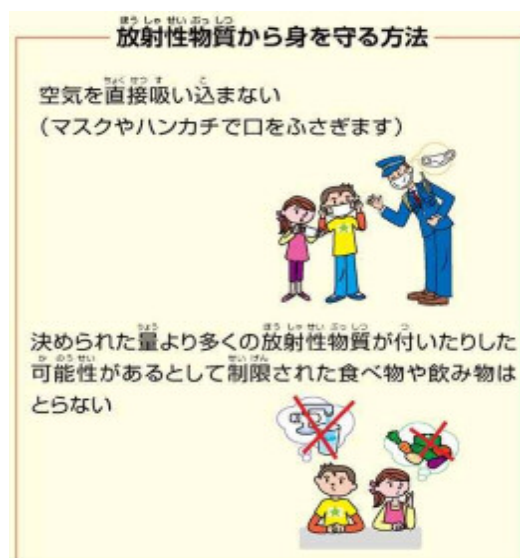
体の外から受ける量を少なくする方法があります。



一つは放射性物質から離れること、もう一つは放射線を受ける時間を短くすること、そして放射線を通しにくい建物の中に入ることです。建物の中に入った時は、放射性物質が建物の中に入らないようにドアや窓を閉め、外から空気を取り込むエアコンや換気扇の使用を控えるなどの対策を取ることが大切です。また、長袖を着ることにより、放射性物質が体に付かないようにすることができ、服や体に付いても放射性物質を洗い流すことができます。

体の中から受けることから身を守るには、体の中に放射性物質が入らないようにマスクをしたり、放射性物質が決められた量より多く入ったりした水や食べ物をとらないように気を付けたりするなど対策を取ることが大切です。

なお、体の外から放射線を受けたことを原因として、人が放射線を出すようになることはなく、かぜのように人から人に伝染することはありません。



## ● 事故が起こった時の心構え

- 放射線を使っている施設で事故が起こり、施設の周りへの影響が心配される時には、市役所、町や村の役場、あるいは県や国から避難などの指示が出され、この指示に基づいて、学校から児童や保護者に指示が伝えられることがあります。

その際、うわさなどに惑わされず、落ち着いて行動することが大切です。

事故後の状況に応じて、指示の内容も変わってくるので注意が必要です。

また、時間がたてば放射性物質は地面に落ちるなどして、空気中に含まれる量が少なくなっていく、エアコンや換気扇などを使うことができ、マスクをしなくてもよくなります。

このように、事故が収まってくれば、それまでの対策を取り続けなくてもよくなります。



退避や避難をする時、どのようなことに気を付けたらよいか、家庭で話し合ってみよう。

### (3) 避難場所運営委員会について

避難場所の円滑な運営には、避難者の協力が必要不可欠であるため、さいたま市では避難場所ごとに避難予定の自治会長など地域のリーダーになれる方と施設管理者(学校関係者等)、市職員等からなる避難場所運営委員会の設置を推進しています。避難場所運営委員会では、災害時に避難場所の円滑な運営ができるよう、以下のような訓練を実施しています。

#### 避難場所運営訓練スケジュール(例)

想定	時間	訓練内容	想定	時間	訓練内容
○月○日 (金)	16:30	1. 地震発生 2. 運営委員会役員・担当職員の集合【ミーティング】 3. 避難誘導実施【各自治会等】 4. 災害時要援護者の安否確認【民生委員】	○月○日 (金)	21:30頃	22. 「各班ミーティング2」を実施【夜間訓練の活動や情報の提供を実施】 23. 各班の夜間活動を実施します 《主な活動は下記の通りです》 ・総務班【災害調整本部との連絡・調整。防火・防犯等。運営委員会の庶務・記録】 ・情報班【避難者に対する、運営委員会が決定した事項の伝達】 ・救護班【災害要援護者等への支援】 ・食糧班【食糧・飲料水の調達・管理等】 ・物資班【物資・防災資機材の調達管理】 ・環境班【ごみ置場・トイレ等の衛生管理。冷暖房等の生活環境・生活用水の管理】
	17:00	5. 避難場所開設【運営委員会】		30	24. 「避難場所運営会議2」の開催
	17:00	6. 運営本部設置 7. 避難者の受付【総務班等・担当職員】 8. 運営委員会役員及び担当職員への訓練説明【担当職員】 9. 夕食の食材準備を開始【食糧・物資班】 【17:40から家庭科室で夕食など準備実施】 【運営本部は食糧班にマイクで指示する】		45	25. 就寝準備(毛布の貸出等)【物資班等】 26. 就寝 27. 夜間巡回訓練 【NO.23に記載してある事項を実施します】
	17:40	10. あいさつ(実質17:40~18:00) 【避難場所運営委員会/所長・校長・班長】		22:00	28. 起床
	18:00	11. 「避難場所運営会議1」の開催(10分) 【避難場所運営委員会(班長等)】 12. 居住スペースの割り振りを実施【総務班など避難住民全員】(20分) 13. 全員へ訓練説明【担当職員】(10分) 【防災倉庫の位置と備蓄品の説明を実施】 14. 避難場所生活に関する説明(10分) 【総務班が全避難者に対して実施する】 15. 上記、終了後「各班ミーティング1」を実施(10分) 16. 物資配給訓練【物資班】 【物資(食糧)の受入と搬送を実施】		6:00	29. ラジオ体操
	18:50	17. 夕食の配膳開始【食糧班など】 【19:00に夕食が食べられるように実施】		6:30	30. 各班はNO. 23の活動を実施し、その状況を総務班に報告する。
	19:00	18. 夕食【45分間を予定しています】		6:45	31. 「避難場所運営会議3」の開催
	19:45	19. 食事終了後の片付け【20:00に終了】		7:00	32. 朝食(パン・ジュース)【食糧班など】
	20:00	20. 消防署による訓練等実施(19:45~20:00資器材準備) ①ビデオ上映【東日本大震災を予定】 ②応急救護訓練【桜消防署救急隊】 【ビデオ上映(40分)・実技(40分)を予定】		15	33. 後片付け ・毛布の返却 ・資機材の撤去 ・防災倉庫の戸締り
	21:30頃	21. 消防署による訓練終了《消防署》		30	34. アンケートの実施・回収
			45	8:00	35. 避難場所閉所 36. あいさつ 《避難場所運営委員会/副所長》
				8:15	37. 訓練終了【解散】
				45	



## (4) 参考情報等

### さいたま市

避難場所運営委員会（運営委員会の構成、活動内容等。マニュアル含む）  
<http://www.city.saitama.jp/www/contents/1311572580093/index.html>

さいたま市危機管理防災情報トップページ  
（危機管理防災に係る広報、防災気象情報へのリンク等）  
<http://bousai.city.saitama.jp/>

#### S-net ライブラリ

各避難場所備蓄品

[総務局/危機管理部/防災課/備蓄/避難場所別備蓄品一覧](#)

避難場所運営・開設要領等

（避難場所担当職員向けの開設要領、施設管理者向け研修会の資料等）  
[総務局/危機管理部/防災課/避難場所](#)

災害用 PHS（配布した PHS の取り扱い要領、電話番号）

[総務局/危機管理部/防災課/災害用 PHS](#)

埼玉県防災情報メール（埼玉県）

（個人で登録することで、気象警報等をメールで受信することができる。）  
<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/903-20091202-28.html>

地震に備えた防災総点検について（埼玉県）

（埼玉県による、学校も含めた防災に関する点検シート）  
<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/bousaitenken.html>

深層崩壊の特徴（国土交通省）

[http://www.mlit.go.jp/river/sabo/deep\\_landslide/tokucho.pdf](http://www.mlit.go.jp/river/sabo/deep_landslide/tokucho.pdf)

平成 24 年 全国の土砂災害件数（国土交通省）

[www.mlit.go.jp/river/sabo/jirei/h24dosha/h24doshasaigai\\_gaiyo.pdf](http://www.mlit.go.jp/river/sabo/jirei/h24dosha/h24doshasaigai_gaiyo.pdf)

雪崩とは（国土交通省）

[www.mlit.go.jp/river/sabo/link81.htm](http://www.mlit.go.jp/river/sabo/link81.htm)

学校施設における非構造部材等の耐震対策事例（平成 17 年 12 月 国立教育政策研究所）

<http://www.nier.go.jp/shisetsu/pdf/jirei.pdf>

「地震による落下物や転倒物から子どもを守るために～学校施設の非構造部材の耐震化ガイドブック～」（平成 22 年 3 月 文部科学省）

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shisetu/shuppan/1291462.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/shuppan/1291462.htm)

「台風・集中豪雨に対する学校施設の安全のために」（平成 17 年 3 月 文部科学省）

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shisetu/shuppan/05030701.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/shuppan/05030701.htm)

「緊急地震速報～まわりの人にも声をかけながら あわてず、まず身の安全を!～」（平成 21 年 11 月 気象庁）

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/eew201101/index.html>



「大雨や台風に備えて」(平成21年3月 気象庁)  
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/ooametyphoon/index.html>

「竜巻から身を守る～竜巻注意情報～」(平成21年3月 気象庁)  
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tatumaki/index.html>

「竜巻等突風災害とその対応」(平成19年6月 内閣府・気象庁)  
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tornado/index.htm>

「局地的大雨から身を守るために」(平成21年3月 気象庁)  
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/kyokuchiame/index.html>

防災情報のページ(内閣府)  
<http://www.bousai.go.jp/>

防災教育支援ページ(国土交通省)  
<http://www.mlit.go.jp/bosai/education/index.htm>

気象庁ホームページ  
<http://www.jma.go.jp>

緊急地震速報について(気象庁)  
<http://www.seisvol.kishou.go.jp/EEW/kaisetsu>

総務省消防庁ホームページ  
<http://www.fdma.go.jp>

防災・危機管理e-カレッジ(総務省消防庁)  
<http://www.e-college.fdma.go.jp>

## 参考文献

文部科学省	小学校学習指導要領解説	H20.8
	中学校学習指導要領解説	H20.9
	「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育	H22.3
	学校防災マニュアル(地震・津波被害)作成の手引き	H24.3

## 参考資料

文部科学省	防災教育の支援のあり方	H8.5
	学校等の防災体制の充実について	H8.9
	学校安全の推進に関する計画	H24.4
	「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理に関する有識者会議」 最終報告	H24.7
さいたま市 教育委員会	さいたま市立学校児童生徒事故等危機管理対応マニュアル作成指針	H24.4
	震災時における児童生徒の安全確保等の指針	H24.6
	体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKAモデル～	H24.9

## 監修

市川 宏雄 明治大学危機管理研究センター 所長  
中林 一樹 明治大学危機管理研究センター 特任教授

## 作成委員

◎委員長 ○副委員長

◎井上 均	指扇北小学校	校 長
○加藤 明良	慈恩寺中学校	校 長
吉峯 真太郎	与野八幡小学校	教 諭
藤川 徹之	慈恩寺中学校	教 諭
三谷 奈穂	仲本小学校	教 諭
篠原 愛	土合中学校	教 諭
中川 里佳	中島小学校	教 諭
中村 文彦	大谷場中学校	教 諭
西田 将司	片柳小学校	教 諭
友廣 孝二郎	八王子中学校	教 諭
持木 信治	針ヶ谷小学校	教 諭
生田目 宗典	田島中学校	教 諭
阿部 由美子	大牧小学校	教 諭
渡部 智昭	城北中学校	教 諭

## 事務局

新井 英人	さいたま市教育委員会学校教育部参事兼健康教育課長
島村 光一	さいたま市教育委員会学校教育部健康教育課課長補佐
石川 顕一	同 主任指導主事兼係長
松井 直樹	同 主任指導主事
高山 俊介	同 主任指導主事
佐藤 博志	同 主査
井出 雅是	同 主事